

2009
Vol.18
関門地域研究

斜面地居住の生活問題

は じ め に

北九州市立大学都市政策研究所と下関市立大学地域共創センターは、1994年に、関門地域の経済振興と交流発展に資することを目的に、「関門地域共同研究会」を設置し、以来今日まで関門地域に関する調査研究に取り組んでまいりました。そして、毎年度その研究成果を調査報告書『関門地域研究』として刊行すると共に、成果報告会を開催して、関門地域の活性化の在り様について地域の皆様と率直な意見交換を行ってまいりました。この共同研究が2つの大学の地域研究の発展につながり、さらには北九州市と下関市の地域連携にいささかなりとも寄与できたとすれば、それは当研究会にとって望外の喜びであります。

過去15年間に取上げたテーマは、「地域住民意識調査」、「関門港」、「関門経済圏」、「環境」、「国際経済協力」、「金融」、「国際観光振興」、「ベンチャー創出・育成」、「ソーシャル・キャピタル」、「道州制と関門特別市構想」です。これらのテーマはその時々時代の潮流を反映して多岐にわたっていますが、しかし、いずれも海峡をはさんだ関門地域ならではの地域特性を鋭く捉え、地域課題に挑戦しているという点で一貫しています。

今年度のテーマは、斜面地（坂道の地域を含む）居住の生活問題と社会関係を取り上げることにいたしました。高齢化の進んでいる北九州市と下関市にとって、高齢者の斜面地居住問題や自治組織をどのように捉え、その問題を今後の地域づくりにどのように活かしていくかは緊急の地域課題となっているからです。

この調査の成果報告会は21年度早々に開催いたしますので、会場にお運びくださり、ご叱正、ご助言をいただければ幸いです。

2009 年 3 月

2008 年度 関門地域共同研究会会長

北九州市立大学都市政策研究所所長

晴 山 英 夫

目 次

第1章 斜面地居住高齢者の生活問題

I 調査地の概要	3
II 調査の手続き	6
第1節 距離と社会関係に視点を置いた高齢者の生活問題	6
第2節 調査結果の概要	16
I 調査内容と斜面地居住者の区分方法	16
II 買い物と通院の問題	19
III 地域の社会関係	26
IV 地域の助け合い	30
V 地域の変化や愛着について	34
VI 転居や日常生活の安心	37
VII 対象者の基本属性	40
付表	
調査票	46
結果の集計表	51

第2章 末端の住民自治組織「自治町会（町内会）」等の現状と課題に関する考察

1 調査の目的	77
2 中尾三丁目自治町会の概況	77
3 調査方法と調査内容等	79
4 調査結果の概要	79
5 調査結果 若干の分析	79
6 事後対応と、その後の「途中経過」	92
7 結びにかえて	97
付表	
調査票	101
集計概要表	104

第3章 坂道の多い地域で生活する高齢者の健康に関する研究

1 はじめに	123
2 高齢者のリハビリテーションと地域生活	124
3 高齢者の住環境とバリアフリー	125
4 下関市の高齢者に関する状況	126
5 下関市でのアンケート調査の分析	128
6 おわりに	132
調査票	134

斜面地居住の生活問題と社会関係

第1章 斜面地居住高齢者の生活問題

—距離と社会関係に視点を置いた生活問題—

昨今の生活の郊外化は自動車を利用出来ることで成立しているともいえる。つまり、近年の都市の変貌は多数の大規模店・量販店が郊外に出店し始めたことで始まる。生活の郊外化である。地価の安い国道やバイパス沿いに出店が始まったのが80年代後半のことであり、それまでのモータリゼーションに伴う都市の変貌とは全く異なる変貌をしつつある。これまでのモータリゼーションによる都市の変貌は路面電車の姿を都市から消し、複合商業施設を都心部に再開発することで、デパートやブランドショップを核とした商業施設周辺で人の回遊を誘う変貌であった。大型スーパーも中心市街地の商業施設の核として、あるいは住宅地に出店した。しかし、地元商店街との商業調整を嫌った大規模店・量販店が郊外に出店し始めたのが、そのような都市の変貌と異なる変貌の始まりであり、90年代には規制緩和により商業調整不要となってもこの傾向は続いた。これを可能とした要因は地方の生活者の自動車保有台数の多さである。平成18年版国民生活白書（p274）によれば乗用車の世帯当たりの普及率は83.9%である。首都圏や関西圏、中部圏よりも地方都市の方が普及率は高く、世帯に1台から成人一人に1台に近い普及率になっていると思われる。このように自由に利用できる自動車があれば、買い物先は近い必要がない。中心市街地で自動車の駐車場を探すより、広々とした駐車場がある郊外の大規模店・量販店のほうが都合がよい。しかも、複数のスクリーンを備えた映画館を含む複合施設やモールやアウトレット等が集積するに至り、地方都市の中心市街地も含め商店街、小売店が衰退した。駅前のデパート後の店舗が空き家のまま長く放置される等の現象が多く、地方都市で現実となった。商店街の再生が模索されているが、多様な試みが一時的効果を示しても継続的・持続的で確実な方法はみあたらない。首都圏や関西・中部圏の大都市で多い公共交通の利用は、地方都市には当てはまらないのである。免許取得可能年齢以上の青壮年層の大部分が自動車運転を日常化し、自動車の運転の有無による距離の捉え方や生活圏の捉え方等の違いは地方では大きいのである。

そこで、この調査であるが、生活の郊外化と自動車の運転の有無からいえば、高齢者には不利である。まして、斜面地に居住している高齢者は自動車利用が難しい上に坂道、段差、路面の傾斜等の障害も加わり、更には街の変貌により、近くにあった商店街や小売店が消えている。坂道や段差、傾斜に距離というバリアが加わったのである。この点に着目しつつ、斜面地に居住する高齢者の生活問題に関する調査を実施した。調査は以下の疑問から始まった。

- ①斜面地居住により、利便性は落ちるであろう。それはどのような影響があるのか。
- ②斜面地居住は景観がよいということに加え、居住し続ける根拠や長所があるだろうか。
- ③斜面地とその他居住地と比較すると転居する条件がみえるだろう。

一方で、長く居住するうちに、地域の商店街や小売店が衰退・消失しても、地域に特有の社会関係資本がこれらのデメリットを相殺しているとも考えられる。

そこで、調査では4つの項目について質問をした。

一つは日用品の買い物、通院で困ることや生活で総合的に困ることと、斜面地に居住の利便性をどう評価しているか。二つ目は地域の行事や団体への参加、近隣との付き合い等の社会関係の有無。三つめは、相互の助け合い、支え合いから見る社会関係資本について。これにより利便性が落ちても社会関係資本が相殺しているかどうか。四つめは、地域の変化や景観への関心、転居の条件等である。

以下では、斜面地居住の生活問題について、主として日常生活の主要な行為である食料品・日用品の買い物に視点を置き、距離という側面からの問題を調査結果に基づき検討した。続いて、社会関係の量と質が社会関係資本として生活問題の解決に有益であるかについて検討した。これ以外は調査結果の報告に止めた。調査を実施するに当たり、以下の地域の方々にお世話になりました。

謝辞

調査地点は斜面地を含むことから清見校区にお願いし、調査は留置法で実施しました。調査の概要と調査の手続きで以下に記述した通り、清見校区社協の会長、副会長の両氏にお手数をお掛けし、福祉協力員の多大な協力を得たおかげで、通常の調査では不可能な高い回収率を得ることができました。この場を借りて深く感謝いたします。誠にありがとうございました。

また、以下でこの清見校区の概要と地域活動の一端であるウェルクラブについて紹介しています。

I 調査地の概要

1 清見校区の概要

清見校区は、門司区の北東部に位置し、門司港駅から東へ2 kmと交通の便もよく、校区内には、港が丘小学校・早鞆中学校があり、比較的閑静な住宅、文教地区となっている。

また、東西を八窪山（標高185m）、砂利山（標高254m）、筆立山（標高105m）の三つの山に囲まれた盆地状の地域となっていることから、傾斜地に暮らす住民が多いという特徴がある。

平成20年9月30日現在の住民基本台帳に基づく世帯数は2,973世帯（人口約6,300人）、高齢化率31.3%となっており、地元自治組織調べによると自治会加入率は、99%を超えているといわれ、近隣の結びつきも維持されている地域となっている。

平成11年度に「清見小学校」と「古城小学校」が統合し、「港が丘小学校」となっていることから、清見校区は「小学校区」ではなく、旧「清見小学校」の範囲で地域福祉活動を実施している地域である。

今回の調査では、ふれあいネットワーク事業を基本事業として実施している「清見校区社会福祉協議会」（坂口初一会長）の全面的な協力により、調査票の配布・回収が行われたことから、「清見校区」との名称を使っている。

清見校区社協は、昭和41年1月に、地域組織である自治会を中心として各種地域団体が協議、地域福祉事業を実施する組織として結成されている。

平成19年度の実績で清見校区社協の活動をみると、基本となるふれあいネットワーク事業では、67人の福祉協力員が、一人暮らし高齢者472世帯、高齢者夫婦世帯300世帯、昼間に高齢者だけになる世帯30世帯の合計802世帯に対して、平均月2回の見守り活動を展開している。

助け合い活動では、「話し相手」「ゴミ出し」「買い物」などを行い高齢者の支援を行っているほか、毎週火曜から金曜日までの4日間、1日平均14食の夕食弁当の配食を行い、安否確認を継続している。

特徴的な活動としては、平成17年度から、地元医師の協力により、使わなくなった診療所を借り受け、毎週火曜・金曜日の2日間「ふれあい生き生きサロン」を開設し、高齢者の集いの場作りを行っている。

また、同じく平成17年度から、次の世代の地域福祉活動者を育てるために、北九州市社協が推奨する「ウェルクラブ活動」に取り組み、夏休みの期間を中心としながら、地元小学生（19年度は、14人）が福祉協力員とともに高齢者世帯の訪問、「ふれあい生き生きサロン」、敬老会、ふれあい昼食会での交流活動（通年）を行っている。

平成13年に開設された「清見市民センター」を活動拠点に、活発な活動が展開されている地域である。センター開設と同時に、「まちづくり協議会」が結成されているが、校区社協としての独自の活動を進めている。

2 門司清見校区ウェルクラブ

1) 実施主体

門司区清見校区社会福祉協議会 会長 坂口 初一

2) 募集方法

- (1) 港が丘小学校の協力により募集チラシを配付しました。
- (2) 港が丘クラブバレー部の協力により募集チラシを配付しました。

3) 参加者数

- (1) ウェルクラブメンバー 14人
(小学校4年生～5年生)
- (2) 校区社協役員・福祉協力員 20人

4) 実施内容

活動日時	活動項目	活動説明
6月28日(土) 12:30～13:30	■ウェルクラブ発会式 ■ウェルクラブ活動説明会	児童、保護者、社協役員・福祉協力員等が出席し、ふれあいネットワーク事業・ウェルクラブ活動の説明と日程調整。
7月6日(日) 13:30～15:00	■福祉体験講座参加 (特別養護老人ホーム豊寿園)	門司区ボランティアセンター主催の福祉体験講座へ参加しました。
7月22日(火) 15:30～17:00	■一人暮らし高齢者宅の訪問(見守り活動)	3班に分かれ一人暮らし高齢者を訪問。いろいろな質問をしました。
7月28日(月) 15:30～17:00		
8月6日(水) 13:30～15:00	■施設訪問交流 (アイリスケアセンター早鞆)	レクリエーションの時間に訪問して、一緒に遊びました。
8月22日(金) 9:00～17:00	■ボーリング大会	子どもたちと福祉協力員や校区社協役員と一緒にボーリングを楽しみました。
8月29日(金) 13:30～15:00	■活動のまとめ	活動発表会に向けての資料を参加者みんなで作りました。
8月30日(土) 13:30～15:00	■ウェルクラブ活動発表会	ひと夏の福祉活動体験により芽生えた「小さなボランティアの心・想い」を発表しました。

5) 校区社協役員・福祉協力員の一言

- 高齢者の方から戦争体験を聞き、驚いていたが、子どもたちにもその思いが伝わったことなど、貴重な体験ができたと思います。
- 夏休み期間だけでなく、これからの社協行事にもぜひ参加してもらいたい。

6) ウェルクラブメンバー（小学生）の感想

■ I・Kさん（4年）

私は、今年初めてこの「ウェルクラブ」というボランティアに参加しました。最初は、ドキドキしました。でも、だんだんと慣れてきて、今まで一度も話したことが無い人と話ができて、私の知らない話や私を元気づけてくれる話や、いろいろな話をしました。おじいちゃんやおばあちゃんが楽しそうだったので、私も楽しくなりました。おばあちゃんは、私たちに孫みたいにかわいがってくれました。

あと、みんなで行ったボーリングも楽しかったです。スベアが少ししか入らなかったのが残念でした。でも、1番残念だったのはストライクが1回も入らなかったことです。もう、本当に悔しかったです。でも、楽しかったので来年も参加してみようと思います。

■ B・Aさん（5年）

私は今年で2年目のウェルクラブでした。去年はあまり6年生の人と仲良く話したりできなかったけど、今年はこのウェルクラブをきっかけに友達ができたり、おじいちゃんやおばあちゃんともちゃんと話したりできるようになりました。

1番最初の訪問では、少し緊張したけど、質問等を班の人と一緒に考えました。アイリスケアセンターでは、お年寄りの方と握手をしたり、棒体操をして楽しむことができました。特別養護老人ホーム豊寿園では、認知症について学んだり、お年寄りの方達が普段どのようにして生活しているか等たくさんの事を学びました。

さわやかめかり館では、夏休みの宿題の話で盛り上がりました。一番最後にお別れするとき、手を振ってみるとさわやかめかり館の人達も一緒に手を振ってくれました。あの一生懸命に手を振る姿は、今でも覚えています。

この経験を生かし、来年も参加したいと思いました。

7) 校区社協のまとめ

清見校区ウェルクラブ活動では、施設訪問や校区社協事業のサロン訪問等様々な活動を行っています。また、夏休み期間を終えた後も、ウェルクラブ参加児童に対して、校区社協事業への参加ご案内を行い、年間を通じたボランティア活動として行っています。

参加児童についても、様々な活動と行事の参加により、充実感と感動を得ることで、次年度の参加率も非常に高いようです。

Ⅱ 調査の手続き

1 調査の方法

調査は校区社協の福祉協力員の協力を得て、調査票を配布し、一定期間の記入期間を置いた後に回収する留置法により行った。

2 調査対象 校区の65歳以上の居住者全員である。

3 調査期間 2009年2月6日～20日

4 回収率等

配布票数900票 回収票数870票 有効票数870票 有効回収率（96.7％）

第1節 距離と社会関係に視点を置いた高齢者の生活問題

1 買い物の距離により生じる問題

(1) 歩いて暮らせる街

北九州市の基本構想の中に「歩いて暮らせる街づくり」がある。これは1960年代後半の商店街や市場、小売店が主要な買い物の場であり、下駄を引っかけて、あるいは仕事帰りに商店街や市場で買い物をする人が多かった（商店街や市場ににぎわいがあった）時代を生活拠点に再現しようという計画でもある。モータリゼーションに伴う都市の変貌も進んでおらず、戦後のベビーブーム世代が青年期を迎える頃である。1970年に高齢化率が7.1％となり、高齢化社会が到来する以前の頃の街中居住を再現する計画でもある。ただし、当時の人口構造は生産年齢人口が増加を見込め、若年労働力が豊富な時代でもある。今日では人口構造が変化し、高齢化率も20％を超えている。就業先を求めて若年者が都市へ流入した時代と高齢化が伸展し、若年人口が減少を続けている時代とでは人口構造のみでも背景が異なるのであるが、さらには生活の郊外化により、商店街や市場、小売店が衰退し、高齢化が伸展を続ける時代で問題となるのは、日々の買い物である。

生活の郊外化が自動車の運転の有無による生活の落差をもたらし、このことからいえば、高齢者には不利である。まして、斜面地に居住している高齢者は自動車利用が難しい上に坂道、段差、路面の傾斜等の障害も加わり、日常の買い物や通院の障害となる（斜面地居住の区分方法は第2節Ⅰ－2参照）。

それでは、歩いて暮らせる街の条件として、高齢者が歩いて買い物に行ける範囲はどの程度の距離であろうか。図表1にはこの調査により得られた、買い物際の交通手段と距離の関連を示した。これによると、自明のことであるが、距離が短いほど徒歩が多くなる。距離伸びると交通手段が多様になる。自家用車や公共交通機関による買い物が増加するのである。さて徒歩での買い物の境目はどの程度の距離であろうか。図表1には、斜面地居住とその他居住で異なることが示されている。つまり、居住環境が変われば、交通手段も変わることを意味しているが、居住環境としては人的資源も加えることができる。つまり、高齢者の場合は同居している子どもの有無、近隣の助け合いの有無等である。

これに関しては後で見るとして、図表1で分かる事は、買い物の居住が500メートル程度では徒歩が多いが、斜面地よりもその他の方が徒歩による買い物が高い比率を示している。また、その他では斜面地居住に全くなかった自転車も多く、徒歩と自転車で7割以上を占め、斜面地居住の場合は500メートルで公共交通機関や自家用車を利用する人が3割を超えている。1キロメートル以内になると、徒歩が減少するが、斜面地居住の4割に対して、その他居住では約6割が徒歩である。どちらも公共交通機関利用が増加しているが、その他居住の自家用車利用が増える一方で、斜面地居住では増加しない。

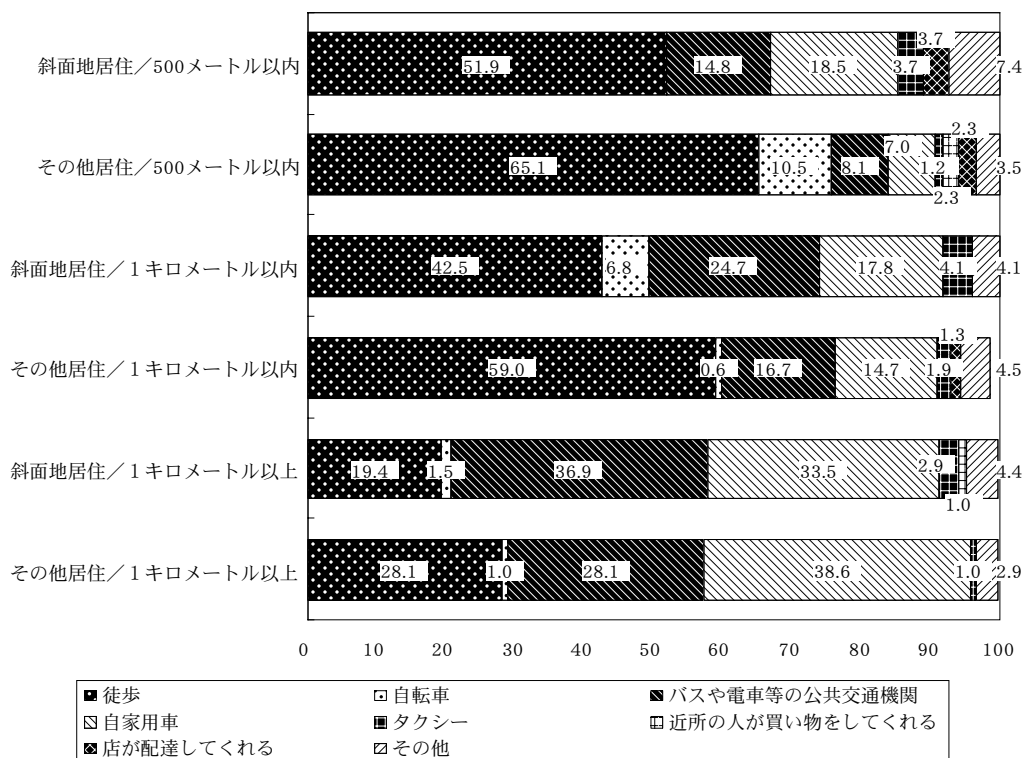
距離が1キロメートル以上になると、徒歩は更に減少し、公共交通機関と自家用車が7割近くあるいは7割を超えるようになる。

この結果から、距離に加えて斜面地・傾斜地が大きな生活の障害となっていることが分かり、さらには買い物の他に交通費と時間を必要とする等の要する費用の違いが生活環境により大きいことも同時に示唆している。

また、近所の人が買い物をしてくれたり、店が配達してくれる等の社会関係資本や人的資源は極く少ないことも分かる。

以上の結果から、歩いて暮らせる街は500メートル～1キロメートル以内であり、この距離も環境条件により大きく変化するといえる。

図表1 距離と交通手段の関係



(2) 人的資源としての家族

買い物と人的資源の関係として、家族構成を示したのが図表2である。居住地域により家族構成

には違いがないといえる。また、その他の世帯（主として子どもと同居）は3割未満であるから、図表1の1キロメートル以上の買い物には、高齢者自身の自家用車運転を含むことが分かる。

図表2 居住地域と家族構成

	合計	一人暮らしの世帯	夫婦だけの世帯	その他の世帯
斜面地居住	324 100.0	89 27.5	144 44.4	91 28.1
その他居住	546 100.0	163 29.9	235 43.0	144 26.4
合計	870 100.0	252 29.0	379 43.6	235 27.0

図表3は性別による世帯構成を示しているが、女性の方が一人暮らしが多い。男性は夫婦だけの世帯が多い。このため、買い物には女性が多く問題を抱えているであろうことを推測できる。

図表3 性別の世帯構成

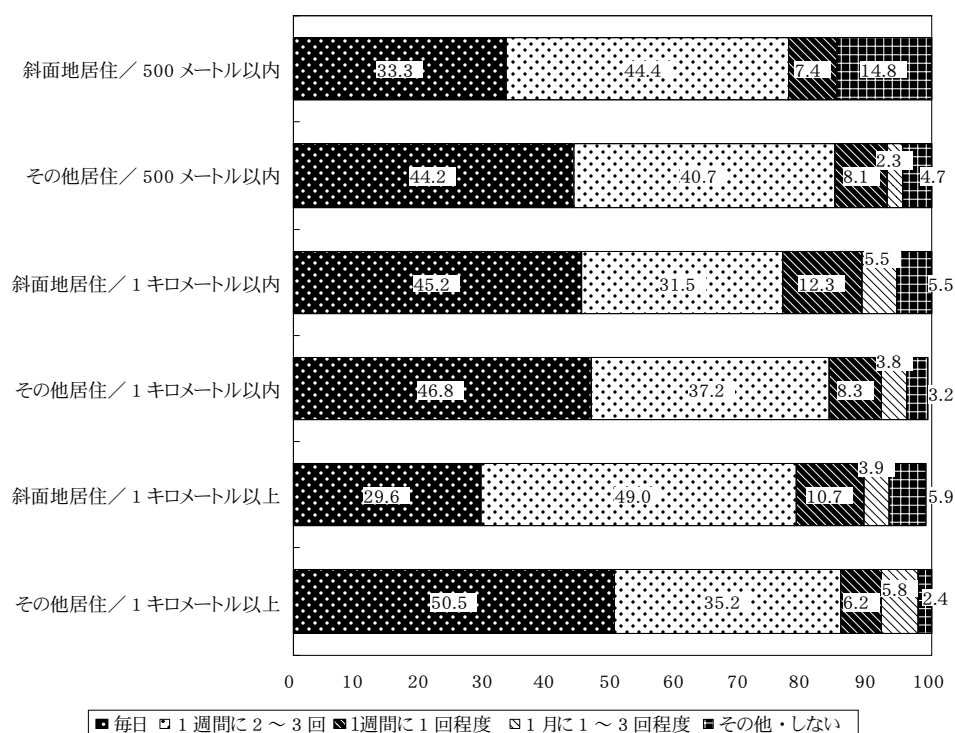
	合計	一人暮らしの世帯	夫婦だけの世帯	その他の世帯
男性	306 100.0	38 12.4	189 61.8	79 25.8
女性	560 100.0	214 38.2	189 33.8	156 27.9
合計	870 100.0	252 29.0	379 43.6	235 27.0

(3) 買い物の距離と頻度

距離が1キロメートル以上になると交通手段に変化が生ずることが分かったが、それでは買い物の頻度には変化があるであろうか。距離が遠いことや交通費を必要とすること等は持ち帰る荷物の量や、費用に影響することから、頻度にも影響すると思われる。持ち帰る量が少なければ、回数を増やすことで補うであろうし、費用がかかるのであれば、回数が少なくなるであろう。この関係は距離と頻度の関係で、どのように表れるのであろうか。図表4にその結果を示している。当然同居家族の有無で買い物の頻度は異なるであろうし、距離でも異なるであろう。

図表4により頻度を見ると、500メートル以内では斜面地居住とその他居住では「毎日買い物をする」と「その他・買い物をしない」で差が認められる。1キロメートル以内の距離では「毎日買い物をする」では差がないが、「週に2～3回」「週に1回程度」等に差がでている。つまりその他居住に比べると斜面地居住では買い物の回数が少ない方の比率が高い。また、距離が1キロメートル以上では斜面地居住は毎日買い物が少なく、週に2～3回が増加する。このように距離の違いと生活環境は買い物の頻度に少なからず影響している。

図表4 距離と買い物の頻度の関係



(4) 買い物の距離と場所

距離と環境は買い物の交通手段や頻度に影響が認められたが、買い物はどこに行っているのだろうか。例えば配達等のサービスが得られる店なのか、近所の小売店なのか、商店街なのか。

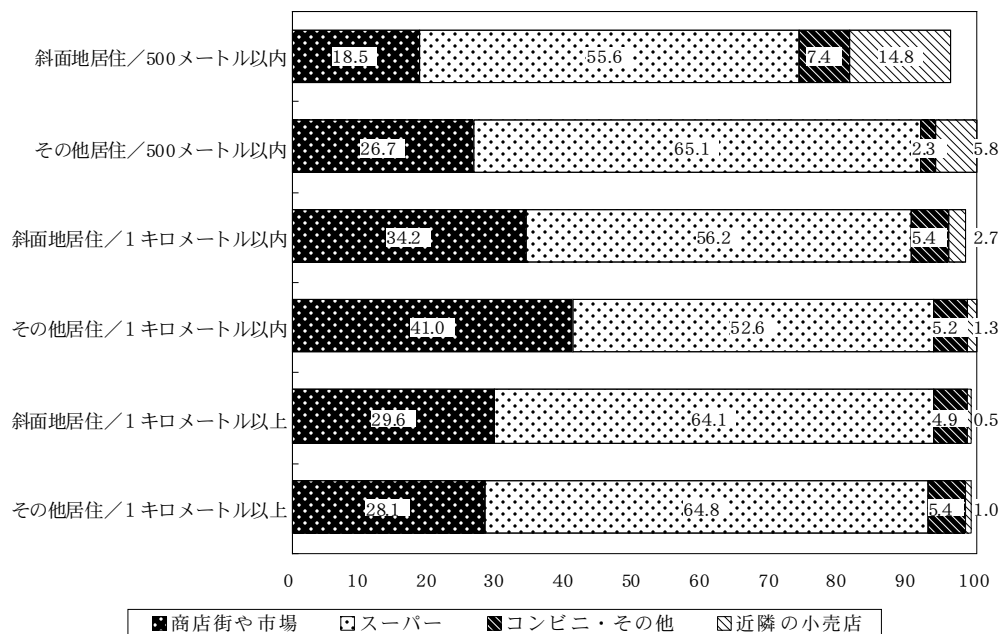
この点を確認したのが、下の図表5である。これによると、500メートル以内の斜面地居住の場合はその他居住に比べて、商店街や市場が少なく、スーパーや近隣の小売店が多いという結果であるが、これは居住地の近くに商店街や市場よりもスーパーや小売店が多いためであると考えられる。同様に、他の場所でも、斜面地居住とその他居住は1キロメートル以内では近くにある店を利用していることを示しているに過ぎないと考えられる。つまり1キロメートル以内に商店街や市場よりもスーパーがあるから、徒歩や自転車、公共交通機関を交通手段として利用するということがある。

この結果はしかし、1キロメートル以上になると異なるようである。1キロメートルを超えると斜面地居住もその他居住もほとんど同じ種類の店を利用している。ここでは買い物のしやすさや好みも反映していると思われるが、交通手段が自家用車や公共交通機関となり、行き先に商店街や市場が無い、あるいはスーパーが買い物をしやすいと考えている人の多いことを示唆している。

この結果は重要な示唆を与えてくれると思う。つまり、同様の距離に商店街や市場、スーパーやコンビニ、小売店があった場合の消費者の買い物行動と選好度を表すともいえる。特に、ここでは1キロメートル以上の場所に買い物に行く際に、スーパーと商店街や市場の選好を示唆している。同じ場所にあった場合はスーパーを6割、商店街や市場を3割が利用するであろうということである。一方、スーパー、商店街や市場までの距離が1キロメートル以内になると、近い方を利用する

可能性が高まるということである。商店街や市場は選好度の意味でも課題があるといえるかも知れない。

図表 5 距離と買い物をする場所の関係



(5) 買い物の距離と困ること

交通費や持ち帰る量等は距離に伴う問題として予測可能であるが、これ以外にも距離に伴い、困ることがあるのかを確認した結果が図表6である。図表6は最も困ることを一つだけ選択した結果であり、複数存在する困ることの中で最も困ることを示していると解釈できる。

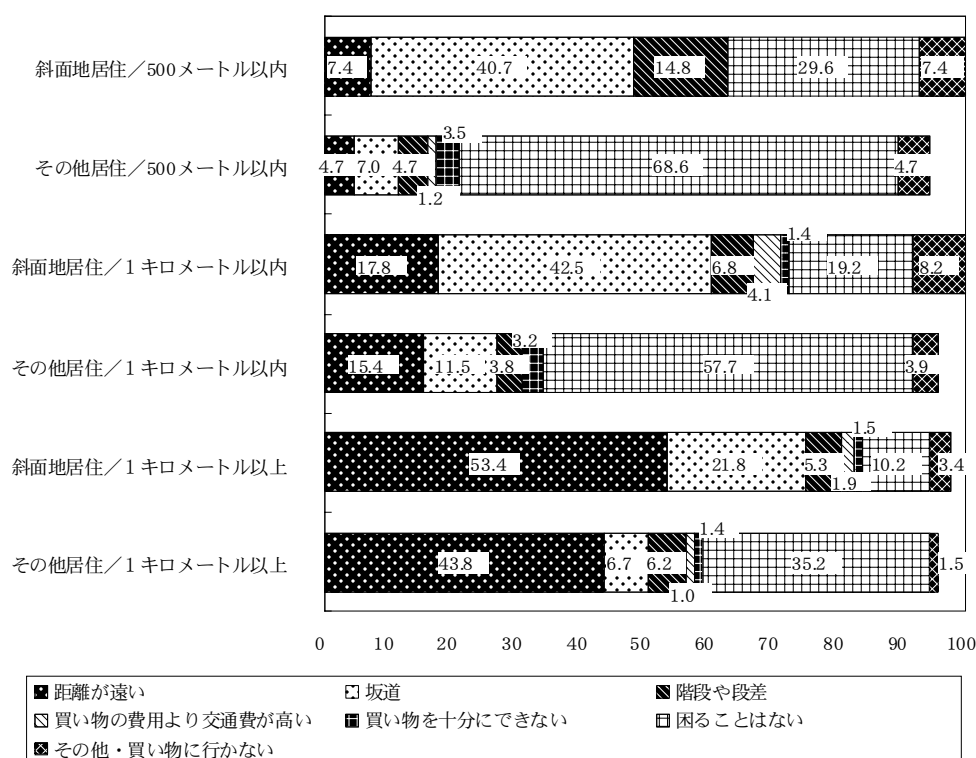
この結果によると、距離と困ることの関連で斜面地居住とその他居住では明らかに異なる。図表の通り、買い物に要する距離が500メートル以内でも斜面地居住では「困ることがない」は3割程度に止まり、坂道、階段や段差に困る人が5割以上である。一方でその他居住では「困ることはない」が約7割である。買い物が近くても斜面地が障害となっている。

1キロメートル以内になると、斜面地居住では距離と坂道を障害として意識する人が増加する。その他居住も距離や坂道や階段・段差を意識する人が増えるが、「困ることはない」という回答は斜面地居住では約2割に減少するが、その他居住では約6割である。

1キロメートル以上では距離が障害として最も意識され、坂道や階段・段差がこれに続く。一方、距離が1キロメートル以上になっても、「困ることはない」に関しては斜面地居住が約1割、その他居住は35.2%へと低下する。しかし、この差は明らかに大きいといえよう。

距離が障害として意識される比率から見て、歩いて暮らせる街は1キロメートル以内である。

図表6 距離と買い物で困ることの関係



2 社会関係と相互の手助け

ここでは近所の人との関係と相互の手助けを基に社会関係と社会関係資本について検討する。内容は近所の人との付き合いと年中行事や祭りへの参加、近所の人との付き合いの内容の居住地域での違い、相互の助け合いの程度である。

近所の人との付き合いは距離や生活環境により生じる問題を解決したり、減少したりする可能性があり、このような有益な社会関係であると考えられる相互の助け合いを社会関係資本と見なし、社会関係による社会関係資本の量と質を検討する。

近所の人との付き合いは日頃の交流により生じるのか、あるいは子どもを通じて生まれるのかであるが、今日では少子化のために、また子どもが少ないために、かつてのような頻繁に子どもの学校行事を通した親同士や子どもと地域の成人の関係を形成する機会は少なくなっている。機会はあっても子どもの数が少なく、社会関係を形成するほど回数がないままに終わる。このため、地域の社会関係も希薄化し、地域の教育力は低下している。これは地域で子どもを通した社会関係形成の機会が少なく、それを通じた共同作業が少ないことを意味しているとともに、それに変わる共同作業の機会も少なくなっている。地域の祭りがなくなるなどが典型であるが、ここではその意味で、初めに祭りや行事への参加と近所の人との付き合いの関連を見てみることにする。

(1) 近所の人との会話の頻度と年中行事への参加

図表7より、祭りや行事への参加では、好きで参加と役割で参加の計が89人で無回答と同数の1割程度にすぎない。参加している人と近所の人との会話の頻度の関連では、祭りや行事に参加している人の方が多いという結果である。役割で参加している人も会話頻度は多いことから、面接的な

交流が会話の頻度を高くするともいえるかもしれない。しかし、頻度が多いが浅い関係はあり得ることであるから、図表 8 には行事への参加と付き合いの内容の関連を示した（無回答は省略）。

図表 7 祭りや行事への参加と近所の人との会話の頻度の関連

	合計	ほとんど毎日	週に 2 回以上	月に 1 回以上	ほとんどない	無回答
好きで参加している	31 100.0	13 41.9	12 38.7	3 9.7	1 3.2	2 6.5
役割で参加している	58 100.0	27 46.6	24 41.4	2 3.4	5 8.6	— —
あまり参加していない	289 100.0	89 30.8	110 38.1	42 14.5	41 14.2	7 2.4
参加していない	403 100.0	96 23.8	120 29.8	64 15.9	110 27.3	13 3.2
無回答	89 100.0	13 14.6	20 22.5	6 6.7	13 14.6	37 41.6
合計	870 100.0	238 27.4	286 32.9	117 13.4	170 19.5	59 6.8

図表 8 祭りや行事への参加と近所の人との付き合いの内容の関連

	度話を 挨拶する する程 立ち	趣味を 一緒に する	宗教活 動を する	老人ク ラブ 等で一 緒に 活動す る	互いの 家を 行き来 する	病気の 時に 助け合 う	家事や 些細な 用事や 物のや りとり	つき合 いは ない	その他
好きで参加している	24 77.4	6 19.4	4 12.9	7 22.6	8 25.8	9 29.0	15 48.4	— —	— —
役割で参加している	41 70.7	16 27.6	2 3.4	5 8.6	11 19.0	8 13.8	24 41.4	3 5.2	3 5.2
あまり参加していない	233 80.6	28 9.7	20 6.9	8 2.8	44 15.2	34 11.8	94 32.5	12 4.2	11 3.8
参加していない	299 74.2	22 5.5	17 4.2	6 1.5	41 10.2	36 8.9	113 28.0	45 11.2	9 2.2

図表 8 によると行事に参加している方が付き合いの内容は深い傾向を示している。ただし、参加している人が少ないために一人当たりのウエイトが高く、必ずしもこの結果そのまま、行事への参加は近所の人との付き合いを深くするとはいえないであろう。

(2) 近所の人との会話の頻度と付き合いの内容の関連

次に会話の頻度も付き合いの内容と関連しているかについて示したのが図表 9 である。これを見ると、毎日会話していても立ち話が多く、互いの家を行き来したり、些細な用事や物のやりとり、病気の時に助け合うという付き合いは多くはない。しかし、会話の頻度が高いほど深い付き合いが多いことが分かる。この結果から人数が少ないために、行事への参加は付き合いを深めるとは言い難いが、会話の頻度が多い人は付き合いが深いことを示唆している。しかし、この要因をもう少し視点を変えると、社交性等のパーソナリティも考慮しなければならないことになり、ここではそのような資料を準備できないのでここまでということになる。

図表 9 近所の人との会話の頻度と近所の人との付き合いの内容の関連

	合計	挨拶や立ち話を する程度	趣味を一緒にする	宗教活動とともに する	老人クラブ等 で一緒に活動する	互いの家を行き来 する	病気の時に助け合 う	家事や些細な用事、 相談や物のやりと り	つき合いはない	その他	無回答
ほとんど毎日	238 100.0	163 68.5	40 16.8	18 7.6	14 5.9	68 28.6	48 20.2	121 50.8	－ －	10 4.2	7 2.9
週に2回以上	286 100.0	242 84.6	24 8.4	12 4.2	10 3.5	30 10.5	32 11.2	106 37.1	5 1.7	5 1.7	1 0.3
月に1回以上	117 100.0	96 82.1	8 6.8	10 8.5	2 1.7	8 6.8	8 6.8	24 20.5	7 6.0	3 2.6	2 1.7
ほとんどない	170 100.0	113 66.5	3 1.8	3 1.8	1 .6	2 1.2	－ －	6 3.5	52 30.6	7 4.1	5 2.9
無回答	59 100.0	24 40.7	1 1.7	1 1.7	0 .0	2 3.4	2 3.4	6 10.2	0 .0	2 3.4	32 54.2
合計	870 100.0	638 73.3	76 8.7	44 5.1	27 3.1	110 12.6	90 10.3	263 30.2	64 7.4	27 3.1	47 5.4

(3) 道具による付き合い

他者との付き合いは近所の人との付き合いばかりではないので、会話や行き来、物のやりとり以外の、道具を用いた付き合いの有無を尋ねたが、その結果が図表10である。これによると、会話の頻度が多いほど、直接会う関係が多いのであるが、会話の頻度が月1回程度やほとんどない人も、必要なときは電話やメール、手紙を利用していることが分かる。ただし、必要なときだけであり、積極的に多用している様子はない。近所の人とほとんど会話のない人は、電話やメール、手紙のやりとりもほとんどしない傾向が強いようである。

図表10 近所の人との会話の頻度と電話やメール、手紙のやりとりの関連

	直接会って話をしたり、行動をともにする方が多い	会うよりも電話やメール、手紙でのやりとりのほうが多い	電話やメール、手紙は必要な時だけする	ほとんどしない
ほとんど毎日	119 50.0	23 9.7	57 23.9	27 11.3
週に2回以上	111 38.8	39 13.6	86 30.1	35 12.2
月に1回以上	31 26.5	12 10.3	48 41.0	21 17.9
ほとんどない	10 5.9	13 7.6	57 33.5	87 51.2
無回答	8 13.6	4 6.8	11 18.6	4 6.8
合計	279 32.1	91 10.5	259 29.8	174 20.0

(4) 近所の人との会話の頻度と近所の人との付き合いの内容（居住地域別）

それでは、生活環境の違いにより近所の人との付き合いの内容は異なるのであろうか。斜面地居住は生活環境として障害が多いことが分かったが、その他居住と比べた場合には近所の人との助け合いなどのより深い付き合いをしていると予測されるのであるが、それを確かめるために図表11には居住地域別の近所の人との会話の頻度と付き合いの内容の関連を示した。

これによると、付き合いが深いと推測できる、太枠で囲んだ部分の比率に大きな差は認められなかった。この結果の理由はいくつか考えられる。第一に、助け合わねばならないほどに大きな問題はないこと。家族がいるために近所の人の手助けを必要としないこと等である。高齢者の多くが口にするのは「家族がしてくれる」である。他者の世話にはなりたくないという意識の表れであるが、このような意識を超えてほどの問題が多くは起こらないであろう。事実図表11では「家族同様の付き合い」といわれる「家事や些細な用事、相談や物のやりとり」を両方の居住地域共に会話の頻度が多い人では5割の人が行っているものであり、このような関係は居住地区に関連なく行われることを示している。つまり、居住地域の環境により、近所の人との付き合いが大きく変わる訳ではないことが分かる。

図表11 近所の人との会話の頻度と近所の人との付き合いの内容の関連

		合計	挨拶や立ち話を する程度	趣味を一緒にする	宗教活動をと にする	老人クラブ等 一緒に活動する	互いの家を行 き来する	病気の時に助 け合う	家事や些細な 用事、相談や物 のやりとり	付き合いはない	その他
斜面地居住	ほとんど毎日	82 100.0	52 63.4	13 15.9	8 9.8	6 7.3	21 25.6	15 18.3	44 53.7	— —	5 6.1
	週に2回以上	116 100.0	98 84.5	11 9.5	4 3.4	3 2.6	12 10.3	11 9.5	43 37.1	2 1.7	1 0.9
	月に1回以上	42 100.0	34 81.0	5 11.9	3 7.1	2 4.8	1 2.4	2 4.8	7 16.7	2 4.8	2 4.8
	ほとんどない	66 100.0	42 63.6	— —	2 3.0	— —	— —	— —	— —	21 31.8	5 7.6
	合計	324 100.0	233 71.9	29 9.0	17 5.2	11 3.4	35 10.8	28 8.6	94 29.0	25 7.7	13 4.0
その他居住	ほとんど毎日	156 100.0	111 71.2	27 17.3	10 6.4	8 5.1	47 30.1	33 21.2	77 49.4	— —	5 3.2
	週に2回以上	170 100.0	144 84.7	13 7.6	8 4.7	7 4.1	18 10.6	21 12.4	63 37.1	3 1.8	4 2.4
	月に1回以上	75 100.0	62 82.7	3 4.0	7 9.3	— —	7 9.3	6 8.0	17 22.7	5 6.7	1 1.3
	ほとんどない	104 100.0	71 68.3	3 2.9	1 1.0	1 1.0	2 1.9	— —	6 5.8	31 29.8	2 1.9
	合計	546 100.0	405 74.2	47 8.6	27 4.9	16 2.9	75 13.7	62 11.4	169 31.0	39 7.1	14 2.6

(5) 社会関係の量と居住地域の関連

相互の助け合いとして15項目（付表につけた調査票の間4参照）をあげて、「手助けをした」「手助けをしてもらった」を回答してもらった。その結果を「した」「してもらった」に1点、この両方の場合に2点を配点し、その平均得点を算出して、社会関係の量とした。平均点が高いほど社会関係量が多いことになる。ただし、この平均得点は「手助けをした」「手助けをしてもらった」項目数の平均数ともいえる数値であり、一つの項目について行った回数の平均点ではない。その意味では平均点が高いことは数種類の手助けを「した」「してもらった」ことを示すにすぎず、手助けの広がりを表している。回数でもなく質でもない。

このような意味を表す図表12の平均得点を見ると、斜面地居住の方が、その他居住よりも高い得点を示している。社会関係の質的な側面や回数をこれにより説明はできないが、手助けの種類は斜面地居住の方が多いことを示している。

図表12 手助けの種類の数

斜面地とその他の比較用	平均値
斜面地居住	2.85
その他居住	2.47
合計	2.61

当初考えていた質的な側面に関しては資料が不足しているために、機会があれば検討を試みたいと思う。

以上、斜面地居住や環境条件による高齢者の生活の困難さの違いを見てきたのであるが、高齢者は生活の障害が多くても斜面地から降りてはこない場合が普通である。誰もが住み慣れた土地を簡単には離れるはずがない。歩いて暮らせる街を目指すのであれば、居住地域の近くに社会資源を増やすことが重要なようである。

以下には、調査結果の概要を順次紹介している。

第2節 調査結果の概要

I 調査内容と斜面地居住者の区分方法

1 調査内容

この調査では傾斜地居住にともなう生活問題を既述の通りの仮説を設定したのであるが、実際に調査した内容は3つに類別できる。一つは日常での生活問題、特に距離に伴う生活問題。二つ目は社会関係資本の量と質。三つ目は地域の変化や愛着について。

一つ目の日常での生活問題では日用品や食料品の買い物と病院への通院の二種類の質問により距離に伴う問題の有無を尋ねた。

二つ目の社会関係資本の量と質では、地域の活動や行事、団体への参加及び、近隣の人との付き合いの頻度や内容について尋ねた。さらに近隣の人との相互の助け合いの有無について質問した。

三つ目は、住んでいる地域のよいと思う「もの」や「こと」、ずっと住みたい、こどもや孫にも住んでほしいと思う等と、地域の景観に気をつけている等について質問した。また、現在の居住地から転居する場合の条件を尋ねた。

これらの質問について以下では、距離と場所、付き合いの頻度と内容、景観への配慮に視点を置いて分析した。

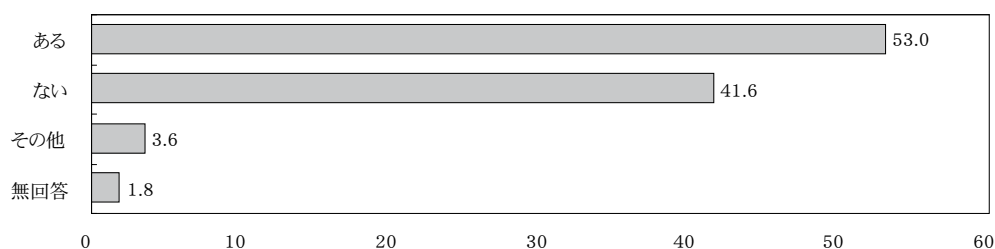
2 日常の生活問題と斜面地居住者の区分方法

日常生活の問題に関しては買い物と通院という二つの主要な事柄について質問した。買い物に関する質問は、散歩や買い物での外出の頻度、日用品・食料品の買い物をする店の種類、最も利用する店までの距離、最も利用する店までの移動手段、買い物で困ることである。また、通院に関する質問は、通院頻度、通院方法、通院で困ることである。これらに付随して、日常生活で利用する道路の危険性、生活全体で困っていること・気になること・悩みについて尋ねた。これらの質問への回答から地(校)区で斜面地に居住にしているであろうと推測し、斜面地居住とその他居住に区分した。以下ではこの区分により結果を比較し検討する。

(1) 日常生活で利用する道路の危険性

図表1は「日常生活で利用する道路は転倒などの危険性を感じることや、そのような場所がありますか」と質問した結果を示している。

図表 1 日常生活で利用する道路で転倒などの危険性を感じる、場所の有無



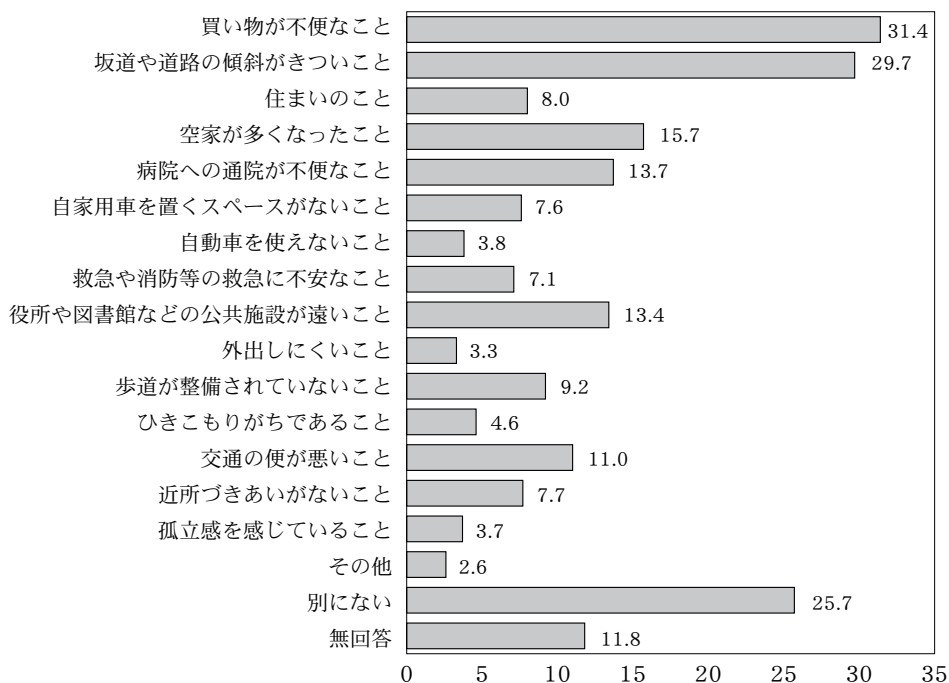
これによると 5 割以上の人々が危険性を感じたり、そのような場所があると回答している。

(2) 生活全体で困っていること・気になること・悩み

図表 2 は日常生活で困っていることや気になること、悩みに関して複数回答で質問した結果を示している。これによると「買い物に不便」「坂道や道路の傾斜がきつい」「別がない」という回答が多く 30～25% であった。これらの他に「空家が 많아 なった」「病院への通院が不便なこと」「役所や図書館など公共施設が遠いこと」等も 1 割以上の人々が困ると回答している。

距離に伴う不便が生じる主要なこととして以下で検討する買い物と通院では、買い物を最も多くの人が困るとしているが、通院は約 1 割であった。

図表 2 生活全体で困ることや気になること、悩み（複数回答）



(3) 斜面地居住者の区分方法－斜面地居住とその他居住の区分

調査地の概要でも述べた通り、調査地(校)区では回答した全ての人が斜面地に居住している訳ではない。しかし、図表 1、2 に示した転倒などの危険を感じる場所や生活全体で困ることの中で、

斜面地居住のためと推測できる回答がある。具体的には「坂道や道路の傾斜がきつい」「自家用車を置くスペースがない」「救急や消防の等の不安がある」「外出しにくい」である。そこでこれらの回答者を斜面地居住とし、その他居住者と区分して比較することで、生活問題を検討することにする。この区分方法による斜面地居住者数は324人、その他居住者数は546人である。

図表 3 生活全体で困ることと転倒などの危険性を感じることや場所の関連性

困っていることや悩み（多重回答）	危険性を感じること、場所				
	合計	ある	ない	その他	無回答
買い物が不便なこと	273 100.0	194 71.1	71 26.0	5 1.8	3 1.1
坂道や道路の傾斜がきついこと	258 100.0	213 82.6	34 13.2	7 2.7	4 1.6
住まいのこと	70 100.0	42 60.0	23 32.9	5 7.1	— —
空家が多くなったこと	137 100.0	90 65.7	41 29.9	6 4.4	— —
病院への通院が不便なこと	119 100.0	89 74.8	23 19.3	6 5.0	1 0.8
自家用車を置くスペースがないこと	66 100.0	42 63.6	19 28.8	4 6.1	1 1.5
自動車を使えないこと	33 100.0	22 66.7	7 21.2	4 12.1	— —
救急や消防等の救急に不安なこと	62 100.0	54 87.1	7 11.3	1 1.6	— —
役所や図書館などの公共施設が遠いこと	117 100.0	79 67.5	33 28.2	4 3.4	1 0.9
外出しにくいこと	29 100.0	23 79.3	3 10.3	2 6.9	1 3.4
歩道が整備されていないこと	80 100.0	69 86.3	9 11.3	1 1.3	1 1.3
ひきこもりがちであること	40 100.0	28 70.0	9 22.5	3 7.5	— —
交通の便が悪いこと	96 100.0	71 74.0	21 21.9	2 2.1	2 2.1
近所づきあいがないこと	67 100.0	45 67.2	18 26.9	4 6.0	— —
孤立感を感じていること	32 100.0	23 71.9	5 15.6	4 12.5	— —
その他	23 100.0	14 60.9	7 30.4	2 8.7	— —
別がない	224 100.0	66 29.5	151 67.4	5 2.2	2 0.9

さらに日常生活で利用する道路の危険性をこれに加味して、斜面地居住者を抽出すると、図表 3 のように「買い物が不便なこと」194人、「病院への通院が不便なこと」89人、「歩道が整備されて

いないこと」69人、「交通の便が悪いこと」71人も危険性を感じることや場所がある。一方、斜面地居住の対象とした項目の中でも危険性を感じることや場所がないと回答した人は「坂道や道路の傾斜がきつい」34人、「自家用車を置くスペースがない」19人、「救急や消防の等の不安がある」7人、「外出しにくい」3人である。後者は斜面地でなくても道路の危険性はあると考えてそのままにして、前者を斜面地居住に加えるかということであるが、「買い物が不便なこと」「病院への通院が不便なこと」「交通の便が悪いこと」は斜面地居住でなくても考えられるために、斜面地居住には加えないこととした。また、「歩道が整備されていないこと」もそのような道路は多く存在するために、斜面地居住には加えないこととした。これにより、斜面地居住者数は上述の通りとして区分する。

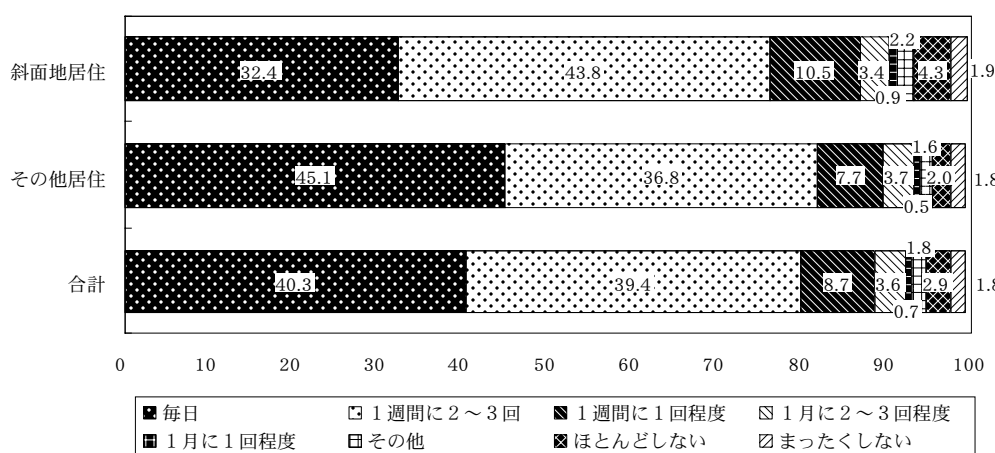
Ⅱ 買い物と通院の問題

1 買い物の問題

買い物の距離が高齢者の生活に大きく影響していることは上述の通りである。これに坂道、斜面地が加わった場合の影響の大きさを以下では、その他居住の場合と比較して見ていくことにする。

(1) 日用品・食料品の買い物の頻度

図表4 買い物の頻度



図表4には買い物の頻度を、斜面地居住とその他居住及び、それらの合計（全体）を示している。これによると買い物をまったくしない人も2%程度存在するが、買い物は「毎日」と「週に2〜3回」「週に1回程度」で居住地に関係なく9割近く、あるいは以上になる。

居住地による違いは大きくはないが、斜面地居住は「毎日」よりも「週に2〜3回」の方が多く、その他居住では「毎日」が多くなっている。さらに、「週に1回程度」を加えても、その他居住の方が買い物の頻度は高いといえる（図表では無回答は省略している）。

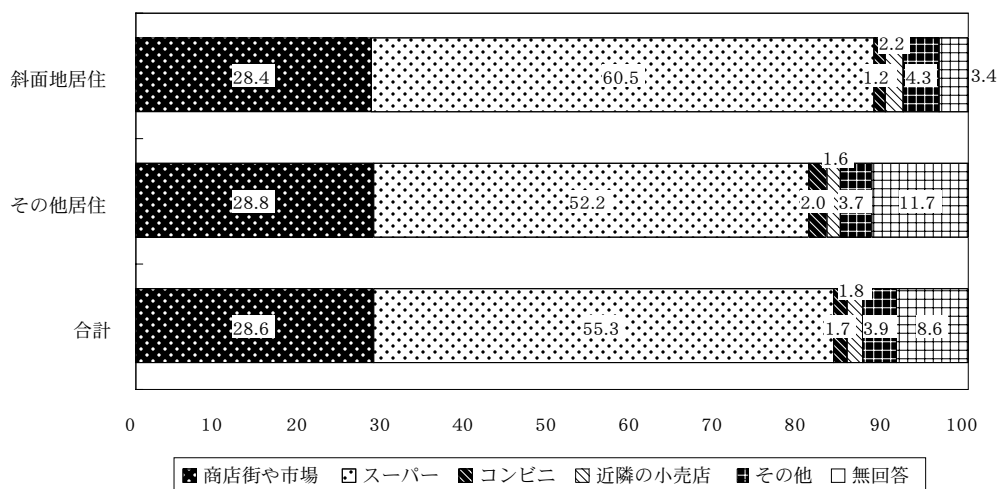
しかし、これだけではその他居住の買い物頻度が高い要因が居住地の特性によるとはいえない。例えば、斜面地居住の方が年齢が高いかも知れない。あるいは家族が同居していることで、買い物に行く必要が低いかも知れない。これらに関しては後に属性で見てみることにする。

(2) 日用品・食料品の買い物をする場所

毎日や週に1～2回の買い物をどこでするかについて図表5に示した。買い物の場所は主として「スーパー」「商店街や市場」である。「近隣の小売店」は2%程度である。

居住地で比較すると斜面地居住はスーパーを利用している人が6割で5割程度のその他居住よりも高い比率を示している。商店街や市場に関しては斜面地居住もその他居住ほとんど同水準である。その他居住の無回答が多かったのは理由が分からないが、買い物をしないことを示しているのかも知れない。

図表5 買い物をする場所



(3) 買い物をする店までの距離

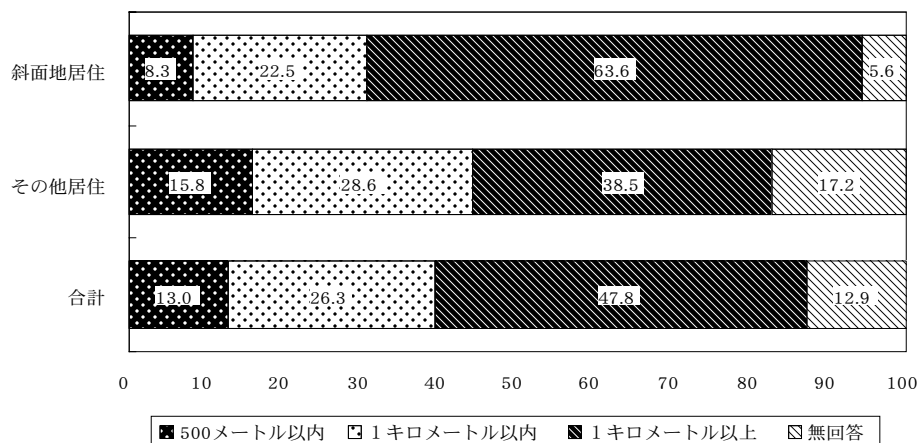
買い物をする店までの距離については500メートル以内、1キロメートル以内、1キロメートル以上で回答を求めたが、特別に基準がある訳ではなく、500メートル～1キロメートル程度なら徒歩で可能と考えたためであり、1キロメートルを超えると徒歩では荷物を持って帰るのがきついであろうと考えたためである。ただし、これは季節により異なる可能性はある。同じ500メートルでも吹きさらしや日陰のない道路では冬や夏にはきつくなるであろうし、坂道の有無も同様である。そのために基準は流動的である。

結果は図表6の通りであるが、斜面地居住の方が買い物に長い距離を要している人が多くを占めている。斜面地居住では500メートル以内が1割以下であり、1キロメートル以内が約2割である。6割以上が1キロメートル以上の距離を買い物に行っている。

これに対してその他居住の買い物の距離は、500メートル以内が15.8%であり、1キロメートル以内が28.6%、1キロメートル以上が38.5%である。その他居住の方が買い物の距離が短いことになる。上の基準を当てはめると、その他居住は4割以上が徒歩圏内の店を利用し、斜面地居住は3割程度である。少なくとも距離としては、その他居住の方が買い物には便利といえるかもしれない。ただし、この質問にもその他居住の無回答が多かった。買い物に行かないのか、距離が分かりにくいのか、あるいは最もよく買い物に利用する店が特定していないためなのかは不明である。この買

い物に利用する店までの距離と頻度には関連性があると考えられるが、これは第1節で検討している。

図表6 最も買い物に利用する店までの距離



(4) 買い物の交通手段

距離により交通手段が異なってくるであろうし、そのために要する費用も異なる。

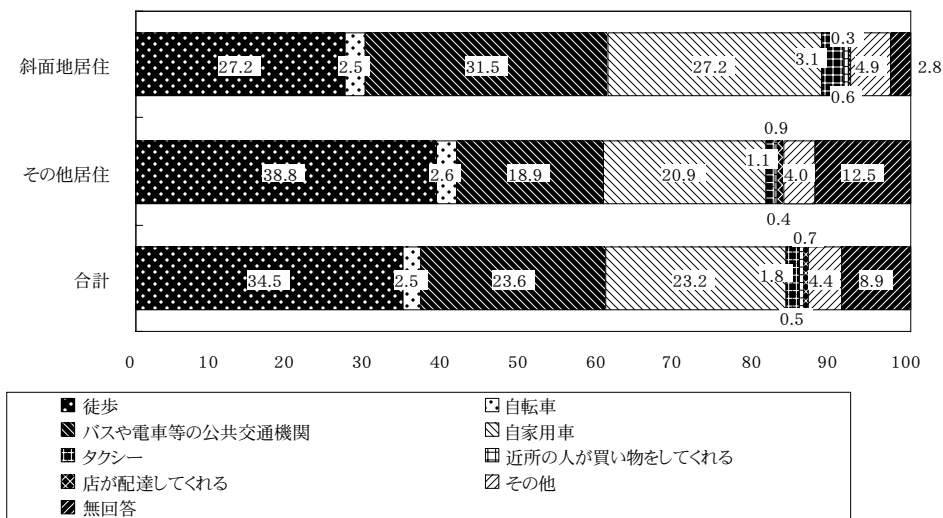
最も頻繁に買い物に利用する店までの交通手段は全体では、多い順に「徒歩」「公共交通機関」「自家用車」である。

斜面地居住では買い物の交通手段として「公共交通機関」利用が最も多く、その他居住では「徒歩」が最も多いことは利用する店までの距離の違いを表している。図表6に示した買い物をする店までの距離では、設定した基準を当てはめた場合、その他居住は4割以上が徒歩圏内の店を利用し、斜面地居住は3割程度であった。徒歩での買い物可能距離はこの基準に結果が符合している。

距離が1キロメートルを超えた場合の交通手段が「公共交通機関」になるか「自家用車」になるかの違いであるが、差は大きくはないが、斜面地居住は「公共交通機関」が多く、その他居住は「自家用車」が多くなっているようである。

この点も買い物の頻度に影響があると考え第1節で検討した。

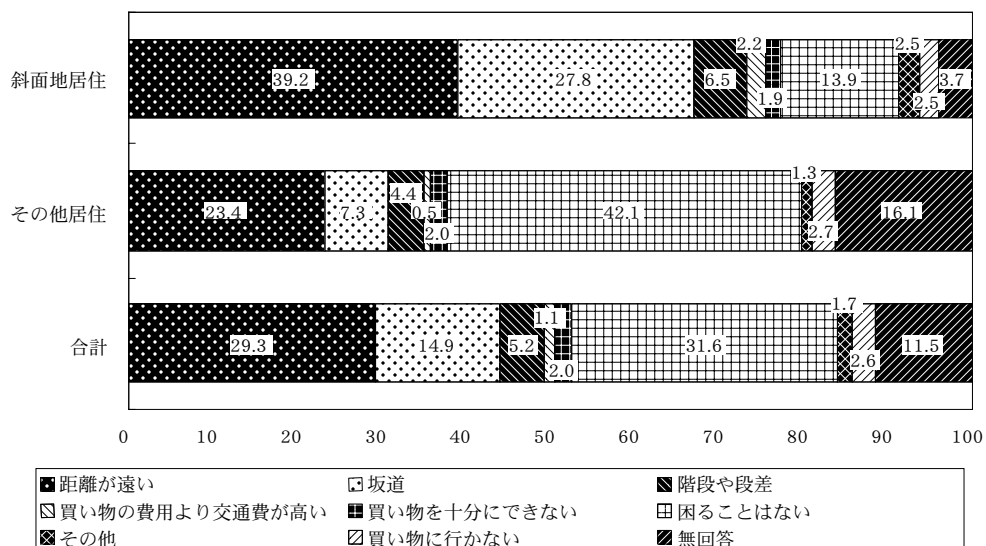
図表7 日用品の買い物に利用する交通手段



(5) 買い物の際に困ること

食料品や日用品の買い物をする際に困ることを一つ選択してもらった。本来、困ることは複数あると思われるが、最も困ることの意味で一つ選択としたのである。ただし、回答には複数回答している場合もあった。この場合は番号の若い方を回答として採用した。これによる回答結果への影響は1%以下である。

図表8 買い物の際に困ること



買い物で最も困ることは、斜面地居住では「距離が遠い」「坂道」「階段や段差」であるが、「困ることはない」も1割以上存在する。一方、その他居住では「困ることはない」が最も多い回答であり4割を超えている。次いで「距離が遠い」である。「坂道」「階段や段差」も計1割程度存在する。この1割の人を斜面地居住に含めて集計しなかったのは、生活全体で困ることを複数回答で選択した際に、回答として選択されなかったために、斜面地居住に該当せず、利用する店までの途中

の坂道や段差と見なしたためである。

図表 8 より、斜面地居住もその他居住も距離は買い物での明らかに大きな問題となっていることが分かる。斜面地居住ではこの距離がより多くの人に影響し、さらには坂道がバリアとして加わっているのである。両者の間の居住地の違いが「困ることはない」に関して大きな差になって表れている。

2 通院の問題

通院は日用品や食料品の買い物と並んで距離が障害となる主要な日常生活の要素である。しかし、通院は全ての人が必要としている訳ではなく、その点では斜面地居住やその他居住が生活の困難さの違いを浮き上がらせるとは限らないかも知れない。

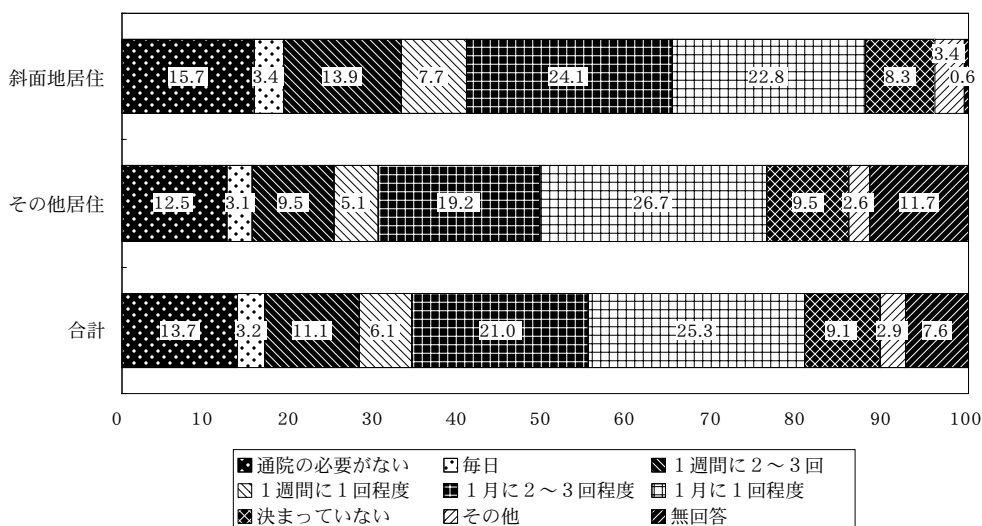
以下では、通院の回数や通院手段、通院で困ることについて質問し、斜面地居住とその他居住の違いを比較してみた。

(1) 通院の回数

通院を必要としない人は少なく、全体で13.7%である。無回答をこれに加えると2割程度の人が通院を必要としていないが、残りの8割の人は通院していることになる。

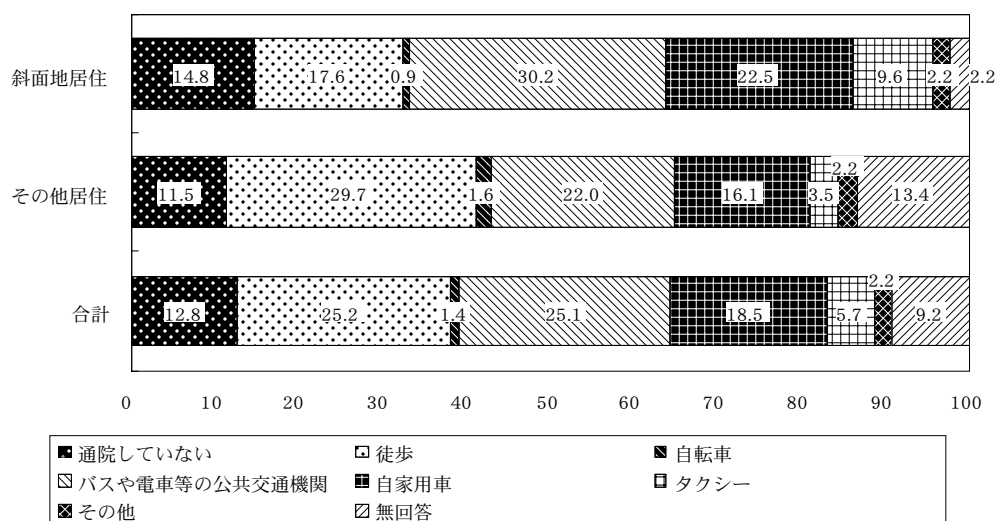
図表 9 によると、通院の頻度は斜面地居住の方が回数が多いようである。つまり「毎日」は同水準であるが、「週に2～3回」「週に1回程度」は斜面地居住の方が多く、「月に2～3回」は同水準で、「月に1回程度」ではその他居住が多くなる。この結果には年齢が影響するとも考えられる。

図表 9 通院の回数



(2) 通院手段

図表10 通院手段



本来通院していない人は図表9と同じはずであるが、結果は違いがある。通院手段では通院回数よりも通院していない人の数が減少した。減少は些細であるからこのまま見ていくことにする。

通院手段は斜面地居住では「公共交通機関」が多く、「自家用車」「徒歩」の順である。「タクシー」も約1割を占めている。その他居住では「徒歩」が最も多く3割を占めている。次いで「公共交通機関」「自家用車」であるが、自家用車は斜面地居住よりも低い比率を示している。「タクシー」は3.5%に止まっている。

この結果は年齢の影響か、斜面地の影響かは明確ではないが、斜面地居住のほうが、多くの人が徒歩以外の手段により通院していることが示されている。これは坂道や距離の影響であるのかを以下の通院で困ることで確認する。

(3) 通院で困ること

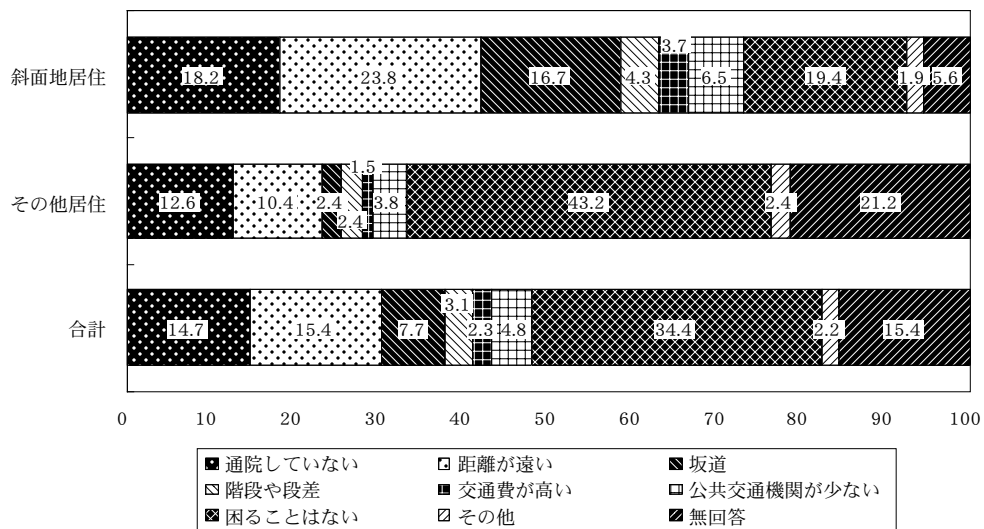
通院で困ることも買い物と同様に複数あると考えられるが、最も困ることの意味で、一つ選択として質問した。結果として買い物同様に複数回答があったが若い回答番号を集計に採用した。これによる集計結果への影響は1%未満である。

また、この問も全員に質問したために「通院していない」という回答が含まれるが、これも通院回数、通院手段と一致するはずである。しかし、一致していないし通院手段よりも増加しているが、これも通院手段同様にこのまま見ていくことにする。

斜面地居住では、通院で困ることは「距離が遠い」「坂道」である。その他居住では「困ることはない」が4割以上を占めて圧倒的に多かった。「距離が遠い」は二番目に多く1割程度である。交通手段として徒歩が多いこともあり、交通費で困る比率も斜面地居住に比べて低い。

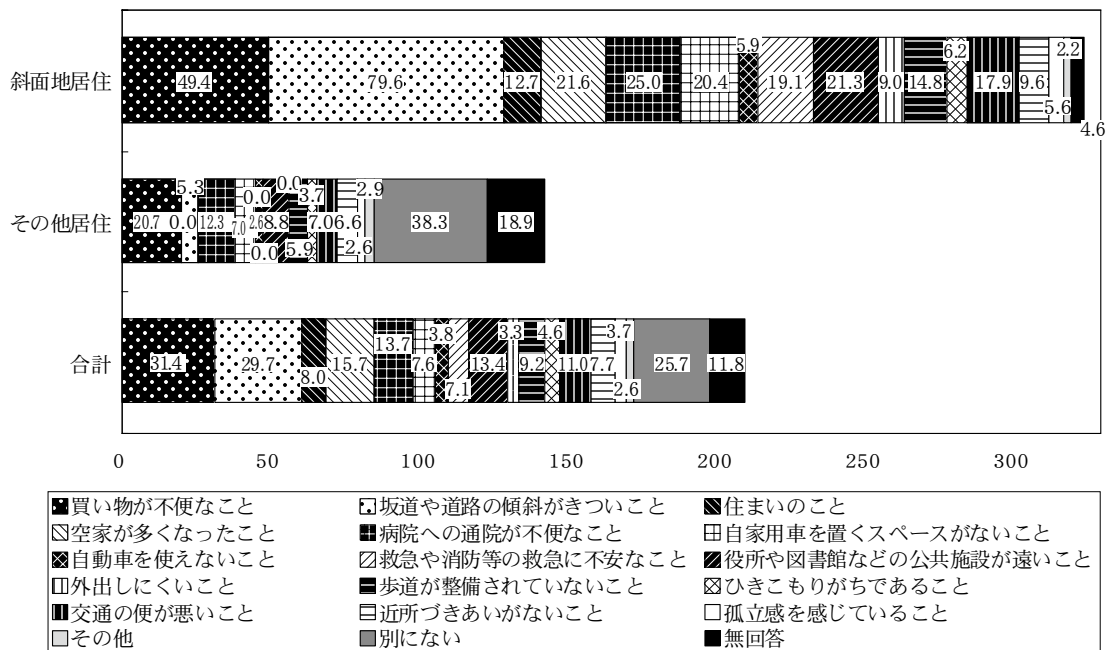
このように通院で困ることに関しても斜面地居住とその他居住では困ることの大きな違いが認められる。また、距離は共通した問題であることも分かる。

図表11 通院で困ること



3 生活全体で困ること、気になること、悩みについて

図表12 生活全体で困ること、気になること、悩み



生活全体で見た場合の困ることや気になること、悩みについては、図表12の通り、斜面地居住が圧倒的に多いことが分かる。この結果から即、生活のバリアが多いことを示しているとは言い難いが、坂道や道路の傾斜がきついことに関しては、これらを基準として斜面地居住とその他居住に区分した経緯から当然であるが、買い物が不便、空き家が多くなっている、病院への通院が不便、自家用車を置くスペースがない、救急や消防の不安等の多くの項目でその他居住を上回っている。その他居住は別れない、無回答が多く、生活の種々の面での落差は歴然としている。ここには斜面地

は高齢者の生活のバリアとなっていることが明示されている。

Ⅲ 地域の社会関係

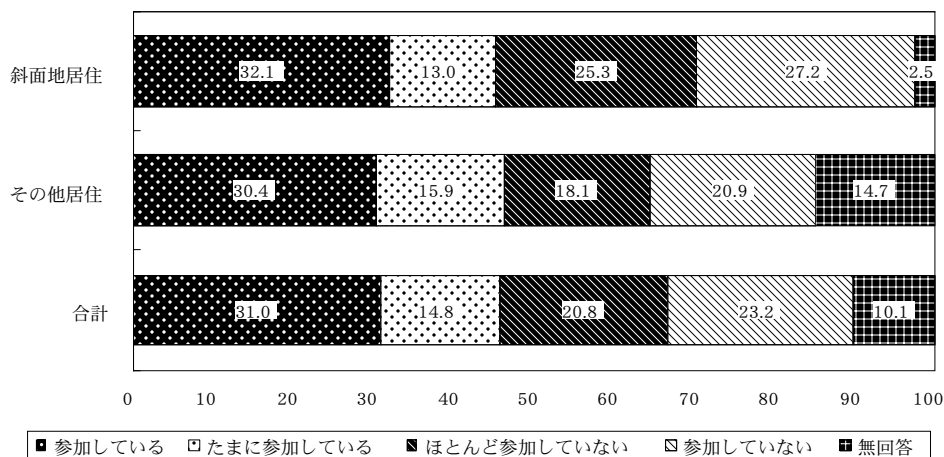
社会関係に関しては、町内会・自治会活動への参加、参加している地域団体、伝統的な年中行事や祭りへの参加、近所の人との会話や付き合い方、電話やメールの手紙の頻度等について尋ねた。これらが直接には社会関係資本とはなり得ないかも知れないが、調査地の概要の通り、自治会加入率が高く、活動も活発であることから、可能性は高いと思われる。

1 町内会・自治会への参加や行事への参加

(1) 町内会・自治会活動への参加

調査地の概要でも述べた通り、調査地では99%という高い町内会・自治会加入率を示している。しかし、加入と活動参加とは別であり、図表13が示す通り実際に活動に参加しているのは「たまに参加している」も含めても斜面地居住、その他居住ともに45%程度に止まり、過半数が参加していないと回答している。高齢を理由に参加を断る場合も多くなるのが一般的な傾向であるから、この結果も首肯できる。

図表13 町内会・自治会活動への参加



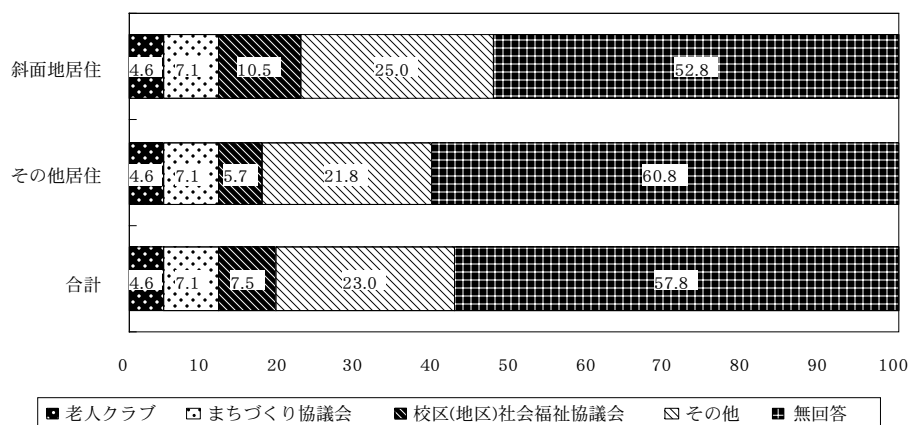
(2) 参加している地域団体

参加している地域団体は複数のはずであるが、この質問では一つだけ選択してもらった。しかし、複数あるはずの参加団体への回答は無回答が圧倒的に多く、しかも、回答した参加している地域団体は、老人クラブでもまちづくり協議会でもなく、その他が多かったのである。一つ選択であるから、複数参加している地域団体の中から最も参加している団体を選択したはずであると考え、老人クラブでもまちづくり協議会でもない、その他を確認した。

その他には、病気や体調不良等の参加できない状態、及び近所との折り合いという人間関係等により主に参加していない人が多く含まれている。このことから地域団体への参加は老人クラブ、

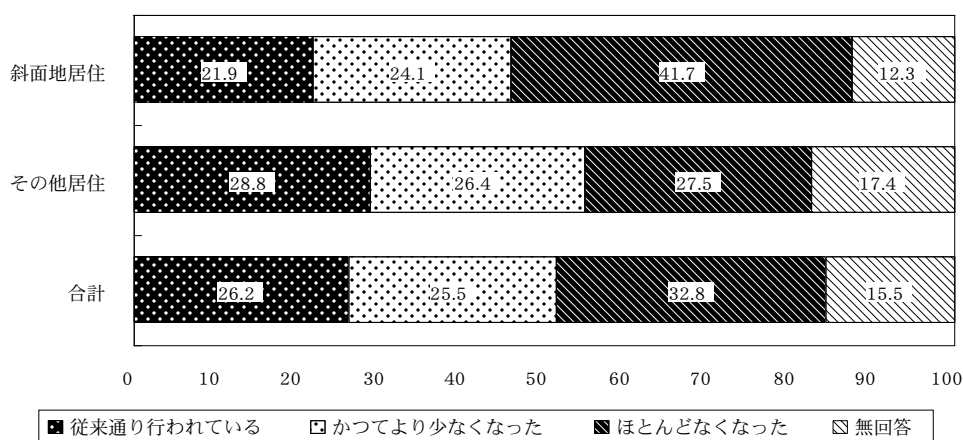
まちづくり協議会、校（地）区社協への参加比率が実質的参加を表しているとも言えそうである。高齢になると地域団体への参加が難しくなることを示唆しているようでもある。

図表14 参加している地域団体



(3) 伝統的な年中行事の実施

図表15 伝統的な年中行事の実施



地域の活動として代表的と思われる伝統的な年中行事の現状を尋ねたのは、これにより、地域共同体としての共同作業が行われ、地域の連帯や凝集性が強まると考えられるからである。結果は図表15の通り、従来通り行われているのは全体では26.2%であり、斜面地居住では2割程度、その他居住では約3割である。

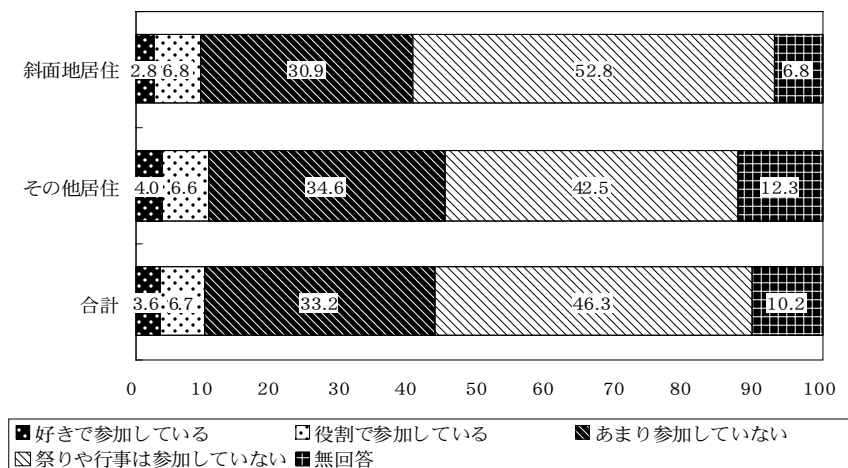
かつてより少なくなった、ほとんどなくなったが斜面地居住では65%以上と占め、地域活動の衰退を示している。

(4) 伝統的な年中行事や祭りへの参加

少なくなっている伝統的な行事や祭りへの参加については、図表16の通り、約9割が参加していない。この結果は居住地が斜面地、その他ともに違いはない。

行事に参加していないということは、ある意味では地域の人々との関係も育たないことや年齢のために参加できないことを示している。

図表16 年中行事や祭りへの参加



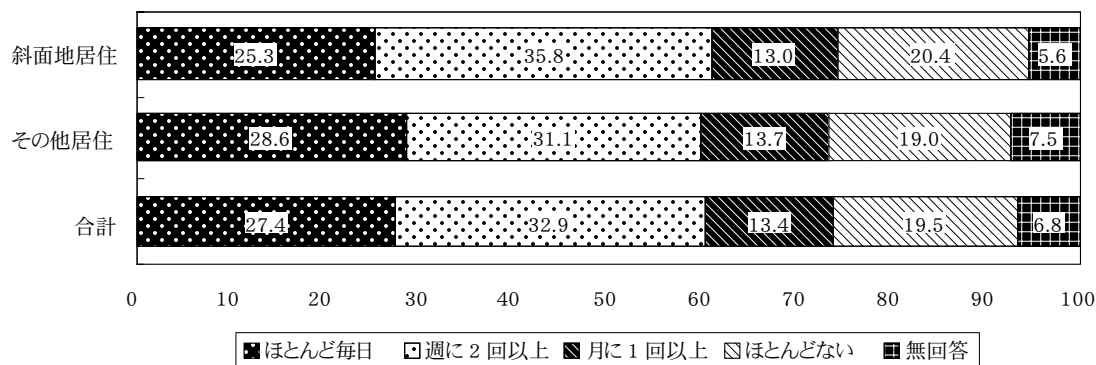
2 近所の人との付き合い

(1) 近所の人との会話

町内会・自治会活動への参加は半数未満、年中行事や祭りへの参加はほとんどないということがここまで分かったことであるが、近所の人との会話の頻度はどうであろう。

この点では、図表17を見る限り、全体や斜面地居住とその他居住ともに大差がなく、ほとんど毎日、週に2回以上の両者の計は約6割である。つまり、6割以上の方は近所の人とほとんど毎日あるいは、少なくとも週に2回以上は会話をしていることになる。一方、残りの4割程度は会話がほとんどないことになる。

図表17 近所の人との会話の頻度



(2) 近所の人との付き合いの内容

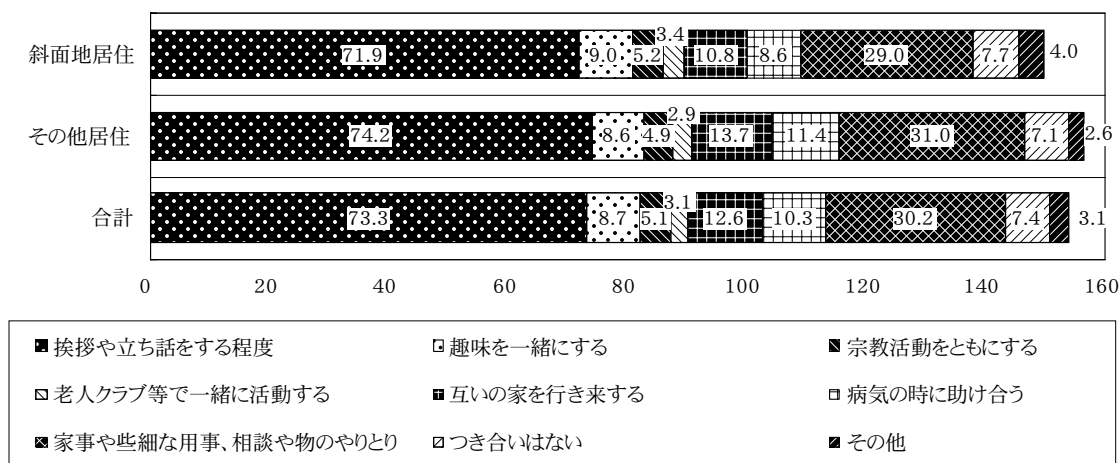
その会話あるいは付き合いの内容は複数回答であるから相手により異なるのは当然であるが、圧

倒的に多いのは「挨拶や立ち話しをする程度」である。7割以上の人がこれをしている。近所の人との会話の頻度では4割程度の人が会話がほとんどない状態であったが、会話をする则挨拶や立ち話し程度ということであろうか。一方では3割程度の人「日常での家事やちょっとした用事、相談ごとや物のやりとりをする」という近所付き合いをしている。これは親戚や家族との付き合いと同様の付き合いに分類される。近所付き合いで次に多いのは「互いの家を行き来する」である。次に「趣味を一緒にする」「病気の時に助け合う」と続く。

一方、「付き合いはない」人は7%程度、無回答3%程度であり、これらから約1割の人は近所付き合いがないと思っていることになる。

挨拶や立ち話し程度の頻度は多いが浅い付き合いが多くを占めていることが推測できるが、3割程度、あるいはそれ以上の人は親戚や家族と同様の近所付き合いをしていることが分かる。

図表18 近所付き合いの内容

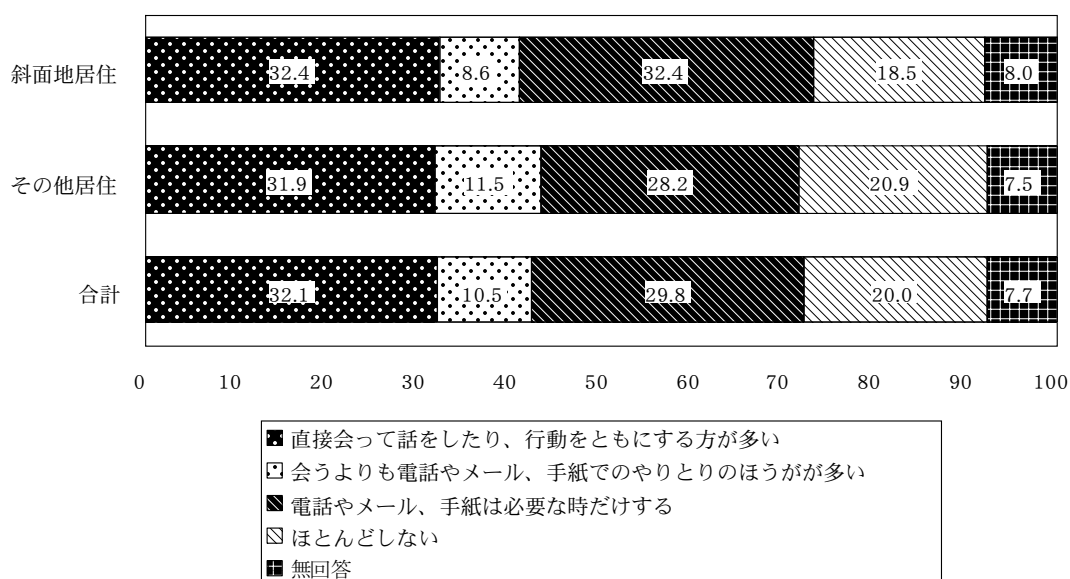


(3) 家での電話やメール、手紙

隣近所の人との付き合いは挨拶や立ち話し程度であっても、家で電話で話をしたり、ルールや手紙をやりとりしていれば、直接的な付き合いは希薄でも社会関係が希薄とは言い難い。間接的、直接的近所付き合い以外にこれらの付き合いがどの程度なされているかを尋ねた。

結果は図表23の通りであり、「直接会って話をしたり行動を共にする方が多い」が3割、「電話やメール、手紙のやりとりの方が多い」が3割であった。一方、「ほとんどしない・無回答」も約3割である。「会うよりも電話やメール、手紙でのやりとりのほうが多い」が1割であるから、近所付き合いとは別の付き合いが手紙や電話、メールのやりとりという方法で存在することになる。近所付き合いのみが社会関係ではなく、見え難い所での社会関係が成立しているとも言える。

図表19 電話やメール、手紙でのやりとり



IV 地域の助け合い

調査票では、日常的な助け合いについて「ご近所の方と次のような手助けをしたり、してもらったりしたことがありますか（団体でした場合も含む）」と15項目について尋ねた。

回答方法は、一つの項目に対して手助けをした場合としてもらった場合のどちらかがあれば、「した、してもらった」のどちらかの番号に回答をし、両方があれば両方の番号に回答する。どちらもなければ回答しないという方法である。

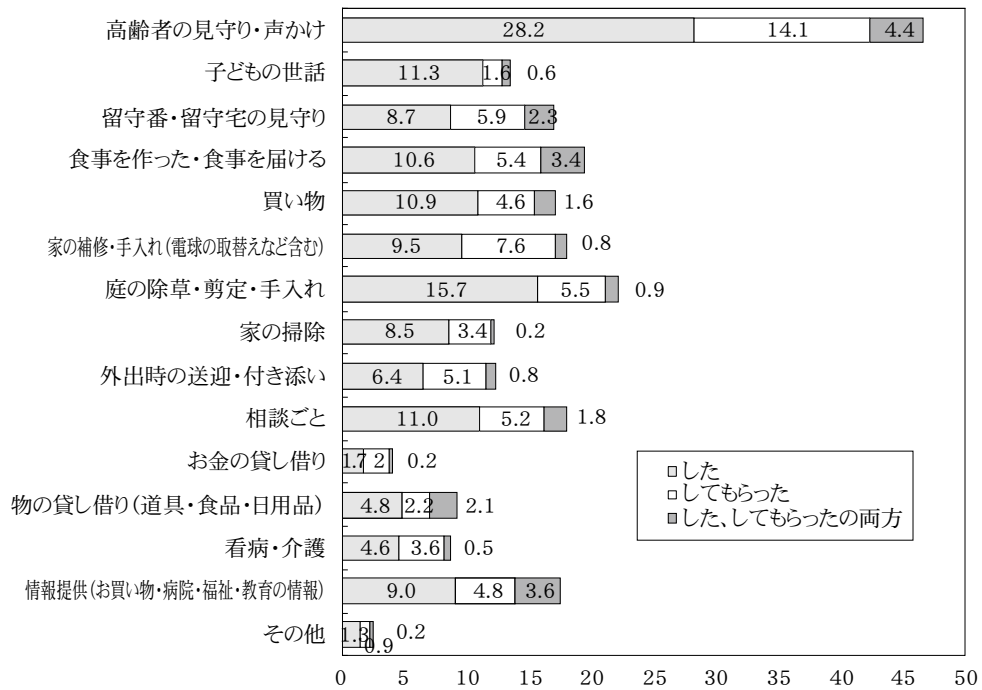
1 全体の傾向

全体で見た場合の地域の助け合いは、手助けをしたでは、高齢者の見守り・声かけ、子どもの世話、食事を作る、買い物、相談ごととはどれも10%以上の人が行っていた。この中で手助けをした比率が高い項目は、高齢者の見守り・声かけであり28.2%の人が行っていた。しかし、この比率は他の調査に比べて高くはない（高齢者に限定しない場合は40%を超えるという結果もある）。回答者が高齢者であることがこの結果になっていると思われる。

一方、手助けをしてもらったでは、10%を超えている項目は高齢者の見守り・声かけの14.1%のみである。してもらった項目の比率も他の調査に比べて高くはない。

また、全ての項目で、手助けした・してもらったの両方の人がいる。その中で比率が高い項目は、高齢者の見守り・声かけ、食事を作る、情報の提供であるが、5%未満である。

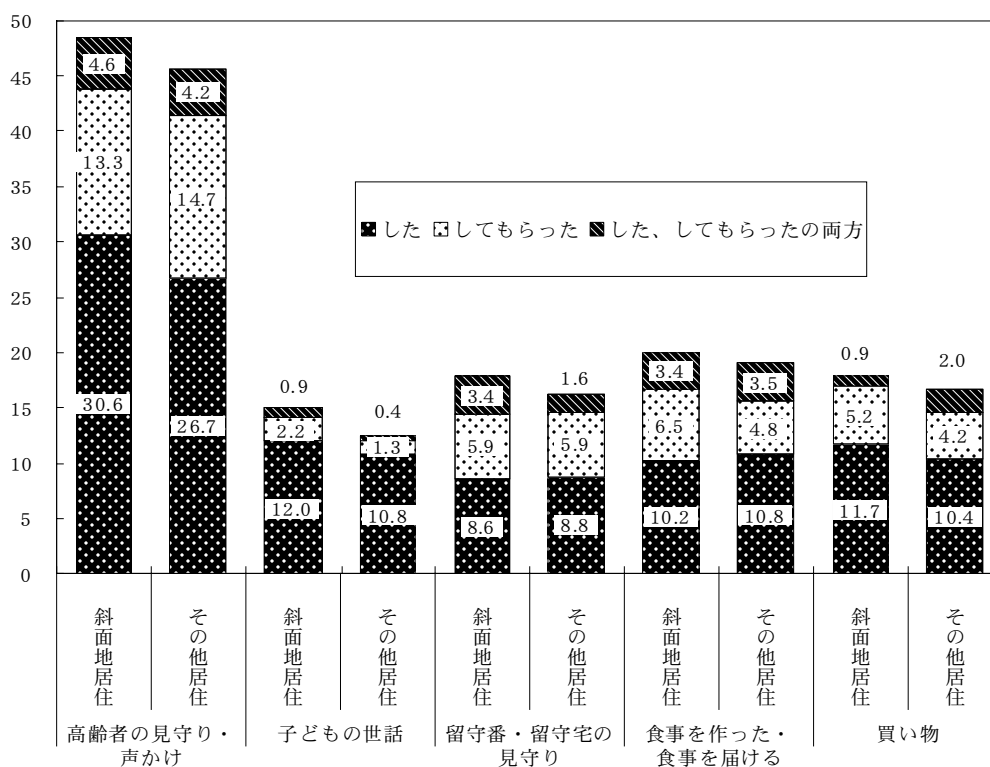
図表20 地域の助け合い（全体）



2 居住地域別の地域の助け合い

居住地別に助け合いをまとめたのが図表21-1～3である。項目が多いために3つの図表に分けて示している。これによると、「家の掃除」と「その他」を除くすべてで斜面地居住の方が相互の助け合いを「した・してもらった・両方」の計が高い比率を示している。特に差が大きいのは「家の補修・手入れ」「庭の掃除・剪定・手入れ」「相談事」「情報の提供」である。他の項目では居住地による大きな差はない。項目によってはその他居住の方が「手助けした」が高い比率を示したり、「手助けしてもらった」が高い比率を示している。

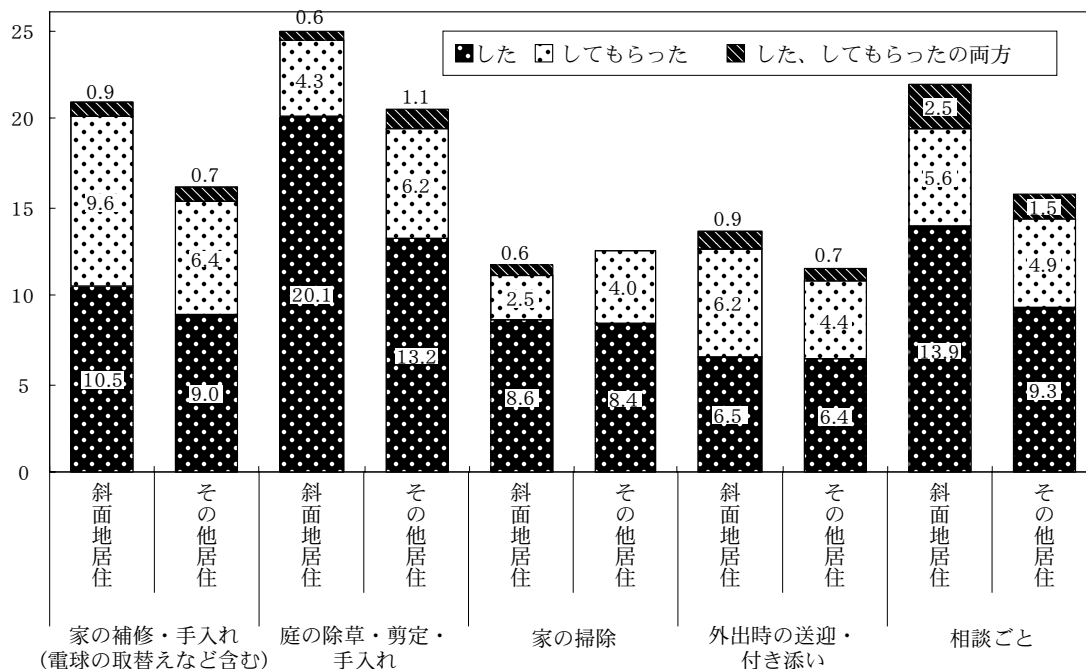
図表21-1 居住地別の相互の助け合い



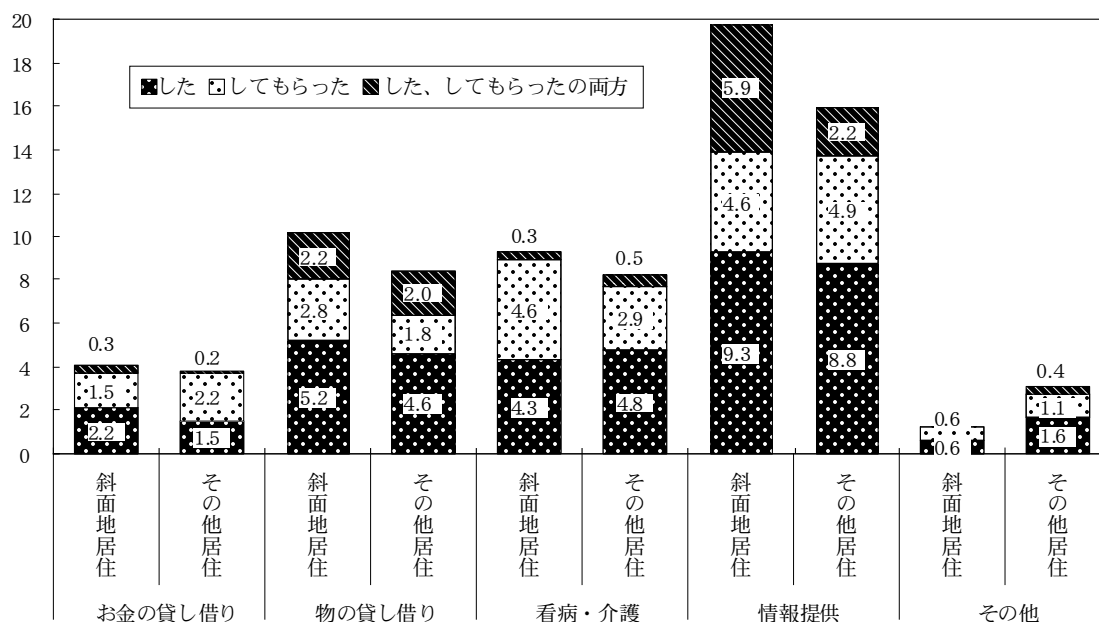
このことで分かる通り、「手助けする・してもらう」ということは、その事態が起こるということである。手助け（する・してもらう）を必要とする事態が自分や相手に起こることで成立する行為であり、困っている相手がいればいるだけ行うことができる。また、手助けを必要とする事態は社会関係の量の多さや質とは無関係に起こることであり、手助けをした人が多いことが社会関係の量が豊富であることを示している訳ではない。手助けは個人の（ここでは団体でした場合も含んでいる）の主体的行為であり、手助けを必要とする人が多ければ、それだけ多くの手助けができることになる。となると、多く手助けした人はそれだけ必要とする人が周りにいたことを意味し、社会関係の量が関係する。つまり、相互の手助けは社会関係とは無関係に独立して起こることであるが、独立して生じる事態を直接・間接に知り得るのは社会関係の量と関連するであろうし、実際に手助けを複数でも個人でも行うことに結びつくのは主体である個人にかかわる。主体にかかわるこ

とにより、個人のもつ社会関係は日常生活での自分自身の問題解決に直接役立つような社会関係資本とはいえない。しかし、社会関係の豊かさは自分自身の問題解決の可能性を拡大することになる。

図表21-2 居住地別の相互の助け合い（続き）



図表21-3 居住地別の相互の助け合い（続き）



V 地域の変化や愛着について

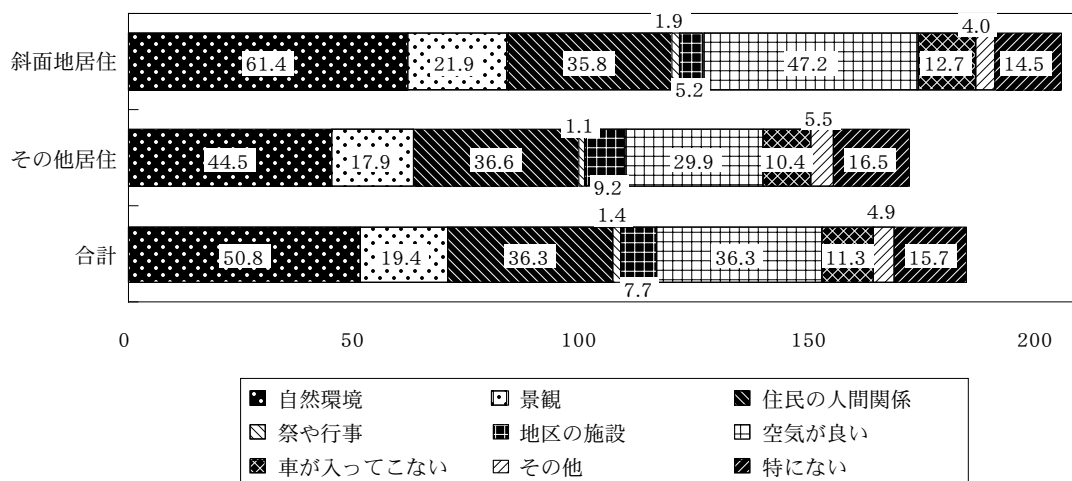
これまで見た限りでは、斜面地に居住することは生活の障害も多くなることを示している。しかし、斜面地には長所もある。以下には、その長所の認識や地域への愛着、地域の変化、転居の条件や安心して暮らせる条件等について尋ねた結果を示す。

1 地域で良いと思うこと・もの

地域の長所をどのように認識しているか。良いと思うことやものについて質問した。結果は図表22の通りである。これによると斜面地居住では自然環境、景観、空気がよいと思っている人が多いことが分かる。特に自然環境については6割以上、空気がよいは5割近くの人が思っている。一方、祭りや行事に関して評価が低いのは、このままでよいと思っていないことを示しているのだろうか。地区の施設に関しても評価が低い。

斜面地居住とその他居住を比較すると積み上げた回答比率の合計が200%を超えている斜面地居住と170%程度のその他居住では、斜面地居住の方が良いと思うこと・ものが多いという長所があることを示している。地域の人間関係に関しても良いと思う人が35～36%である。全体では自然環境、景観、人間関係、空気がよいと思っていることである。

図表22 地域で良いと思うこと・もの



2 地域への愛着

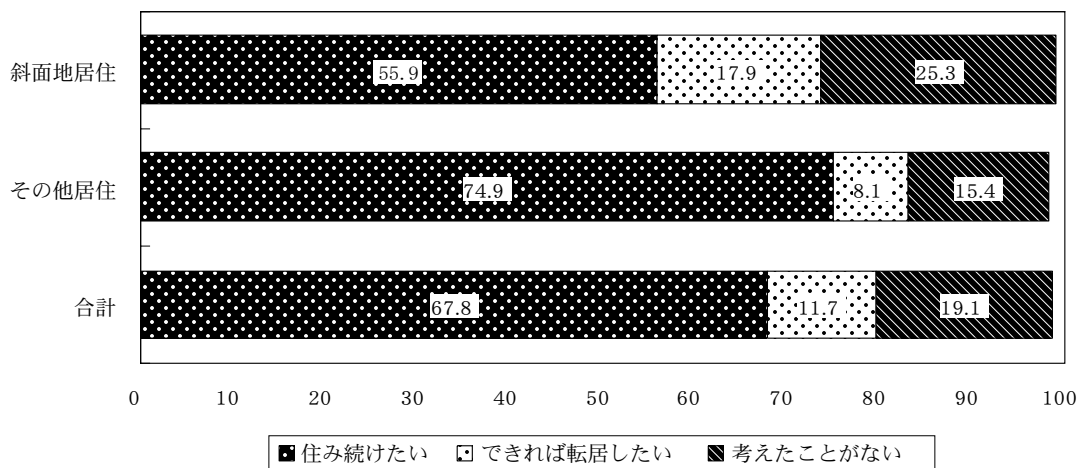
(1) 住み続ける

景観や自然環境、空気や人間関係がよいと思う地域に住み続けようと思っているのか、それとも年齢的な条件から転居も考えているのかを尋ねて、地域への愛着の表れの一つと見なすことにする。

結果は図表23に示す通り斜面地居住とその他居住では違いが表れた。「住み続けたい」に関してはその他居住が7割以上であるのに対して、斜面地居住では55.9%と、約半数に止まっている。一方、「できれば、転居したい」ではその他居住が1割以下であるが、斜面地居住では2割近くが転

居したいと思っている。しかし、「考えたことがない」は斜面地居住の方がその他居住よりも多かった。また、「考えたことがない」は両者ともに「転居」よりも多く、斜面地居住では4分の1が考えたことかないである。

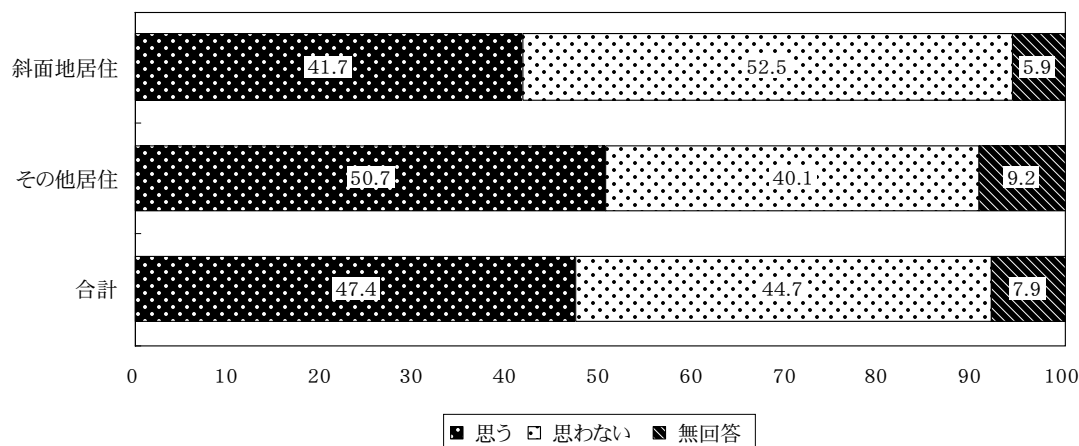
図表23 ずっと住み続けたい



(2) 子どもや孫にも住んで欲しい

子どもや孫にも住んで欲しいと思うのは、地域への愛着であろうか。それとも、寂しいとか、単に一緒に生活したいとか、そのような意味であろうか。この質問ではその点の詳細は分からないが、ここでは地域への愛着と見なして結果を見ていくことにする。

図表24 子どもや孫にも住んで欲しい



図表24によると、斜面地居住とその他居住の間で大きな違いは認められない。どちらも子どもや孫にも住んで欲しいと「思う」「思わない」がほとんど同水準である。ただし、細かく言えば、斜面地居住の方が「住んで欲しいと思う」が10ポイント低く、「住んで欲しいと思わない」が10ポイント高い。つまり、「思う」「思わない」が居住地域により、丁度4割と5割で逆になっている。こ

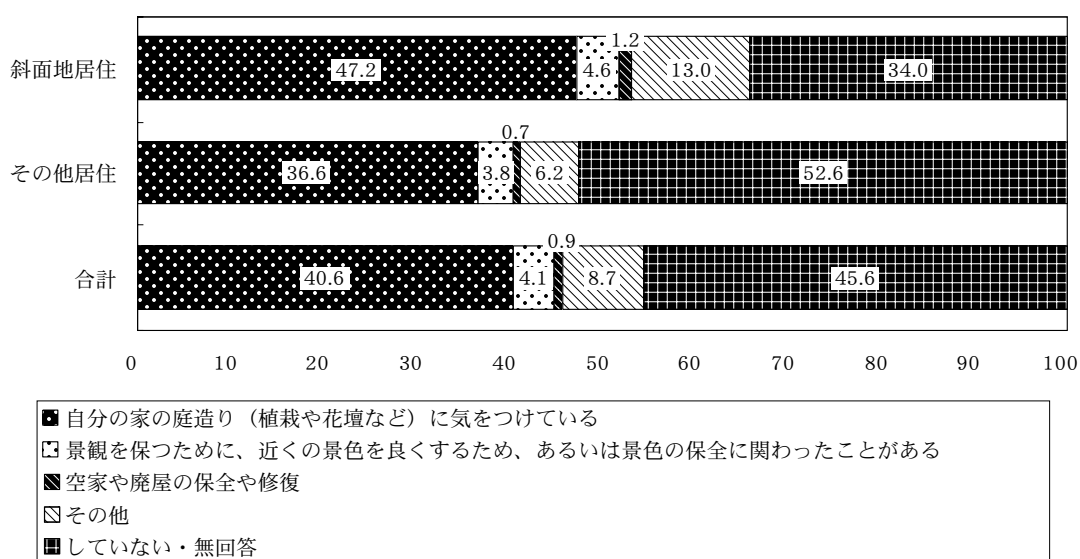
のことから、あえていえば、地域への愛着はあるが、子どもや孫に住んで欲しいと思うほどではないのか、既に同居している場合を除き、環境がきびしいと思っているのか等である。

(3) 景観に気を配る

居住地域への愛着は景観に気を配ることでも表れるであろうと考えて、景観に気をつけて行っていることについて尋ねた。

斜面地居住の5割近くの人が「自分の家の庭造り」に気をつけており、その他居住よりも多かった。また、「何もしていない・無回答」に関しても斜面地居住の方が少ない等、結果からは景観に関しては斜面地居住の方が気を配っている様子が窺える。

図表25 景観へ気を配る



(4) 空家の増加

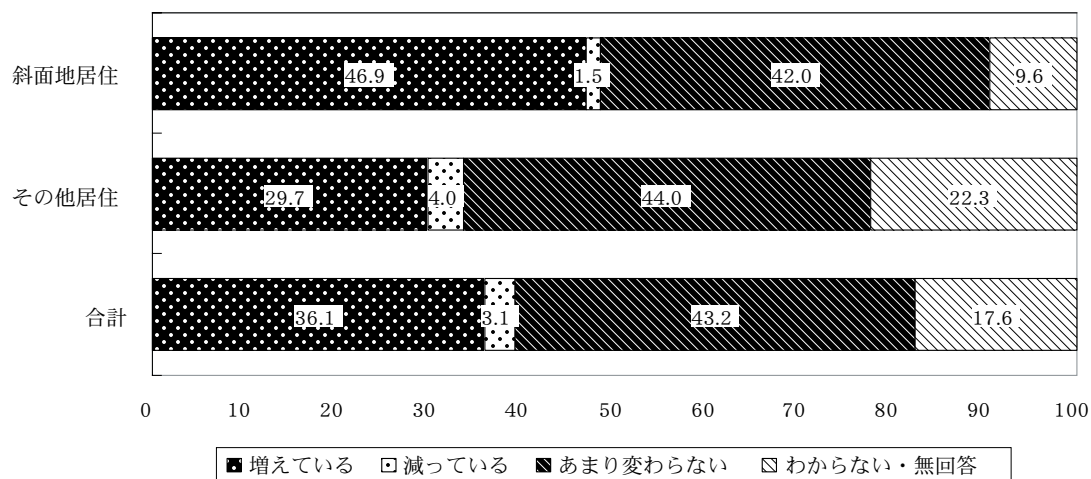
空家の増加に関しては少子化や高齢化の影響や、地域の環境の変化を示している。必ずしも地域への愛着を直接示しているとはいえないし、居住地域の地形の影響で転入者が少ないために空家が増えているともいえるが、環境や地域に気を配ることで気がつくことと、気がつかないことがある。その意味で、空家の増加に気がついていることは、地域への愛着を間接的に表していると見て取れる。また、空家に対する保全や修復の必要性を認識できたりもする。

地域の変化の認識と愛着を表すという意味で、空家や廃屋の増加について尋ねた。

結果は図表26に示した。これによると斜面地では空家や廃屋が増加していることを示している。高齢化が進んでいるとも考えられるが、46.9%が「増えている」と回答した。その他居住では約3割であるから、斜面地の方が空家や廃屋が増えているとみるべきであろう。地域の環境に気を配っていることの違いのみとはいいがたい。しかし、「あまり変わらない」という回答が斜面地とその他の間で差がないことや「わからない・無回答」がその他居住にかなり多いことからすると、地域の環境への気の配り方が違うことを示しているとも考えられる。いずれにしても斜面地の地域環境は空家や廃屋が増えていることは確かであろうが、気を配らない人はその他居住と同程度存在し、

気を配っている人は斜面地の方が多いといえるかも知れない。これも地域への愛着を表していることになるであろうし、斜面地の方が愛着はあるように見える。

図表26 空家や廃屋の増加



Ⅵ 転居や日常生活の安心

斜面地居住には景観や環境、人間関係等の良いところも多く、愛着もあるが、転居を考えたことがある人も皆無ではない。その転居の条件と日常生活での救急や消防の問題、役所や公共機関が遠い、交通が不便等の問題もない訳ではない。これらを考慮して安心して生活するために必要なことを尋ねた。転居の条件は不足していることや現在の生活で重要なことが条件になると思われる。そのため、安心して生活するために必要なことと重なる部分も多いと思われる。

1 転居の条件

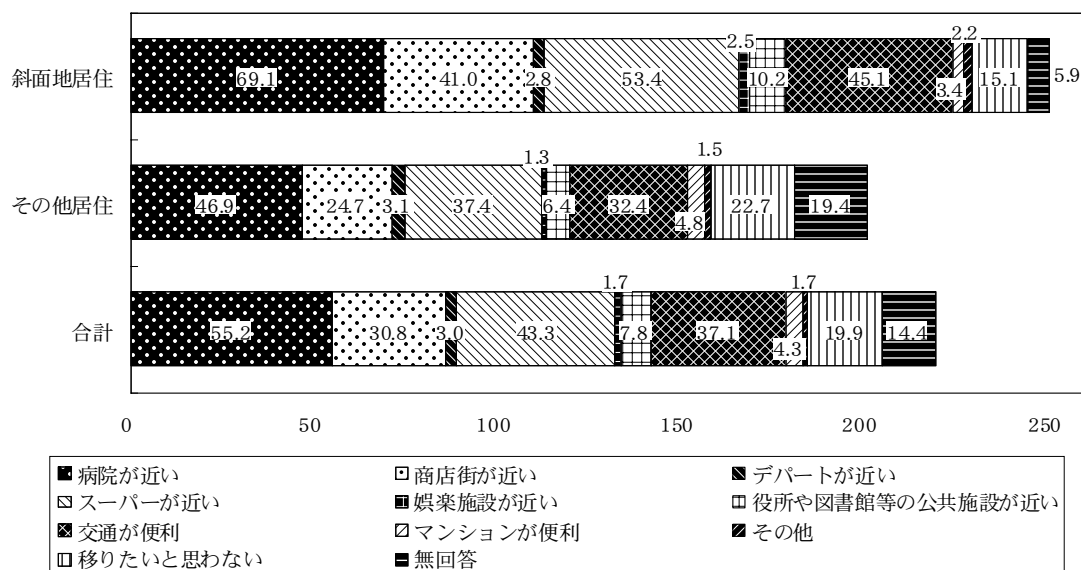
転居の条件は必要なこと・ものについて全て選択するという複数回答で質問した。その結果は図表27である。図表を見ると、一見して斜面地とその他の間の違いを示していることが分かる。第一に分かることは、斜面地居住の方が一人当たりの選択した項目が多いこととその他居住の無回答の多さである。

これを項目ごとに見ていくと、斜面地居住の約7割が選択したのは「病院が近い」であった。その他居住も「病院が近い」は最も回答が多かったのであるが、5割に満たない水準である。この違いは何を意味するか、明確ではないが、高齢化が進み医療へのニーズが高いと推測もできる。また、53.4%が「スーパーが近い」ことを条件としている。買い物物の不便さを表しているが、「商店街が近い」は41.0%であるから買い物には商店街よりもスーパーが選ばれる様子が窺える。スーパーに次いで三番目に多いのが「交通が便利」であった。これらの結果から、斜面地居住の転居の主要な条件は病院が近いこと、買い物物が便利（スーパーと商店街を加えると74.4%で病院を上回る）なこと、交通が便利なことである。一方、移りたいと思わない人も15.1%存在した。

その他居住の転居の主要な条件は病院が近い、買い物が便利なこと、交通が便利なことでは斜面地居住と同じである。しかし、病院が近い、買い物の便利さ（スーパーと商店街を加えてもると62.1%で病院を上回るのは同じ）、交通が便利のいずれも斜面地居住よりも低水準であり、移りたいと思わない人は22.7%、無回答は19.4%であり、この両方で4割を超える等、大きな違いが認められた。

生活環境として買い物、通院のための距離が障害になることに視点を置いて第1節でも検討したが、斜面地の方が障害は大きいことを確認できる。病院やスーパーを斜面地に近づける必要がある。

図表27 転居の条件



2 日常生活を安心して送るために重要なこと

日常生活を安心して送るために必要なことは、日常生活で困っていることは別の意味をもち、高齢者の不安とも関連する事柄である。多くの調査で既に報告されている主な不安は健康、経済、家族関係（人間関係）や社会保障である。特に昨今の年金・医療等の社会保障の問題や高齢者医療制度の開始等により、高齢者の不安、あるいは老後の不安として社会保障が順位を上げているが、基本的には健康であり、経済的に不安がなく、家族が近くにいることが、安心の必要条件である。その意味で、ここでは安心して送るための必要条件を尋ねたことになるが、回答には家族、近隣等の人間関係、福祉サービス、緊急時の救急・消防等を提示し、経済や健康は選択されることが明確であるために提示しなかった。つまり、一番の健康、二番の経済を除く三番目には、人間関係や福祉サービス、緊急時の救急・消防、役所のサービス等の中で何を重要と考えているかを尋ねていることになる。

結果図表28に示した通りである。これによると、斜面地居住で最も多かったのは「隣近所とのつき合い」であった。「同居している家族」「離れていても家族がいる」等の家族に関する回答も多いのであるが、「隣近所の親しい友人・知人」と並び「隣近所とのつき合い」は家族を上回った。「親

戚」は「役所のサービス」よりも回答が少なかった。

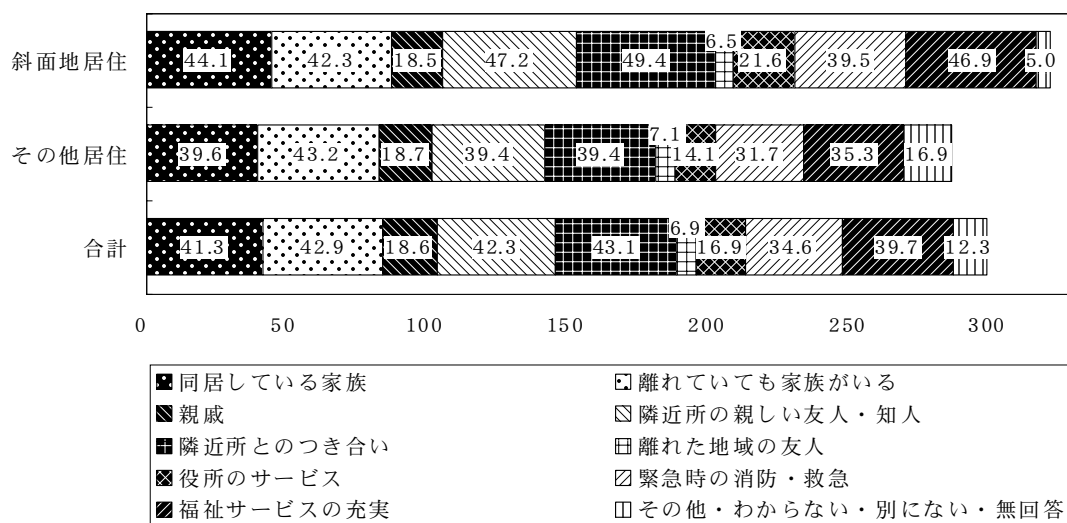
この隣近所との関係と同様に多かったのは「福祉サービスの充実」である。家族以上に安心して生活するためには重要と位置づけられている。また、「緊急時の消防・救急」も重要と考えられている。

その他居住の場合は「離れていても家族がいる」が最も多く、続いて「同居している家族」「隣近所の親しい友人・知人」「隣近所とのつき合い」が並んで重要とされ、「福祉サービスの充実」「緊急時の消防・救急」の順である。斜面地居住ほどに「役所のサービス」は重要と位置づけられていない。

このように斜面地居住ではどちらかというと隣近所とのつき合いや友人・知人を重視し、家族はその次であるが、その他居住では家族に次いで隣近所との関係を重視しているという違いが認められた。

北九州市と下関市で行った社会関係資本に関する調査結果では家族・親戚が中心の回答が多くを占め、近隣との人間関係を重視する回答は少なかったのであるが、この結果は斜面地居住の特徴といえるかもしれない。

図表28 日常生活を安心して暮らすために重要なこと



VII 対象者の基本属性

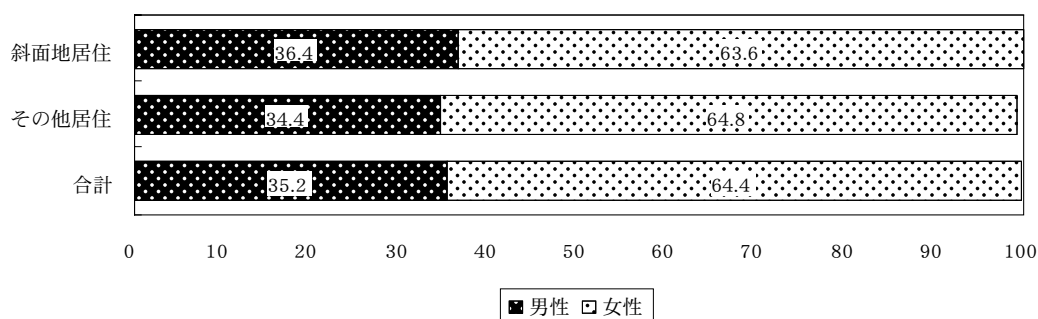
1 性別

性別は図表29の通り、全体では女性が64.4%、男性が35.2%であり、女性が男性の二倍近くを占めている。

調査に応じてくれた校(地)区の65歳以上全員を対象とした調査であり、回収率も96.7%と高いことから、この校(地)区の高齢者は女性が圧倒的に多いという構成である。

斜面地居住とその他居住の間には大差はないが、前者に男性多いことと後者では無回答が多い(無回答は省略)。

図表29 性別

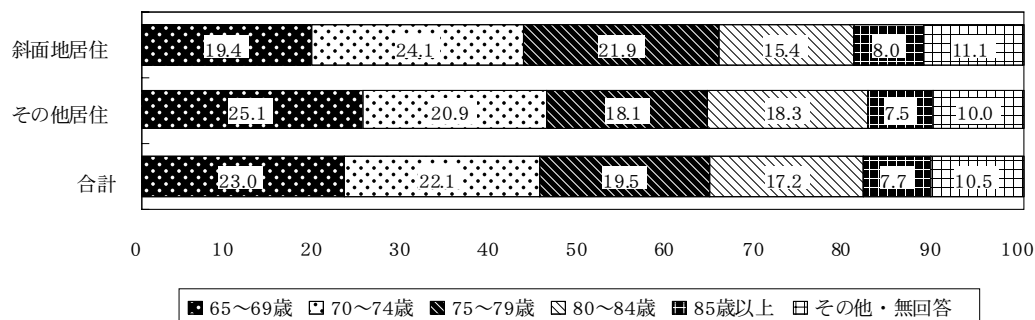


2 年齢構成

対象者の年齢構成は図表30の通りである。これによると全体では年齢が高くなるに従い比率は低下する。しかし、65～74歳と75歳以上に区分すると、前者が45.1%、後者が44.4%でほとんど同じである。なお、65歳以上を対象としたのであるが、家族が回答した人も含まれており、「その他」は約1割であった。集計には斜面地に居住の生活問題という意味で、この「その他」を含めている(福祉協力員の労力を無駄にしないためにも)。

買い物では斜面地居住の方が距離や坂道・段差が障害となっていたが、この年齢構成を見ると、斜面地居住は年齢が高いことにより障害が多いという訳ではないことが分かる。

図表30 年齢構成



なお、性別では圧倒的に女性が多かったのであるが、年齢区分別の性別は図表31の通りである。これによると年齢が高くなるほど女性の占める比率が高くなる傾向がある。

図表31 年齢別の性別構成

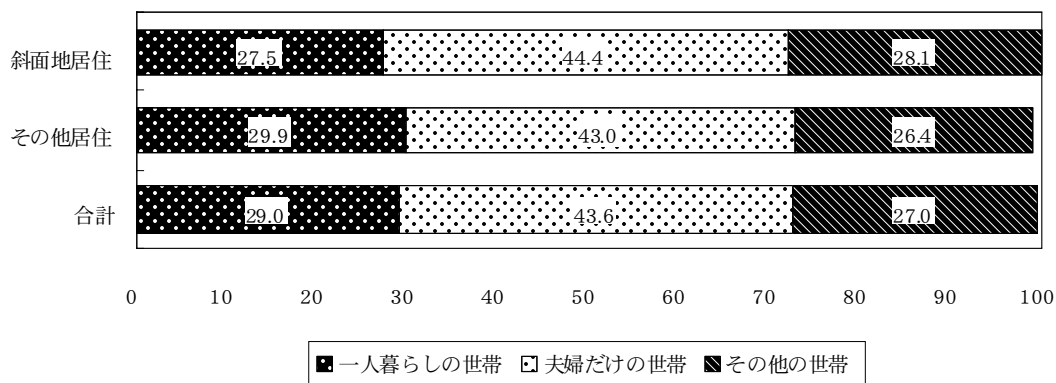
年齢区分	合計		男性		女性		無回答	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
65～69歳	200	100.0	76	38.0	124	62.0	—	—
70～74歳	192	100.0	76	39.6	116	60.4	—	—
75～79歳	170	100.0	62	36.5	107	62.9	1	0.6
80～84歳	150	100.0	44	29.3	106	70.7	—	—
85歳以上	67	100.0	20	29.9	47	70.1	—	—
その他	86	100.0	26	30.2	60	69.8	—	—
無回答	5	100.0	2	40.0	—	—	3	60.0
合計	870	100.0	306	35.2	560	64.4	4	0.5

3 世帯構成

世帯構成は、全体では約3割が一人暮らし、約4割が夫婦のみ世帯、約3割がその他の世帯である。その他の世帯は子ども、孫と同居である。

斜面地居住とその他居住の間では、前者は一人暮らしが多少少なく、夫婦のみ世帯が多少多い。

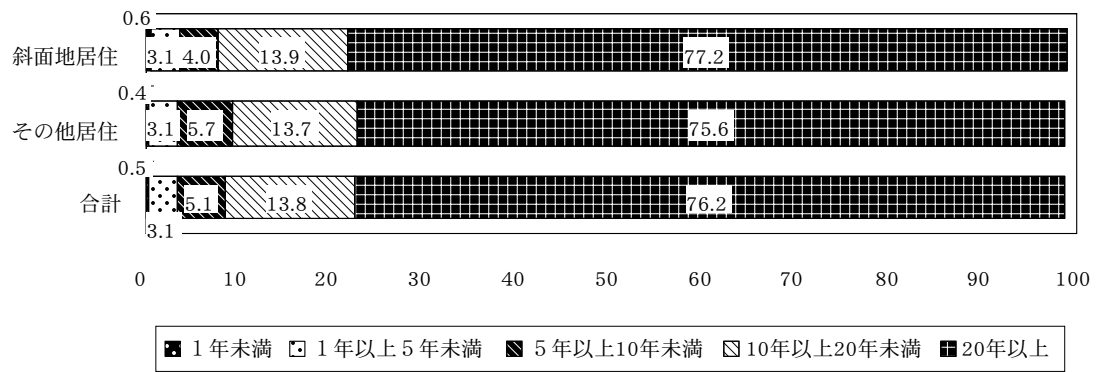
図表32 世帯構成



4 居住年数

居住年数は、全体では20年以上が76.2%と多く占めており、10～20年未満が13.8%であるから、これらで9割以上を占めている。居住年数に関しては斜面地居住もその他居住も大差がない。

図表33 居住年数



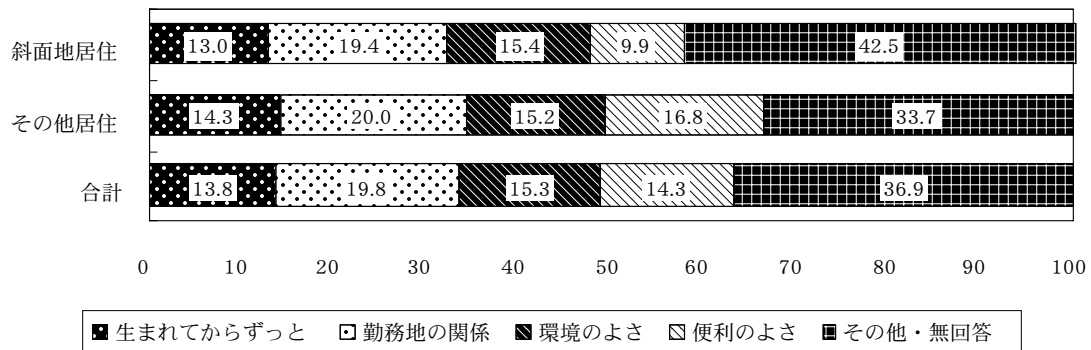
5 現在の地域に住むきっかけ

現在の地域に住むようになったきっかけは、全体では最も多い「その他」を除くと「勤務地の関係」が最も多い。続いて大きな差がなく「環境の良さ」「便利の良さ」「生まれてからずっと」である。

一方、斜面地居住では「その他」が多く、その他居住に比べて「便利の良さ」が少なくなっている。「勤務地の関係」「環境の良さ」「生まれてからずっと」という理由には差がない。

その他の主な内容は図表35に全体を示しているが、「結婚」が圧倒的に多く、「親や先祖代々住んでいた・親との同居」「土地や家を購入」「市営住宅入居」が続いて多い。「親と同居・介護のため」や「家業・仕事」も理由となっている。

図表34 現在の地域に住むきっかけ



図表35 住むようになったきっかけ（その他の内容）

結婚	47
親が住んでいた、同居、先祖代々	17
土地や家屋がある、入手できた・購入	14
市営住宅	8
移転・転居・引越	6
祖父母が老いた為、後を継ぐため	6
生家に帰ってきた、近い、結婚して離れ、また実家にもどる	5
商売をするため、仕事のため	5
親戚の勧めで、近くににいる	4
自家、生まれた所	4
子供の学校関係	3
被災のためやむなく	4
親の介護・世話の為	3
娘世帯と同居、姉妹と同居	2
アパート・借家	3
知人のお世話、勧め、近くに住むため	2
バリアフリー建築なので	1
免許の関係	1
釣りが趣味で海の近いところ	1
子供から独立して自由に生活したいので	1
自分の土地があるので。結婚して。	1
実姉の転勤により	1
車が入らず坂が多かったので	1
計	166

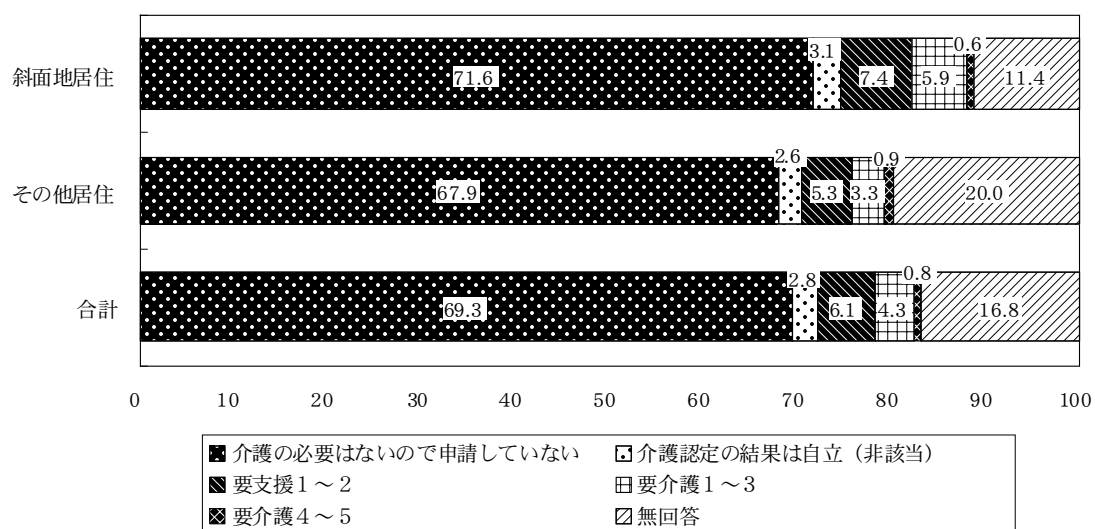
6 介護保険の介護度の認定結果について

図表36は介護度の認定結果を示している。全体では、約7割の人が介護の必要がないため申請しておらず、要支援1～要介護5までの計が11.2%である。これは市の認定率16～18%程度よりかなり低い水準である。

居住地別では斜面地居住の方が介護の必要がないため申請していない比率は高いのであるが、要支援1～要介護5は13.9%であり、その他居住の9.5%よりも認定率が高い。

介護度は年齢との関連が強いが、図表30より、居住地別年齢構成では特に斜面地居住が高い訳ではない。また、介護度による居住地別の生活問題の違いを検討するつもりであったが、認定者数が少ないために、そこまで進めないこととした。

図表36 介護保険での介護度



以上が高齢者の斜面地居住と距離に伴う問題、及び社会関係に関する調査結果である。今後は、社会関係の質・量の分析方法を工夫する等を行いながら、平行して調査地点を増やしていく予定である。

以下には、付表として今回使用した調査票と性別、年齢別等の基本属性ごとの結果の集計表を掲載した。

〈参考文献〉

藤井正、光多長温、小野達也、家中茂編著「地域政策入門」ミネルヴァ書房、2008

傾斜のきつい長い階段



長く続く急な坂道



日陰や風除けもない道路



地域の生活問題に関するアンケート

問1 アンケートの集計に必要な基本的事柄についてお聞きします（属性）

(1) 性別はどちらですか。

1. 男 性 2. 女 性

(2) 何歳ですか。

1. 65～69歳 2. 70～74歳 3. 75～79歳 4. 80～84歳
5. 85歳以上 6. その他（ ）

(3) 現在のあなたの世帯は次のどれですか。

1. 一人暮らしの世帯 2. 夫婦だけの世帯 3. その他の世帯（ ）

(4) あなたは、この地域（小学校区くらい）に何年お住まいですか。

1. 1年未満 2. 1年以上5年未満 3. 5年以上10年未満
4. 10年以上20年未満 5. 20年以上

(5) 現在お住まいの地域に住むきっかけはなんですか。

1. 生まれてからずっと 2. 勤務地の関係 3. 環境のよさ
4. 便利のよさ 5. その他（ ）

(6) お住まい地域で、良いと思う「もの」や「こと」は何ですか。次の中からいくつでも選んで、番号に○を付けてください。

1. 自然環境 2. 景観 3. 住民の人間関係 4. 祭や行事
5. 地区の施設 6. 空気が良い 7. 車が入ってこない
8. その他（ ） 9. 特にない

(7) 住めば都といいますが、ずっと現在の地域に住みたいですか。

1. 住みたい 2. できれば転居したい 3. 考えたことがない

(8) 子どもさんやお孫さんにも住んで欲しいと思いますか。

1. 思う 2. 思わない

問2 生活についてお聞きします

(1) 日常生活で利用する道路は転倒などの危険性を感じることや、そのような場所がありますか。

1. ある 2. ない 3. その他

(2) 散歩や食料品、日用品の買い物を含めて外出はどの程度しますか。

1. 毎日 2. 1週間に2～3回 3. 1週間に1回程度
4. 1月に2～3回程度 5. 1月に1回程度 6. その他（ ）
7. ほとんどしない 8. まったくしない

(3) 最も多く食料品や日用品の買い物をする店はどこですか。

- | | | |
|-----------|---------|---------|
| 1. 商店街や市場 | 2. スーパー | 3. コンビニ |
| 4. 近隣の小売店 | 5. その他 | |

(4) 最も多く食料品や日用品の買い物をする店までの距離はどの位ですか。

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1. 500メートル以内 | 2. 1キロメートル以内 | 3. 1キロメートル以上 |
|--------------|--------------|--------------|

(5) 最も多く食料品や日用品の買い物をする店までどのようにして行きますか。

- | | | |
|--------------|-----------------------|-------------------|
| 1. 徒歩 | 2. 自転車 | 3. バスや電車等の公共交通機関 |
| 4. 自家用車 | 5. タクシー | 6. 近所の人が買い物をしてくれる |
| 7. 店が配達してくれる | 8. その他 () | |

(6) 食料品や日用品の買い物をする際に困ることはどのようなことですか。

- | | | |
|-------------------|--------|----------------|
| 1. 距離が遠い | 2. 坂道 | 3. 階段や段差 |
| 4. 買い物の費用より交通費が高い | | 5. 買い物を十分にできない |
| 6. 困ることはない | 7. その他 | 8. 買い物に行かない |

(7) 病院には週に何回くらい通いますか。

- | | | |
|-------------|-----------------------|-------------|
| 1. 通院の必要がない | 2. 毎日 | 3. 1週間に2～3回 |
| 4. 1週間に1回程度 | 5. 1月に2～3回程度 | 6. 1月に1回程度 |
| 7. 決まっていない | 8. その他 () | |

(8) 通院はどのようにして行きますか。

- | | | |
|------------------|---|---------|
| 1. 通院していない | 2. 徒歩 | 3. 自転車 |
| 4. バスや電車等の公共交通機関 | | 5. 自家用車 |
| 6. タクシー | 7. その他 () | |

(9) 通院で困ることはどのようなことですか。

- | | | |
|------------|---|---------------|
| 1. 通院していない | 2. 距離が遠い | 3. 坂道 |
| 4. 階段や段差 | 5. 交通費が高い | 6. 公共交通機関が少ない |
| 7. 困ることはない | 8. その他 () | |

(10) 生活全体として考えて、暮らしの中で困っていることや気になること、悩みごと等がありますか。次の中からいくつでも選んで番号に○を付けて下さい。

- | | |
|-----------------------|--|
| 1. 買い物が不便なこと | 2. 坂道や道路の傾斜がきついこと |
| 3. 住まいのこと | 4. 空家が多くなったこと |
| 5. 病院への通院が不便なこと | 6. 自家用車を置くスペースがないこと |
| 7. 自動車を使えないこと | 8. 救急や消防等の救急に不安なこと |
| 9. 役所や図書館などの公共施設が遠いこと | 10. 外出しにくいこと |
| 11. 歩道が整備されていないこと | 12. ひきこもりがちであること |
| 13. 交通の便が悪いこと | 14. 近所づきあいがいないこと |
| 15. 孤立感を感じていること | 16. その他 () |
| 17. 別にない | |

問3 地域の活動についてお聞きします。

(1) 町内会・自治会の活動には参加していますか。

1. 参加している 2. たまに参加している 3. ほとんど参加していない
4. 参加していない

(2) 参加している団体はありますか。

1. 老人クラブ 2. まちづくり協議会 3. 校区(地区)社会福祉協議会
4. その他

(3) 伝統的な年中行事や祭りは行われていますか。

1. 従来通り行われている 2. かつてより少なくなった 3. ほとんどなくなった

(4) 伝統的な年中行事や祭りには参加していますか。

1. 好きで参加していない 2. 役割で参加している 3. あまり参加していない
4. 祭りや行事は参加していない

(5) あなたは、週に何回ぐらい、近所の人たちと話をしますか。主なものを1つ選び、番号に○を付けて下さい（単なるあいさつは除きます）。

1. ほとんど毎日 2. 週に2回以上 3. 月に1回以上
4. ほとんどない

(6) 近所の人とは、どのようなお付き合いをなさっていますか。次の中からいくつでも選んで番号に○を付けて下さい。

1. 挨拶や立ち話をする程度 2. 趣味を一緒にする 3. 宗教活動をともにする
4. 老人クラブ等で一緒に活動する 5. 互いの家を行き来する
6. 病気の時に助け合う
7. 日常での家事やちょっとした用事、相談ごとや物のやりとりをする
8. つき合いはない 9. その他（ ）

(7) 家で電話やメール、手紙を書くようなことをしますか。

1. 直接会って話をしたり、行動をともにする方が多い
2. 会うよりも電話やメール、手紙でのやりとりのほうが多い
3. 電話やメール、手紙は必要な時だけする
4. ほとんどしない

問4 ご近所の方と次のよう手助けをしたり、してもらったりしたことがありますか。(1)から(15)の中で、「手助けした」場合は1に、「してもらった」場合は2に、両方ある場合には1、2に○を付けてください（団体でした場合も含みます）。該当しない場合は○を付けないでください。

ご近所の方とお互いに手助けし合いましたか？	した	してもらった
(1) 高齢者の見守り・声かけ	1	2
(2) 子どもの世話	1	2

(3) 留守番・留守宅の見守り	1	2
(4) 食事を作った・食事を届ける	1	2
(5) 買い物	1	2
(6) 家の補修・手入れ（電球の取替えなど含む）	1	2
(7) 庭の除草・剪定・手入れ	1	2
(8) 家の掃除	1	2
(9) 外出時の送迎・付き添い	1	2
(10) 相談ごと	1	2
(11) お金の貸し借り	1	2
(12) 物の貸し借り（道具・食品・日用品）	1	2
(13) 看病・介護	1	2
(14) 情報提供（お買い物・病院・福祉・教育の情報）	1	2
(15) その他（ ）	1	2

問5 地域についてお聞きします

(1) 景観に気をつけて次のようなことをしていますか。

1. 自分の家の庭造り（植栽や花壇など）に気をつけている
2. 景観を保つために、近くの景色を良くするため、あるいは景色の保全に関わったことがある
3. 空家や廃屋の保全や修復
4. その他

(2) お住まいの地域に空家や廃屋は増えていますか。

1. 増えている
2. 減っている
3. あまり変わらない

(3) 北九州市の基本構想の中にコンパクトシティ構想があります。商店やデパート、スーパー、病院などが身近にあり、歩いて暮らせる街づくり構想ですが、仮にマンション等移るとすれば、主にどのような理由によりますか。3つまで選んでください。

1. 病院が近い
2. 商店街が近い
3. デパートが近い
4. スーパーが近い
5. 娯楽施設が近い
6. 役所や図書館等の公共施設が近い
7. 交通が便利
8. マンションが便利
9. その他（ ）
10. 移りたいと思わない

(4) 日常生活を安心して送るためには何が重要だと思いますか。次の中からいくつでも選んで番号に○を付けて下さい。

1. 同居している家族
2. 離れていても家族がいる
3. 親戚
4. 隣近所の親しい友人・知人
5. 隣近所との付き合い
6. 離れた地域の友人
7. 役所のサービス
8. 緊急時の消防・救急
9. 福祉サービスの充実
10. その他（ ）
11. わからない
12. 別がない

問 6 介護保険で介護度の認定を受けていますか。

1. 介護の必要はないので申請していない 2. 介護認定の結果は自立（非該当）
3. 要支援 1～2 4. 要介護 1～3 5. 要介護 4～5

ご協力をありがとうございました

回収用の封筒に入れて封をしてお渡してください

結果をお知りになりたい場合は下記に宛名をお書き下さい。集計結果を郵送いたします。

ご住所

ご氏名

	問	問1.1 性別		問1.2 年齢区分						問1.3 世帯構成						
		合計	男性	女性	無回答	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	その他	無回答	一人暮らしの世帯	夫婦だけの世帯	その他の世帯	無回答
性別	合計（無回答省略）	870	306	560	4	200	192	170	150	67	86	5	252	379	235	4
		100.0	35.2	64.4	0.5	23.0	22.1	19.5	17.2	7.7	9.9	0.6	29.0	43.6	27.0	0.5
	男性	306	306	—	—	76	76	62	44	20	26	2	38	189	79	—
		100.0	100.0	—	—	24.8	24.8	20.3	14.4	6.5	8.5	0.7	12.4	61.8	25.8	—
	女性	560	—	560	—	124	116	107	106	47	60	—	214	189	156	1
年齢区分		100.0	—	100.0	—	22.1	20.7	19.1	18.9	8.4	10.7	—	38.2	33.8	27.9	0.2
	65～69歳	200	76	124	—	200	—	—	—	—	—	—	37	106	57	—
		100.0	38.0	62.0	—	100.0	—	—	—	—	—	—	18.5	53.0	28.5	—
	70～74歳	192	76	116	—	—	192	—	—	—	—	—	48	103	41	—
		100.0	39.6	60.4	—	—	100.0	—	—	—	—	—	25.0	53.6	21.4	—
	75～79歳	170	62	107	1	—	—	170	—	—	—	—	59	82	29	—
		100.0	36.5	62.9	0.6	—	—	100.0	—	—	—	—	34.7	48.2	17.1	—
	80～84歳	150	44	106	—	—	—	—	150	—	—	—	71	40	38	1
		100.0	29.3	70.7	—	—	—	—	100.0	—	—	—	47.3	26.7	25.3	0.7
	85歳以上	67	20	47	—	—	—	—	—	67	—	—	28	16	23	—
世帯構成		100.0	29.9	70.1	—	—	—	—	—	100.0	—	—	41.8	23.9	34.3	—
	その他	86	26	60	—	—	—	—	—	—	86	—	9	30	47	—
		100.0	30.2	69.8	—	—	—	—	—	—	100.0	—	10.5	34.9	54.7	—
	一人暮らしの世帯	252	38	214	—	37	48	59	71	28	9	—	252	—	—	—
居住地域		100.0	15.1	84.9	—	14.7	19.0	23.4	28.2	11.1	3.6	—	100.0	—	—	—
	夫婦だけの世帯	379	189	189	1	106	103	82	40	16	30	2	—	379	—	—
		100.0	49.9	49.9	0.3	28.0	27.2	21.6	10.6	4.2	7.9	0.5	—	100.0	—	—
	その他の世帯	235	79	156	—	57	41	29	38	23	47	—	—	—	235	—
		100.0	33.6	66.4	—	24.3	17.4	12.3	16.2	9.8	20.0	—	—	—	100.0	—
	斜面地居住	324	118	206	—	63	78	71	50	26	35	1	89	144	91	—
		100.0	36.4	63.6	—	19.4	24.1	21.9	15.4	8.0	10.8	0.3	27.5	44.4	28.1	—
	その他居住	546	188	354	4	137	114	99	100	41	51	4	163	235	144	4
		100.0	34.4	64.8	0.7	25.1	20.9	18.1	18.3	7.5	9.3	0.7	29.9	43.0	26.4	0.7
	介護の必要はないので申請していない	603	225	378	—	173	137	103	92	25	71	2	152	276	175	—
介護保険の介護度		100.0	37.3	62.7	—	28.7	22.7	17.1	15.3	4.1	11.8	0.3	25.2	45.8	29.0	—
	介護認定の結果は自立（非該当）	24	9	15	—	6	4	7	3	4	—	—	9	9	6	—
		100.0	37.5	62.5	—	25.0	16.7	29.2	12.5	16.7	—	—	37.5	37.5	25.0	—
	要支援1～2	53	12	41	—	1	15	12	14	9	2	—	31	14	8	—
		100.0	22.6	77.4	—	1.9	28.3	22.6	26.4	17.0	3.8	—	58.5	26.4	15.1	—
	要介護1～3	37	10	27	—	—	3	9	11	14	—	—	16	13	8	—
		100.0	27.0	73.0	—	—	8.1	24.3	29.7	37.8	—	—	43.2	35.1	21.6	—
介護度	要介護4～5	7	5	2	—	—	3	—	1	3	—	—	1	2	4	—
		100.0	71.4	28.6	—	—	42.9	—	14.3	42.9	—	—	14.3	28.6	57.1	—
	無回答	146	45	97	4	20	30	39	29	12	13	3	43	65	34	4
		100.0	30.8	66.4	2.7	13.7	20.5	26.7	19.9	8.2	8.9	2.1	29.5	44.5	23.3	2.7

	問	問1.4 居住年					問1.5 住むようになったきっかけ							
	合計	1 年未満	1 年以上 5 年未満	5 年以上 10 年未満	10 年以上 20 年未満	20 年以上	無回答	生まれてか らずっと	勤務地の関係	環境のよさ	便利のよさ	その他	無回答	
性別	合計（無回答省略）	870	4	27	44	120	663	12	120	172	133	124	282	39
	男性	100.0	0.5	3.1	5.1	13.8	76.2	1.4	13.8	19.8	15.3	14.3	32.4	4.5
年齢区分	女性	306	—	10	12	44	236	4	62	69	48	39	77	11
	65～69歳	100.0	—	3.3	3.9	14.4	77.1	1.3	20.3	22.5	15.7	12.7	25.2	3.6
世帯構成	一人暮らしの世帯	560	4	17	32	76	426	5	58	102	85	85	205	25
	夫婦だけの世帯	100.0	0.7	3.0	5.7	13.6	76.1	0.9	10.4	18.2	15.2	15.2	36.6	4.5
居住地域	斜面地居住	200	1	5	14	24	156	—	29	48	29	29	58	7
	その他居住	100.0	0.5	2.5	7.0	12.0	78.0	—	14.5	24.0	14.5	14.5	29.0	3.5
介護保険の介護度	要介護 1～3	192	—	4	10	32	141	5	26	40	32	21	64	9
	要介護 4～5	100.0	—	2.1	5.2	16.7	73.4	2.6	13.5	20.8	16.7	10.9	33.3	4.7
	無回答	170	1	8	11	26	121	3	22	29	23	28	59	9
	85歳以上	100.0	0.6	4.7	6.5	15.3	71.2	1.8	12.9	17.1	13.5	16.5	34.7	5.3
	その他	150	1	5	6	14	123	1	17	25	28	25	50	5
	80～84歳	100.0	0.7	3.3	4.0	9.3	82.0	0.7	11.3	16.7	18.7	16.7	33.3	3.3
	一人暮らしの世帯	67	—	1	3	7	56	—	10	13	13	8	19	4
	夫婦だけの世帯	100.0	—	1.5	4.5	10.4	83.6	—	14.9	19.4	19.4	11.9	28.4	6.0
	斜面地居住	86	1	4	—	17	64	—	16	15	8	13	32	2
	その他居住	100.0	1.2	4.7	—	19.8	74.4	—	18.6	17.4	9.3	15.1	37.2	2.3
	一人暮らしの世帯	252	2	12	24	32	177	5	28	51	38	45	80	10
	夫婦だけの世帯	100.0	0.8	4.8	9.5	12.7	70.2	2.0	11.1	20.2	15.1	17.9	31.7	4.0
	斜面地居住	379	—	8	9	52	307	3	56	92	57	55	100	19
	その他居住	100.0	—	2.1	2.4	13.7	81.0	0.8	14.8	24.3	15.0	14.5	26.4	5.0
	一人暮らしの世帯	235	2	7	11	36	178	1	35	29	38	24	102	7
	夫婦だけの世帯	100.0	0.9	3.0	4.7	15.3	75.7	0.4	14.9	12.3	16.2	10.2	43.4	3.0
	斜面地居住	324	2	10	13	45	250	4	42	63	50	32	125	12
	その他居住	100.0	0.6	3.1	4.0	13.9	77.2	1.2	13.0	19.4	15.4	9.9	38.6	3.7
	一人暮らしの世帯	546	2	17	31	75	413	8	78	109	83	92	157	27
	夫婦だけの世帯	100.0	0.4	3.1	5.7	13.7	75.6	1.5	14.3	20.0	15.2	16.8	28.8	4.9
	一人暮らしの世帯	603	4	15	33	83	464	4	74	120	94	93	201	21
	夫婦だけの世帯	100.0	0.7	2.5	5.5	13.8	76.9	0.7	12.3	19.9	15.6	15.4	33.3	3.5
	斜面地居住	24	—	1	1	2	20	—	3	10	2	1	8	—
	その他居住	100.0	—	4.2	4.2	8.3	83.3	—	12.5	41.7	8.3	4.2	33.3	—
	一人暮らしの世帯	53	—	4	3	8	38	—	6	14	4	7	19	3
	夫婦だけの世帯	100.0	—	7.5	5.7	15.1	71.7	—	11.3	26.4	7.5	13.2	35.8	5.7
	斜面地居住	37	—	1	2	3	31	—	10	4	6	3	13	1
	その他居住	100.0	—	2.7	5.4	8.1	83.8	—	27.0	10.8	16.2	8.1	35.1	2.7
	一人暮らしの世帯	7	—	—	—	—	7	—	—	2	2	—	3	—
	夫婦だけの世帯	100.0	—	—	—	—	100.0	—	—	28.6	28.6	—	42.9	—
	斜面地居住	146	—	6	5	24	103	8	27	22	25	20	38	14
	その他居住	100.0	—	4.1	3.4	16.4	70.5	5.5	18.5	15.1	17.1	13.7	26.0	9.6

	問		問1.6 地域でよいと思うもの・こと（多重回答）									
	合計	自然環境	景観	住民の人間関係	祭や行事	地区の施設	空気が良い	車が入ってこない	特にない	その他	無回答	
合計（無回答省略）	870	442	169	316	12	67	316	98	43	137	15	
	100.0	50.8	19.4	36.3	1.4	7.7	36.3	11.3	4.9	15.7	1.7	
性別	男性	306	165	70	101	4	24	115	35	47	5	
	100.0	53.9	22.9	33.0	1.3	7.8	37.6	11.4	5.6	15.4	1.6	
女性	560	276	99	215	8	43	201	63	26	90	7	
	100.0	49.3	17.7	38.4	1.4	7.7	35.9	11.3	4.6	16.1	1.3	
年齢区分	65～69歳	200	101	45	67	2	18	75	16	33	3	
	100.0	50.5	22.5	33.5	1.0	9.0	37.5	8.0	5.0	16.5	1.5	
	70～74歳	192	106	38	60	4	11	75	11	31	1	
	100.0	55.2	19.8	31.3	2.1	5.7	39.1	14.6	5.7	16.1	0.5	
	75～79歳	170	80	33	63	1	14	62	7	25	5	
	100.0	47.1	19.4	37.1	0.6	8.2	36.5	11.8	4.1	14.7	2.9	
	80～84歳	150	65	23	59	3	12	54	5	25	2	
	100.0	43.3	15.3	39.3	2.0	8.0	36.0	12.0	3.3	16.7	1.3	
	85歳以上	67	40	5	32	1	5	23	7	10	—	
	100.0	59.7	7.5	47.8	1.5	7.5	34.3	10.4	3.0	14.9	—	
その他	86	50	25	34	1	7	26	9	8	12	1	
	100.0	58.1	29.1	39.5	1.2	8.1	30.2	10.5	9.3	14.0	1.2	
世帯構成	一人暮らしの世帯	252	106	40	113	3	19	82	38	11	38	4
	100.0	42.1	15.9	44.8	1.2	7.5	32.5	15.1	4.4	15.1	1.6	
夫婦だけの世帯	379	219	88	126	6	34	142	31	19	56	7	
	100.0	57.8	23.2	33.2	1.6	9.0	37.5	8.2	5.0	14.8	1.8	
その他の世帯	235	117	41	76	3	14	91	29	13	43	1	
	100.0	49.8	17.4	32.3	1.3	6.0	38.7	12.3	5.5	18.3	0.4	
斜面地居住	324	199	71	116	6	17	153	41	13	47	3	
	100.0	61.4	21.9	35.8	1.9	5.2	47.2	12.7	4.0	14.5	0.9	
その他居住	546	243	98	200	6	50	163	57	30	90	12	
	100.0	44.5	17.9	36.6	1.1	9.2	29.9	10.4	5.5	16.5	2.2	
介護保険の介護度	介護の必要はないの で申請していない	603	323	119	222	7	49	234	67	87	4	
	100.0	53.6	19.7	36.8	1.2	8.1	38.8	11.1	5.5	14.4	0.7	
	介護認定の結果は自 立（非該当）	24	12	8	5	3	8	3	—	4	—	
	100.0	50.0	33.3	20.8	4.2	12.5	33.3	12.5	—	16.7	—	
	要支援1～2	53	24	10	21	—	16	5	4	8	—	
	100.0	45.3	18.9	39.6	—	3.8	30.2	9.4	7.5	15.1	—	
	要介護1～3	37	19	3	14	2	3	14	6	8	2	
	100.0	51.4	8.1	37.8	5.4	8.1	37.8	16.2	—	21.6	5.4	
要介護4～5	7	4	1	2	—	—	3	1	—	2	—	
	100.0	57.1	14.3	28.6	—	—	42.9	14.3	—	28.6	—	
無回答	146	60	28	52	2	10	41	16	6	28	9	
	100.0	41.1	19.2	35.6	1.4	6.8	28.1	11.0	4.1	19.2	6.2	

	問 合計	問1.7 住み続けたい				問1.8 子どもさんやお孫さんにも住んで欲しい				問2.1 日常生活で利用する道路は転倒などの危険性			
		住み続けたい 590	できれば転居したい 102	考えたことがない 166	無回答	思う 412	思わない 389	無回答	ある 461	ない 362	その他 31	無回答	
性別	合計（無回答省略）	870	67.8	11.7	19.1	12	14	7.9	53.0	41.6	3.6	1.8	
	男性	306	212	29	62	3	3	16	150	139	15	2	
	女性	560	377	73	104	6	6	50	311	222	16	11	
		100.0	67.3	13.0	18.6	1.1	43.8	8.9	55.5	39.6	2.9	2.0	
		200	137	21	40	2	89	13	109	78	10	3	
年齢区分	65～69歳	100.0	68.5	10.5	20.0	1.0	44.5	6.5	54.5	39.0	5.0	1.5	
	70～74歳	192	128	26	35	3	90	8	109	74	9	—	
	75～79歳	100.0	66.7	13.5	18.2	1.6	46.9	4.2	56.8	38.5	4.7	—	
		170	114	21	35	—	77	18	84	79	5	2	
		100.0	67.1	12.4	20.6	—	45.3	10.6	49.4	46.5	2.9	1.2	
世帯構成	80～84歳	150	107	12	28	3	62	15	74	67	4	5	
	85歳以上	100.0	71.3	8.0	18.7	2.0	41.3	10.0	49.3	44.7	2.7	3.3	
		67	50	6	11	0	30	6	37	24	3	3	
	その他	100.0	74.6	9.0	16.4	0.0	44.8	9.0	55.2	35.8	4.5	4.5	
		86	53	15	17	1	39	6	47	39	—	—	
世帯構成	一人暮らしの世帯	100.0	61.6	17.4	19.8	1.2	45.3	7.0	54.7	45.3	—	—	
	夫婦だけの世帯	252	177	35	38	2	122	35	137	106	5	4	
	その他の世帯	100.0	70.2	13.9	15.1	0.8	48.4	13.9	54.4	42.1	2.0	1.6	
		379	262	33	78	6	173	21	196	159	17	7	
		100.0	69.1	8.7	20.6	1.6	45.6	5.5	51.7	42.0	4.5	1.8	
居住地域	斜面地居住	235	150	34	50	1	94	10	128	96	9	2	
	その他居住	100.0	63.8	14.5	21.3	0.4	40.0	4.3	54.5	40.9	3.8	0.9	
		324	181	58	82	3	170	19	252	56	11	5	
		100.0	55.9	17.9	25.3	0.9	52.5	5.9	77.8	17.3	3.4	1.5	
		546	409	44	84	9	219	50	209	306	20	11	
介護保険の介護度	介護の必要はないの で申請していない	100.0	74.9	8.1	15.4	1.6	40.1	9.2	38.3	56.0	3.7	2.0	
	介護認定の結果は自 立（非該当）	603	407	64	127	5	277	40	315	256	26	6	
	要支援1～2	100.0	67.5	10.6	21.1	0.8	45.9	6.6	52.2	42.5	4.3	1.0	
		24	17	3	4	—	7	1	16	8	—	—	
		100.0	70.8	12.5	16.7	—	29.2	4.2	66.7	33.3	—	—	
介護保険の介護度	要介護1～3	53	40	8	4	1	24	5	36	15	1	1	
		100.0	75.5	15.1	7.5	1.9	45.3	9.4	67.9	28.3	1.9	1.9	
	要介護4～5	37	26	5	6	—	16	3	24	10	3	—	
		100.0	70.3	13.5	16.2	—	43.2	8.1	64.9	27.0	8.1	—	
		7	5	2	—	—	1	1	4	3	—	—	
無回答	100.0	71.4	28.6	—	—	14.3	14.3	14.3	57.1	42.9	—	—	
	146	95	20	25	6	64	19	66	70	1	9	6.2	
	100.0	65.1	13.7	17.1	4.1	43.8	13.0	45.2	47.9	0.7	6.2		

問2.2 散歩や食料品、日用品の買い物を含めて外出はどの程度										
問	毎日	1週間に2～3回	1週間に1回程度	1週間に2～3回程度	1月に1回程度	その他	ほとんどしない	まったくしない	無回答	
性別	合計（無回答省略）	870	351	343	76	31	6	16	25	16
		100.0	40.3	39.4	8.7	3.6	0.7	1.8	2.9	1.8
	男性	306	129	111	30	12	2	6	9	7
		100.0	42.2	36.3	9.8	3.9	0.7	2.0	2.9	2.3
	女性	560	221	232	46	19	4	10	16	9
		100.0	39.5	41.4	8.2	3.4	0.7	1.8	2.9	1.6
	65～69歳	200	102	78	12	5	1	—	2	—
		100.0	51.0	39.0	6.0	2.5	0.5	—	1.0	—
	70～74歳	192	86	82	11	5	1	4	3	—
		100.0	44.8	42.7	5.7	2.6	0.5	2.1	1.6	—
年齢区分	75～79歳	170	65	66	17	8	2	3	5	2
		100.0	38.2	38.8	10.0	4.7	1.2	1.8	2.9	1.2
	80～84歳	150	35	72	23	6	2	3	5	3
		100.0	23.3	48.0	15.3	4.0	1.3	2.0	3.3	2.0
	85歳以上	67	12	20	8	5	—	4	8	10
		100.0	17.9	29.9	11.9	7.5	—	6.0	11.9	14.9
	その他	86	50	25	5	2	—	2	1	—
		100.0	58.1	29.1	5.8	2.3	—	2.3	1.2	1.2
	一人暮らしの世帯	252	76	122	29	12	—	9	3	1
		100.0	30.2	48.4	11.5	4.8	—	3.6	1.2	0.4
世帯構成	夫婦だけの世帯	379	177	138	27	11	1	4	12	6
		100.0	46.7	36.4	7.1	2.9	0.3	1.1	3.2	1.6
	その他の世帯	235	98	82	20	8	5	3	10	9
居住地域		100.0	41.7	34.9	8.5	3.4	2.1	1.3	4.3	3.8
	斜面地居住	324	105	142	34	11	3	7	14	6
		100.0	32.4	43.8	10.5	3.4	0.9	2.2	4.3	1.9
	その他居住	546	246	201	42	20	3	9	11	10
介護保険の介護度		100.0	45.1	36.8	7.7	3.7	0.5	1.6	2.0	1.8
	介護の必要はないの で申請していない	603	277	242	43	22	2	6	7	4
		100.0	45.9	40.1	7.1	3.6	0.3	1.0	1.2	0.7
	介護認定の結果は自 立（非該当）	24	5	15	2	1	—	—	1	—
		100.0	20.8	62.5	8.3	4.2	—	—	4.2	—
	要支援1～2	53	7	22	13	1	1	3	4	2
		100.0	13.2	41.5	24.5	1.9	1.9	5.7	7.5	3.8
	要介護1～3	37	7	4	8	2	—	3	5	7
		100.0	18.9	10.8	21.6	5.4	—	8.1	13.5	18.9
	要介護4～5	7	1	2	1	—	—	—	1	2
	100.0	14.3	28.6	14.3	—	—	—	14.3	28.6	
無回答		146	54	58	9	5	3	4	7	1
		100.0	37.0	39.7	6.2	3.4	2.1	2.7	4.8	0.7

	問 合計	問2.3 最も多く食料品や日用品の買い物をする店はどこ					問2.4 買い物をする店までの距離				
		商店街や市場	スーパー	コンビニ	近隣の小売店	その他	無回答	500メートル以内	1キロメートル以内	1キロメートル以上	無回答
性別	合計 (無回答省略)	870	249	481	15	16	34	75	113	229	416
		100.0	28.6	55.3	1.7	1.8	3.9	8.6	13.0	26.3	47.8
性別	男性	306	71	177	8	4	16	30	36	81	152
		100.0	23.2	57.8	2.6	1.3	5.2	9.8	11.8	26.5	49.7
性別	女性	560	177	303	7	12	18	43	77	146	264
		100.0	31.6	54.1	1.3	2.1	3.2	7.7	13.8	26.1	47.1
年齢区分	65～69歳	200	58	121	1	2	5	13	18	55	108
		100.0	29.0	60.5	0.5	1.0	2.5	6.5	9.0	27.5	54.0
	70～74歳	192	52	107	1	4	7	21	27	48	91
		100.0	27.1	55.7	0.5	2.1	3.6	10.9	14.1	25.0	47.4
	75～79歳	170	50	95	6	2	5	12	26	43	78
		100.0	29.4	55.9	3.5	1.2	2.9	7.1	15.3	25.3	45.9
	80～84歳	150	58	69	3	2	5	13	23	42	63
		100.0	38.7	46.0	2.0	1.3	3.3	8.7	15.3	28.0	42.0
	85歳以上	67	13	29	—	5	10	10	10	20	22
		100.0	19.4	43.3	—	7.5	14.9	14.9	14.9	29.9	32.8
	その他	86	17	59	4	1	2	3	9	19	54
		100.0	19.8	68.6	4.7	1.2	2.3	3.5	10.5	22.1	62.8
世帯構成	一人暮らしの世帯	252	85	129	4	7	7	20	36	66	115
		100.0	33.7	51.2	1.6	2.8	2.8	7.9	14.3	26.2	45.6
	夫婦だけの世帯	379	106	208	8	7	15	35	49	101	181
居住地域	その他の世帯	100.0	28.0	54.9	2.1	1.8	4.0	9.2	12.9	26.6	47.8
		235	57	143	3	2	12	18	28	60	120
		100.0	24.3	60.9	1.3	0.9	5.1	7.7	11.9	25.5	51.1
介護保険の介護度	斜面地居住	324	92	196	4	7	14	11	27	73	206
		100.0	28.4	60.5	1.2	2.2	4.3	3.4	8.3	22.5	63.6
	その他居住	546	157	285	11	9	20	64	86	156	210
		100.0	28.8	52.2	2.0	1.6	3.7	11.7	15.8	28.6	38.5
	介護の必要はないの で申請していない	603	184	360	9	7	15	28	77	167	317
		100.0	30.5	59.7	1.5	1.2	2.5	4.6	12.8	27.7	52.6
	介護認定の結果は自 立 (非該当)	24	7	12	—	3	—	2	4	8	10
		100.0	29.2	50.0	—	12.5	—	8.3	16.7	33.3	41.7
	要支援1～2	53	14	27	2	1	5	4	12	12	21
		100.0	26.4	50.9	3.8	1.9	9.4	7.5	22.6	22.6	39.6
	要介護1～3	37	6	15	2	2	6	6	7	9	13
		100.0	16.2	40.5	5.4	5.4	16.2	16.2	18.9	24.3	35.1
	要介護4～5	7	2	1	—	—	2	2	—	1	2
無回答		100.0	28.6	14.3	—	—	28.6	28.6	—	14.3	28.6
		146	36	66	2	3	6	33	13	32	53
		100.0	24.7	45.2	1.4	2.1	4.1	22.6	8.9	21.9	36.3

		問		問2.5 買い物をする店までどのようにして行きます								
		合計	徒歩	自転車	バスや電車等の公共交通機関	自家用車	タクシー	近所の人が買い物をしてくれる	店が配達してくれる	その他	無回答	
性別	合計（無回答省略）	870	300	22	205	202	16	4	6	38	77	
		100.0	34.5	2.5	23.6	23.2	1.8	0.5	0.7	4.4	8.9	
	男性	306	104	9	46	99	2	—	1	17	28	
		100.0	34.0	2.9	15.0	32.4	0.7	—	0.3	5.6	9.2	
	女性	560	195	13	158	103	14	4	5	21	47	
		100.0	34.8	2.3	28.2	18.4	2.5	0.7	0.9	3.8	8.4	
	65～69歳	200	80	6	34	62	2	—	—	2	14	
		100.0	40.0	3.0	17.0	31.0	1.0	—	—	1.0	7.0	
	70～74歳	192	65	6	44	49	2	—	2	6	18	
		100.0	33.9	3.1	22.9	25.5	1.0	—	1.0	3.1	9.4	
年齢区分	75～79歳	170	62	6	53	21	4	1	3	5	15	
		100.0	36.5	3.5	31.2	12.4	2.4	0.6	1.8	2.9	8.8	
	80～84歳	150	61	—	50	13	4	3	1	4	14	
		100.0	40.7	—	33.3	8.7	2.7	2.0	0.7	2.7	9.3	
	85歳以上	67	15	1	16	4	4	—	—	17	10	
		100.0	22.4	1.5	23.9	6.0	6.0	—	—	25.4	14.9	
	その他	86	16	3	7	53	—	—	—	4	3	
		100.0	18.6	3.5	8.1	61.6	—	—	—	4.7	3.5	
	世帯構成	一人暮らしの世帯	252	92	3	96	17	11	2	1	10	20
			100.0	36.5	1.2	38.1	6.7	4.4	0.8	0.4	4.0	7.9
夫婦だけの世帯		379	134	12	71	103	3	1	4	15	36	
		100.0	35.4	3.2	18.7	27.2	0.8	0.3	1.1	4.0	9.5	
その他の世帯		235	74	7	37	81	2	1	1	13	19	
		100.0	31.5	3.0	15.7	34.5	0.9	0.4	0.4	5.5	8.1	
	斜面地居住	324	88	8	102	88	10	2	1	16	9	
			100.0	27.2	2.5	31.5	27.2	3.1	0.6	0.3	4.9	2.8
居住地	その他居住	546	212	14	103	114	6	2	5	22	68	
		100.0	38.8	2.6	18.9	20.9	1.1	0.4	0.9	4.0	12.5	
	介護の必要はないので申請していない	603	234	18	136	165	5	1	1	16	27	
			100.0	38.8	3.0	22.6	27.4	0.8	0.2	0.2	2.7	4.5
介護保険の介護度	介護認定の結果は自立（非該当）	24	10	1	4	3	4	—	—	—	2	
		100.0	41.7	4.2	16.7	12.5	16.7	—	—	—	8.3	
	要支援 1～2	53	14	—	20	3	4	—	4	3	5	
			100.0	26.4	—	37.7	5.7	7.5	—	7.5	5.7	9.4
要介護 1～3		37	8	2	6	—	3	1	1	10	6	
			100.0	21.6	5.4	16.2	—	8.1	2.7	2.7	27.0	16.2
	要介護 4～5	7	2	—	1	—	—	—	—	2	2	
			100.0	28.6	—	14.3	—	—	—	—	28.6	28.6
無回答		146	32	1	38	31	—	2	7	35		
		100.0	21.9	0.7	26.0	21.2	—	1.4	—	4.8	24.0	

	問2.6 買い物をする際に困ること									
	問 合計	距離が遠い	坂道	階段や段差	買い物の費用より交通費が高い	買い物を十分にできない	困ることはない	その他	買い物に行かない	無回答
性 別	合計（無回答省略）	870 100.0	255 29.3	130 14.9	45 5.2	10 1.1	17 2.0	275 31.6	15 1.7	23 2.6
	男性	306 100.0	80 26.1	43 14.1	14 4.6	3 1.0	8 2.6	108 35.3	4 1.3	13 4.2
年 齢 区 分	女性	560 100.0	175 31.3	86 15.4	30 5.4	7 1.3	9 1.6	167 29.8	11 2.0	10 1.8
	65～69歳	200 100.0	67 33.5	28 14.0	6 3.0	3 1.5	1 0.5	71 35.5	2 1.0	3 1.5
世 帯 構 成	70～74歳	192 100.0	57 29.7	29 15.1	9 4.7	1 0.5	7 3.6	58 30.2	2 1.0	3 1.6
	75～79歳	170 100.0	48 28.2	33 19.4	8 4.7	1 0.6	4 2.4	54 31.8	4 2.4	1 0.6
居 住 地 域	80～84歳	150 100.0	37 24.7	23 15.3	9 6.0	1 0.7	3 2.0	49 32.7	1 0.7	5 3.3
	85歳以上	67 100.0	18 26.9	9 13.4	6 9.0	3 4.5	—	10 14.9	1 1.5	9 13.4
介 護 保 険 の 介 護 度	その他	86 100.0	28 32.6	8 9.3	6 7.0	1 1.2	2 2.3	32 37.2	5 5.8	— 4.7
	一人暮らしの世帯	252 100.0	79 31.3	41 16.3	18 7.1	3 1.2	6 2.4	69 27.4	3 1.2	4 1.6
世 帯 構 成	夫婦だけの世帯	379 100.0	106 28.0	56 14.8	12 3.2	2 0.5	7 1.8	133 35.1	8 2.1	8 2.1
	その他の世帯	235 100.0	70 29.8	33 14.0	14 6.0	5 2.1	4 1.7	73 31.1	4 1.7	11 4.7
居 住 地 域	斜面地居住	324 100.0	127 39.2	90 27.8	21 6.5	7 2.2	6 1.9	45 13.9	8 2.5	12 3.7
	その他居住	546 100.0	128 23.4	40 7.3	24 4.4	3 0.5	11 2.0	230 42.1	7 1.3	15 2.7
介 護 保 険 の 介 護 度	介護の必要はないの で申請していない	603 100.0	189 31.3	85 14.1	26 4.3	5 0.8	10 1.7	227 37.6	8 1.3	8 1.3
	介護認定の結果は自 立（非該当）	24 100.0	10 41.7	6 25.0	2 8.3	1 4.2	—	3 12.5	—	—
世 帯 構 成	要支援1～2	53 100.0	16 30.2	13 24.5	5 9.4	1 1.9	1 1.9	9 17.0	1 1.9	7 13.2
	要介護1～3	37 100.0	9 24.3	6 16.2	—	1 2.7	2 5.4	3 8.1	2 5.4	3 29.7
居 住 地 域	要介護4～5	7 100.0	2 28.6	—	2 28.6	—	—	—	—	1 14.3
	無回答	146 100.0	29 19.9	20 13.7	10 6.8	2 1.4	4 2.7	33 22.6	4 2.7	3 2.1

	問 合計	問2.7 病院には週に何回								
		通院の必要がない	毎日	1週間に2～3回	1週間に1回程度	1月に2～3回程度	1月に1回程度	決まっていない	その他	無回答
性別	合計（無回答省略）	870	119	28	97	183	220	79	25	66
		100.0	13.7	3.2	11.1	21.0	25.3	9.1	2.9	7.6
	男性	306	35	9	28	59	92	27	14	21
		100.0	11.4	2.9	9.2	19.3	30.1	8.8	4.6	6.9
	女性	560	84	19	69	123	127	52	11	43
		100.0	15.0	3.4	12.3	22.0	22.7	9.3	2.0	7.7
	65～69歳	200	36	3	9	32	65	30	5	15
		100.0	18.0	1.5	4.5	16.0	32.5	15.0	2.5	7.5
	70～74歳	192	11	6	20	53	45	22	6	16
		100.0	5.7	3.1	10.4	27.6	23.4	11.5	3.1	8.3
年齢区分	75～79歳	170	17	7	28	40	36	11	6	14
		100.0	10.0	4.1	16.5	23.5	21.2	6.5	3.5	8.2
	80～84歳	150	14	6	30	32	36	5	2	11
		100.0	9.3	4.0	20.0	21.3	24.0	3.3	1.3	7.3
	85歳以上	67	5	5	8	15	17	3	2	4
		100.0	7.5	7.5	11.9	22.4	25.4	4.5	3.0	6.0
	その他	86	36	1	2	11	18	8	4	4
		100.0	41.9	1.2	2.3	12.8	20.9	9.3	4.7	4.7
	一人暮らしの世帯	252	21	8	53	24	46	18	6	21
		100.0	8.3	3.2	21.0	9.5	18.3	7.1	2.4	8.3
世帯構成	夫婦だけの世帯	379	52	14	27	82	104	38	13	29
		100.0	13.7	3.7	7.1	5.3	21.6	10.0	3.4	7.7
居住地域	その他の世帯	235	46	6	17	9	45	69	23	14
		100.0	19.6	2.6	7.2	3.8	19.1	9.8	2.6	6.0
	斜面地居住	324	51	11	45	25	74	27	11	2
		100.0	15.7	3.4	13.9	7.7	24.1	8.3	3.4	0.6
	その他居住	546	68	17	52	28	105	52	14	64
		100.0	12.5	3.1	9.5	5.1	19.2	9.5	2.6	11.7
介護保険の介護度	介護の必要はないの で申請していない	603	109	13	44	32	126	63	19	25
		100.0	18.1	2.2	7.3	5.3	20.9	10.4	3.2	4.1
	介護認定の結果は自 立（非該当）	24	2	—	4	6	3	3	—	1
		100.0	8.3	—	16.7	25.0	20.8	12.5	—	4.2
	要支援1～2	53	2	3	19	7	4	2	1	2
		100.0	3.8	5.7	35.8	13.2	24.5	3.8	1.9	3.8
	要介護1～3	37	1	2	12	2	8	10	1	1
		100.0	2.7	5.4	32.4	5.4	21.6	27.0	2.7	2.7
無回答	要介護4～5	7	—	—	1	1	1	1	1	1
		100.0	—	—	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3
		146	5	10	17	5	30	10	3	36
		100.0	3.4	6.8	11.6	3.4	20.5	20.5	2.1	24.7

問		問2.8 通院はどのように							
	合計	通院していない	徒歩	自転車	バスや電車等の 公共交通機関	自家用車	タクシー	その他	無回答
合計（無回答省略）	870	111	219	12	218	161	50	19	80
	100.0	12.8	25.2	1.4	25.1	18.5	5.7	2.2	9.2
性別	男性	306	72	5	54	95	14	7	27
	100.0	10.5	23.5	1.6	17.6	31.0	4.6	2.3	8.8
女性	560	79	146	7	163	66	36	12	51
	100.0	14.1	26.1	1.3	29.1	11.8	6.4	2.1	9.1
年齢区分	65～69歳	200	32	53	1	47	3	3	18
	100.0	16.0	26.5	0.5	23.5	21.5	1.5	1.5	9.0
70～74歳	192	17	50	5	53	41	6	1	19
	100.0	8.9	26.0	2.6	27.6	21.4	3.1	0.5	9.9
75～79歳	170	15	51	4	55	15	11	2	17
	100.0	8.8	30.0	2.4	32.4	8.8	6.5	1.2	10.0
80～84歳	150	11	45	—	39	20	17	4	14
	100.0	7.3	30.0	—	26.0	13.3	11.3	2.7	9.3
85歳以上	67	4	13	—	14	11	12	7	6
	100.0	6.0	19.4	—	20.9	16.4	17.9	10.4	9.0
その他	86	32	6	2	8	31	1	2	4
	100.0	37.2	7.0	2.3	9.3	36.0	1.2	2.3	4.7
一人暮らしの世帯	252	26	69	2	94	14	22	5	20
	100.0	10.3	27.4	0.8	37.3	5.6	8.7	2.0	7.9
夫婦だけの世帯	379	48	95	6	81	83	18	9	39
	100.0	12.7	25.1	1.6	21.4	21.9	4.7	2.4	10.3
その他の世帯	235	37	55	4	42	64	10	5	18
	100.0	15.7	23.4	1.7	17.9	27.2	4.3	2.1	7.7
斜面地居住	324	48	57	3	98	73	31	7	7
	100.0	14.8	17.6	0.9	30.2	22.5	9.6	2.2	2.2
その他居住	546	63	162	9	120	88	19	12	73
	100.0	11.5	29.7	1.6	22.0	16.1	3.5	2.2	13.4
介護の必要はないの で申請していない	603	99	172	8	141	118	19	9	37
	100.0	16.4	28.5	1.3	23.4	19.6	3.2	1.5	6.1
介護認定の結果は自 立（非該当）	24	2	7	1	7	3	2	1	1
	100.0	8.3	29.2	4.2	29.2	12.5	8.3	4.2	4.2
要支援 1～2	53	2	9	—	21	8	9	1	3
	100.0	3.8	17.0	—	39.6	15.1	17.0	1.9	5.7
要介護 1～3	37	1	8	2	3	3	11	7	2
	100.0	2.7	21.6	5.4	8.1	8.1	29.7	18.9	5.4
要介護 4～5	7	1	—	—	2	—	2	1	1
	100.0	14.3	—	—	28.6	—	28.6	14.3	14.3
無回答	146	6	23	1	44	29	7	—	36
	100.0	4.1	15.8	0.7	30.1	19.9	4.8	—	24.7

問		問2.9 通院で困ること								
	合計	通院していない	距離が遠い	坂道	階段や段差	交通費が高い	公共交通機関が 少ない	困ることはない	その他	無回答
合計（無回答省略）	870	128	134	67	27	20	42	299	19	134
	100.0	14.7	15.4	7.7	3.1	2.3	4.8	34.4	2.2	15.4
	男性	306	40	45	24	10	8	9	126	7
	100.0	13.1	14.7	7.8	3.3	2.6	2.9	41.2	2.3	12.1
性別	女性	560	88	88	42	17	12	33	173	12
	100.0	15.7	15.7	7.5	3.0	2.1	5.9	30.9	2.1	17.0
	200	39	28	12	2	1	11	75	3	29
	100.0	19.5	14.0	6.0	1.0	0.5	5.5	37.5	1.5	14.5
年齢区分	65～69歳	192	22	29	19	6	10	65	3	28
	100.0	11.5	15.1	9.9	3.1	5.2	5.2	33.9	1.6	14.6
	70～74歳	170	15	30	13	8	4	9	56	3
	100.0	8.8	17.6	7.6	4.7	2.4	5.3	32.9	1.8	18.8
世帯構成	80～84歳	150	11	24	12	5	4	61	2	25
	100.0	7.3	16.0	8.0	3.3	2.7	4.0	40.7	1.3	16.7
	85歳以上	67	5	13	9	5	—	4	18	4
	100.0	7.5	19.4	13.4	7.5	—	6.0	26.9	6.0	13.4
世帯構成	その他	86	36	9	1	1	1	23	4	9
	100.0	41.9	10.5	1.2	1.2	1.2	2.3	26.7	4.7	10.5
	一人暮らしの世帯	252	26	51	18	16	3	14	73	7
	100.0	10.3	20.2	7.1	6.3	1.2	5.6	29.0	2.8	17.5
世帯構成	夫婦だけの世帯	379	58	52	30	5	14	17	144	7
	100.0	15.3	13.7	7.9	1.3	3.7	4.5	38.0	1.8	13.7
	その他の世帯	235	44	30	19	6	3	11	82	5
	100.0	18.7	12.8	8.1	2.6	1.3	4.7	34.9	2.1	14.9
居住地域	斜面地居住	324	59	77	54	14	12	21	63	6
	100.0	18.2	23.8	16.7	4.3	3.7	6.5	19.4	1.9	5.6
	その他居住	546	69	57	13	13	8	21	236	13
	100.0	12.6	10.4	2.4	2.4	1.5	3.8	43.2	2.4	21.2
介護保険の介護度	介護の必要はないの で申請していない	603	113	85	36	13	16	29	242	8
	100.0	18.7	14.1	6.0	2.2	2.7	4.8	40.1	1.3	10.1
	介護認定の結果は自 立（非該当）	24	2	4	5	1	—	2	6	—
	100.0	8.3	16.7	20.8	4.2	—	8.3	25.0	—	16.7
介護保険の介護度	要支援 1～2	53	3	15	9	6	2	9	1	7
	100.0	5.7	28.3	17.0	11.3	3.8	1.9	17.0	1.9	13.2
	要介護 1～3	37	1	7	5	3	2	1	10	4
	100.0	2.7	18.9	13.5	8.1	5.4	2.7	27.0	10.8	10.8
介護保険の介護度	要介護 4～5	7	1	—	2	—	—	1	2	1
	100.0	14.3	—	28.6	—	—	—	14.3	28.6	14.3
	無回答	146	8	23	10	4	9	31	4	57
	100.0	5.5	15.8	6.8	2.7	—	6.2	21.2	2.7	39.0

問	問2.10 困っていることや悩み（多重回答）																			
	買い物が不便なこと	坂道や道路の幅が狭いこと	住まいのこと	空家が多くなったこと	病院への通院が不便なこと	自家用車を置くスペースがないこと	自動車を運転すること	救急や消防等の救急に不安なこと	役所や図書館などの公共施設が遠いこと	外出しにくいこと	歩道が整備されていないこと	ひきこもりがちであること	交通の便が悪いこと	近所づきあいがいいこと	孤立感を感ずること	その他	別のない	無回答		
性別	合計（無回答省略）	870	273	258	70	137	119	66	33	62	117	29	80	40	96	67	32	23	224	103
	男性	100.0	31.4	29.7	8.0	15.7	13.7	7.6	3.8	7.1	13.4	3.3	9.2	4.6	11.0	7.7	3.7	2.6	25.7	11.8
	女性	306	80	96	21	56	37	28	11	17	41	8	29	11	30	22	10	10	87	31
		100.0	26.1	31.4	6.9	18.3	12.1	9.2	3.6	5.6	13.4	2.6	9.5	3.6	9.8	7.2	3.3	3.3	28.4	10.1
	65～69歳	560	193	162	49	80	82	38	22	45	76	21	51	29	66	45	22	13	137	69
		100.0	34.5	28.9	8.8	14.3	14.6	6.8	3.9	8.0	13.6	3.8	9.1	5.2	11.8	8.0	3.9	2.3	24.5	12.3
	70～74歳	200	57	49	15	35	20	14	7	14	24	—	24	4	21	11	3	3	59	25
		100.0	28.5	24.5	7.5	17.5	10.0	7.0	3.5	7.0	12.0	—	12.0	2.0	10.5	5.5	1.5	1.5	29.5	12.5
	75～79歳	192	61	63	21	31	26	20	7	16	27	5	20	5	22	15	4	8	49	22
		100.0	31.8	32.8	10.9	16.1	13.5	10.4	3.6	8.3	14.1	2.6	10.4	2.6	11.5	7.8	2.1	4.2	25.5	11.5
年齢区分	75～79歳	170	56	57	14	23	27	10	4	14	22	8	11	14	20	19	9	4	34	18
		100.0	32.9	33.5	8.2	13.5	15.9	5.9	2.4	8.2	12.9	4.7	6.5	8.2	11.8	11.2	5.3	2.4	20.0	10.6
	80～84歳	150	46	43	9	22	24	5	7	7	21	7	6	12	17	14	12	6	43	20
		100.0	30.7	28.7	6.0	14.7	16.0	3.3	4.7	4.7	14.0	4.7	4.0	8.0	11.3	9.3	8.0	4.0	28.7	13.3
世帯構成	85歳以上	67	20	17	4	8	15	4	5	9	13	7	7	5	10	5	3	2	17	8
		100.0	29.9	25.4	6.0	11.9	22.4	6.0	7.5	13.4	19.4	10.4	10.4	7.5	14.9	7.5	4.5	3.0	25.4	11.9
	その他	86	33	28	7	18	6	13	3	2	10	2	12	—	6	3	1	—	21	7
		100.0	38.4	32.6	8.1	20.9	7.0	15.1	3.5	2.3	11.6	2.3	14.0	—	7.0	3.5	1.2	—	24.4	8.1
居住地域	一人暮らしの世帯	252	92	66	23	34	46	9	10	24	38	14	17	12	38	26	21	5	61	33
		100.0	36.5	26.2	9.1	13.5	18.3	3.6	4.0	9.5	15.1	5.6	6.7	4.8	15.1	10.3	8.3	2.0	24.2	13.1
	夫婦だけの世帯	379	103	116	32	65	44	33	13	22	55	9	32	16	32	26	6	9	102	42
		100.0	27.2	30.6	8.4	17.2	11.6	8.7	3.4	5.8	14.5	2.4	8.4	4.2	8.4	6.9	1.6	2.4	26.9	11.1
介護保険の介護度	その他の世帯	235	78	76	15	38	29	24	10	16	24	6	31	12	26	15	5	9	61	24
		100.0	33.2	32.3	6.4	16.2	12.3	10.2	4.3	6.8	10.2	2.6	13.2	5.1	11.1	6.4	2.1	3.8	26.0	10.2
	斜面地居住	324	160	258	41	70	81	66	19	62	69	29	48	20	58	31	18	7	15	—
		100.0	49.4	79.6	12.7	21.6	25.0	20.4	5.9	19.1	21.3	9.0	14.8	6.2	17.9	9.6	5.6	2.2	4.6	—
介護度の介護度	その他居住	546	113	—	29	67	38	—	14	—	48	—	32	20	38	36	14	16	209	103
		100.0	20.7	—	5.3	12.3	7.0	—	2.6	—	8.8	—	5.9	3.7	7.0	6.6	2.6	2.9	38.3	18.9
	介護の必要はないので申請していない介護認定の結果は自立（非該当）	603	188	187	50	103	71	47	21	40	78	14	53	23	67	40	18	18	180	47
		100.0	31.2	31.0	8.3	17.1	11.8	7.8	3.5	6.6	12.9	2.3	8.8	3.8	11.1	6.6	3.0	3.0	29.9	7.8
要支援1～2	要支援1～2	24	8	9	2	3	4	—	2	3	8	1	3	3	2	3	4	—	3	1
		100.0	33.3	37.5	8.3	12.5	16.7	—	8.3	12.5	33.3	4.2	12.5	12.5	8.3	12.5	16.7	—	12.5	4.2
	要介護1～3	53	18	19	6	8	12	3	3	6	13	3	7	4	5	6	3	—	9	7
		100.0	34.0	35.8	11.3	15.1	22.6	5.7	5.7	11.3	24.5	5.7	13.2	7.5	9.4	11.3	5.7	—	17.0	13.2
要介護4～5	要介護1～3	37	17	10	3	6	10	4	1	4	5	9	5	3	7	5	4	2	5	3
		100.0	45.9	27.0	8.1	16.2	27.0	10.8	2.7	10.8	13.5	24.3	13.5	8.1	18.9	13.5	10.8	5.4	13.5	8.1
	要介護4～5	7	2	2	1	—	1	—	—	—	2	2	2	—	—	1	—	2	2	1
		100.0	28.6	28.6	14.3	—	14.3	—	—	28.6	28.6	—	28.6	—	—	14.3	—	28.6	28.6	14.3
無回答	無回答	146	40	31	8	17	21	12	6	7	11	2	10	7	15	12	3	1	25	44
		100.0	27.4	21.2	5.5	11.6	14.4	8.2	4.1	4.8	7.5	1.4	6.8	4.8	10.3	8.2	2.1	0.7	17.1	30.1

	問 合計	問3.1 町内会・自治会の活動には参加している			問3.2 参加している団体			問3.3 伝統的な年中行事や祭りは行われていますか								
		参加している	たまに参加している	ほとんど参加していない	参加していない	無回答	老人クラブ	まちづくり協議会	校区(地区)社会福祉協議会	その他	無回答	従来通っている	かつてより少なくなった	ほとんどなくなった	無回答	
性別	合計（無回答省略）	870	270	129	181	202	88	40	62	65	200	503	228	222	285	135
	男性	1000	310	148	208	232	10.1	4.6	7.1	7.5	23.0	57.8	26.2	25.5	32.8	15.5
		306	96	45	58	83	24	11	21	16	89	169	97	71	108	30
	女性	1000	314	147	190	27.1	7.8	3.6	6.9	5.2	29.1	55.2	31.7	23.2	35.3	9.8
		560	173	84	122	119	62	29	41	49	111	330	130	151	177	102
年齢区分	65～69歳	1000	30.9	15.0	21.8	21.3	11.1	5.2	7.3	8.8	19.8	58.9	23.2	27.0	31.6	18.2
		200	72	34	41	35	18	4	23	15	50	108	57	56	63	24
	70～74歳	1000	36.0	17.0	20.5	17.5	9.0	2.0	11.5	7.5	25.0	54.0	28.5	28.0	31.5	12.0
		192	73	29	33	38	19	8	21	18	48	97	46	56	59	31
	75～79歳	1000	38.0	15.1	17.2	19.8	9.9	4.2	10.9	9.4	25.0	50.5	24.0	29.2	30.7	16.1
世帯構成		170	44	25	36	43	22	16	4	13	36	101	49	33	56	32
	80～84歳	1000	25.9	14.7	21.2	25.3	12.9	9.4	2.4	7.6	21.2	59.4	28.8	19.4	32.9	18.8
		150	34	20	43	36	17	7	3	9	26	105	39	33	56	22
	85歳以上	1000	22.7	13.3	28.7	24.0	11.3	4.7	2.0	6.0	17.3	70.0	26.0	22.0	37.3	14.7
		67	13	10	9	29	6	5	1	3	16	42	12	19	24	12
居住地域	その他	1000	19.4	14.9	13.4	43.3	9.0	7.5	1.5	4.5	23.9	62.7	17.9	28.4	35.8	17.9
	一人暮らしの世帯	86	33	11	17	21	4	—	10	7	24	45	23	25	27	11
	夫婦だけの世帯	1000	38.4	12.8	19.8	24.4	4.7	—	11.6	8.1	27.9	52.3	26.7	29.1	31.4	12.8
		252	73	37	54	56	32	12	14	27	46	153	59	69	71	53
	その他の世帯	1000	29.0	14.7	21.4	22.2	12.7	4.8	5.6	10.7	18.3	60.7	23.4	27.4	28.2	21.0
介護保険の介護度		379	124	60	78	78	39	18	28	24	96	213	113	91	124	51
	斜面地居住	1000	32.7	15.8	20.6	20.6	10.3	4.7	7.4	6.3	25.3	56.2	29.8	24.0	32.7	13.5
		235	72	32	49	68	14	10	20	14	58	133	55	62	89	29
	その他居住	1000	30.6	13.6	20.9	28.9	6.0	4.3	8.5	6.0	24.7	56.6	23.4	26.4	37.9	12.3
	介護の必要はないので申請していない	324	104	42	82	88	8	15	23	34	81	171	71	78	135	40
介護認定の結果は自立（非該当）		1000	32.1	13.0	25.3	27.2	2.5	4.6	7.1	10.5	25.0	52.8	21.9	24.1	41.7	12.3
		546	166	87	99	114	80	25	39	31	119	332	157	144	150	95
	要介護1～2	1000	30.4	15.9	18.1	20.9	14.7	4.6	7.1	5.7	21.8	60.8	28.8	26.4	27.5	17.4
		603	215	95	129	121	43	25	56	48	147	327	174	143	204	82
	介護認定の結果は自立（非該当）	1000	35.7	15.8	21.4	20.1	7.1	4.1	9.3	8.0	24.4	54.2	28.9	23.7	33.8	13.6
介護保険の介護度		24	3	4	5	11	1	4	—	2	6	12	5	12	6	1
	要介護1～3	1000	12.5	16.7	20.8	45.8	4.2	16.7	—	8.3	25.0	50.0	20.8	50.0	25.0	4.2
		53	7	9	18	14	5	4	4	2	13	31	9	19	18	7
	要介護1～2	1000	13.2	17.0	34.0	26.4	9.4	7.5	3.8	5.7	24.5	58.5	17.0	35.8	34.0	13.2
	要介護1～3	1000	3	5	8	21	—	1	1	1	10	24	5	9	16	7
介護保険の介護度		8.1	13.5	21.6	56.8	—	—	2.7	2.7	2.7	27.0	64.9	13.5	24.3	43.2	18.9
	要介護4～5	7	1	1	1	3	1	—	—	—	4	3	3	2	2	—
		1000	14.3	14.3	14.3	42.9	14.3	—	—	—	57.1	42.9	42.9	28.6	28.6	—
	要介護4～5	146	41	15	20	32	38	6	3	3	20	106	32	37	39	38
	無回答	1000	28.1	10.3	13.7	21.9	26.0	4.1	2.1	7.5	13.7	72.6	21.9	25.3	26.7	26.0

	問		問3.4 伝統的な年中行事や祭りには参加				問3.5 近所の人たちと話をしますか					
	合計	好きで参加している	役割で参加している	あまり参加していない	祭りや行事は参加していない	無回答	ほとんど毎日	週に2回以上	月に1回以上	ほとんどない	無回答	
性別	合計（無回答省略）	870	31	58	289	403	89	238	286	117	170	59
		100.0	3.6	6.7	33.2	46.3	10.2	27.4	32.9	13.4	19.5	6.8
	男性	306	12	25	95	148	26	76	91	43	82	14
		100.0	3.9	8.2	31.0	48.4	8.5	24.8	29.7	14.1	26.8	4.6
年齢区分	女性	560	19	33	194	254	60	162	194	74	88	42
		100.0	3.4	5.9	34.6	45.4	10.7	28.9	34.6	13.2	15.7	7.5
	65～69歳	200	7	19	68	95	11	62	74	25	34	5
		100.0	3.5	9.5	34.0	47.5	5.5	31.0	37.0	12.5	17.0	2.5
	70～74歳	192	11	19	70	71	21	60	60	26	27	19
		100.0	5.7	9.9	36.5	37.0	10.9	31.3	31.3	13.5	14.1	9.9
	75～79歳	170	6	5	56	82	21	47	56	22	33	12
		100.0	3.5	2.9	32.9	48.2	12.4	27.6	32.9	12.9	19.4	7.1
	80～84歳	150	1	4	46	82	17	28	54	20	40	8
		100.0	0.7	2.7	30.7	54.7	11.3	18.7	36.0	13.3	26.7	5.3
	85歳以上	67	2	—	14	43	8	13	19	10	17	8
		100.0	3.0	—	20.9	64.2	11.9	19.4	28.4	14.9	25.4	11.9
世帯構成	その他	86	4	11	34	29	8	28	21	14	18	5
		100.0	4.7	12.8	39.5	33.7	9.3	32.6	24.4	16.3	20.9	5.8
	一人暮らしの世帯	252	9	9	80	117	37	70	91	38	33	20
		100.0	3.6	3.6	31.7	46.4	14.7	27.8	36.1	15.1	13.1	7.9
	夫婦だけの世帯	379	12	35	134	170	28	109	131	45	69	25
		100.0	3.2	9.2	35.4	44.9	7.4	28.8	34.6	11.9	18.2	6.6
	その他の世帯	235	10	14	75	116	20	59	62	34	68	12
		100.0	4.3	6.0	31.9	49.4	8.5	25.1	26.4	14.5	28.9	5.1
居住地域	斜面地居住	324	9	22	100	171	22	82	116	42	66	18
		100.0	2.8	6.8	30.9	52.8	6.8	25.3	35.8	13.0	20.4	5.6
	その他居住	546	22	36	189	232	67	156	170	75	104	41
		100.0	4.0	6.6	34.6	42.5	12.3	28.6	31.1	13.7	19.0	7.5
介護保険の介護度	介護の必要はないので申請していない	603	24	48	205	280	46	183	201	76	115	28
	介護認定の結果は自立（非該当）	24	2	2	10	10	—	2	11	5	5	1
		100.0	8.3	8.3	41.7	41.7	—	8.3	45.8	20.8	20.8	4.2
	要支援 1 ～ 2	53	—	2	19	26	6	8	20	12	11	2
		100.0	—	3.8	35.8	49.1	11.3	15.1	37.7	22.6	20.8	3.8
	要介護 1 ～ 3	37	1	1	9	22	4	9	6	7	15	—
		100.0	2.7	2.7	24.3	59.5	10.8	24.3	16.2	18.9	40.5	—
	要介護 4 ～ 5	7	—	1	2	4	—	2	3	—	2	—
		100.0	—	14.3	28.6	57.1	—	28.6	42.9	—	28.6	—
	無回答	146	4	4	44	61	33	34	45	17	22	28
	100.0	2.7	2.7	30.1	41.8	22.6	23.3	30.8	11.6	15.1	19.2	

	問		問3.6 近所の人とのつきあい方（多重回答）									
	合計	挨拶や立ち話を する程度	趣味を一緒に する	宗教活動をと もにする	老人クラブ等で 一緒に活動する	互いの家を行 き来する	病気の時に助 け合う	家事や些細な用事、 相談や物のやりとり	つき合いはない	その他	無回答	
合計（無回答省略）	870	638	76	44	27	110	90	263	64	27	47	
	100.0	73.3	8.7	5.1	3.1	12.6	10.3	30.2	7.4	3.1	5.4	
性別	男性	306	229	21	12	8	16	24	67	27	8	
		100.0	74.8	6.9	3.9	2.6	5.2	7.8	21.9	8.8	2.6	
女性	560	409	55	32	19	93	66	196	37	18	28	
	100.0	73.0	9.8	5.7	3.4	16.6	11.8	35.0	6.6	3.2	5.0	
65～69歳	200	160	23	4	4	31	26	73	12	4	5	
	100.0	80.0	11.5	2.0	2.0	15.5	13.0	36.5	6.0	2.0	2.5	
70～74歳	192	138	18	12	7	27	17	65	11	6	15	
	100.0	71.9	9.4	6.3	3.6	14.1	8.9	33.9	5.7	3.1	7.8	
75～79歳	170	127	19	5	6	16	14	46	9	5	10	
	100.0	74.7	11.2	2.9	3.5	9.4	8.2	27.1	5.3	2.9	5.9	
80～84歳	150	114	10	11	6	18	17	40	14	4	5	
	100.0	76.0	6.7	7.3	4.0	12.0	11.3	26.7	9.3	2.7	3.3	
85歳以上	67	37	1	6	4	4	9	17	10	5	5	
	100.0	55.2	1.5	9.0	6.0	6.0	13.4	25.4	14.9	7.5	7.5	
その他	86	60	5	6	—	13	7	22	8	2	5	
	100.0	69.8	5.8	7.0	—	15.1	8.1	25.6	9.3	2.3	5.8	
一人暮らしの世帯	252	186	25	10	10	44	38	96	19	5	10	
	100.0	73.8	9.9	4.0	4.0	17.5	15.1	38.1	7.5	2.0	4.0	
夫婦だけの世帯	379	280	37	17	8	43	32	107	21	11	26	
	100.0	73.9	9.8	4.5	2.1	11.3	8.4	28.2	5.5	2.9	6.9	
その他の世帯	235	171	14	17	9	22	20	60	24	10	9	
	100.0	72.8	6.0	7.2	3.8	9.4	8.5	25.5	10.2	4.3	3.8	
斜面地居住	324	233	29	17	11	35	28	94	25	13	19	
	100.0	71.9	9.0	5.2	3.4	10.8	8.6	29.0	7.7	4.0	5.9	
その他居住	546	405	47	27	16	75	62	169	39	14	28	
	100.0	74.2	8.6	4.9	2.9	13.7	11.4	31.0	7.1	2.6	5.1	
介護の必要はないの で申請していない	603	456	57	32	20	83	71	205	37	14	29	
	100.0	75.6	9.5	5.3	3.3	13.8	11.8	34.0	6.1	2.3	4.8	
介護認定の結果は自 立（非該当）	24	18	3	2	1	2	1	6	—	—	—	
	100.0	75.0	12.5	8.3	4.2	8.3	4.2	25.0	—	—	—	
要支援 1～2	53	38	3	3	2	2	4	13	8	1	4	
	100.0	71.7	5.7	5.7	3.8	3.8	7.5	24.5	15.1	1.9	7.5	
要介護 1～3	37	22	2	—	—	4	5	8	9	4	—	
	100.0	59.5	5.4	—	—	10.8	13.5	21.6	24.3	10.8	—	
要介護 4～5	7	3	—	—	—	2	1	2	3	1	—	
	100.0	42.9	—	—	—	28.6	14.3	28.6	42.9	14.3	—	
無回答	146	101	11	7	4	17	8	29	7	7	14	
	100.0	69.2	7.5	4.8	2.7	11.6	5.5	19.9	4.8	4.8	9.6	

	問		問3.7 家で電話やメール、手紙を書く			
	合計	直接会って話をしたり、行動をともにする方が多い	会うよりも電話やメール、手紙でのやりとりのほうが多い	電話やメール、手紙は必要な時だけする	ほとんどしない	無回答
合計（無回答省略）	870	279	91	259	174	67
	100.0	32.1	10.5	29.8	20.0	7.7
性別	男性	306	80	29	88	19
	女性	560	199	61	169	6.2
年齢区分	65～69歳	100.0	35.5	10.9	30.2	45
	70～74歳	200	81	19	60	8.0
75～79歳	100.0	40.5	9.5	30.0	13.5	13
	192	65	17	60	34	6.5
80～84歳	100.0	33.9	8.9	31.3	17.7	16
	170	54	20	45	38	8.3
85歳以上	100.0	31.8	11.8	26.5	22.4	13
	150	42	16	42	37	7.6
その他	100.0	28.0	10.7	28.0	24.7	13
	67	11	8	18	25	8.7
一人暮らしの世帯	100.0	16.4	11.9	26.9	37.3	5
	86	25	10	33	13	7.5
夫婦だけの世帯	100.0	29.1	11.6	38.4	15.1	5
	252	84	26	75	47	5.8
その他の世帯	100.0	33.3	10.3	29.8	18.7	20
	379	129	41	106	75	7.9
斜面地居住	100.0	34.0	10.8	28.0	19.8	28
	235	66	22	78	52	7.4
その他居住	100.0	28.1	9.4	33.2	22.1	17
	324	105	28	105	60	7.2
介護の必要はないので申請していない	100.0	32.4	8.6	32.4	18.5	26
	546	174	63	154	114	8.0
介護認定の結果は自立（非該当）	100.0	31.9	11.5	28.2	20.9	41
	603	204	59	193	110	7.5
要支援1～2	100.0	33.8	9.8	32.0	18.2	37
	24	6	6	7	4	6.1
要介護1～3	100.0	25.0	25.0	29.2	16.7	1
	53	14	4	14	15	4.2
要介護4～5	100.0	26.4	7.5	26.4	28.3	6
	37	5	5	9	18	11.3
無回答	100.0	13.5	13.5	24.3	48.6	—
	7	2	2	—	3	—
無回答	100.0	28.6	28.6	—	42.9	—
	146	48	15	36	24	23
	100.0	32.9	10.3	24.7	16.4	15.8

問	問4.1 高齢者の見守り・声かけ				問4.2 子どもの世話				問4.3 留守番・留守宅の見守り			
	合計	した	してもらった	した、してもらったの両方	無回答	した	してもらった	した、してもらったの両方	無回答	した	してもらった	した、してもらったの両方
性別	合計（無回答省略）	870	245	123	38	464	98	14	5	753	76	51
	男性	100.0	28.2	14.1	4.4	53.3	11.3	1.6	0.6	86.6	8.7	5.9
性別	女性	306	90	30	12	174	44	6	2	254	28	13
		100.0	29.4	9.8	3.9	56.9	14.4	2.0	0.7	83.0	9.2	4.2
年齢区分	65～69歳	560	155	93	26	286	54	8	3	495	48	38
	70～74歳	100.0	27.7	16.6	4.6	51.1	9.6	1.4	0.5	88.4	8.6	6.8
年齢区分	75～79歳	200	84	13	4	99	35	2	1	162	23	10
	80～84歳	100.0	42.0	6.5	2.0	49.5	17.5	1.0	0.5	81.0	11.5	5.0
年齢区分	85歳以上	192	57	23	10	102	27	3	1	161	20	10
	その他	100.0	29.7	12.0	5.2	53.1	14.1	1.6	0.5	83.9	10.4	5.2
世帯構成	一人暮らしの世帯	170	33	28	9	100	12	2	1	155	16	6
	夫婦だけの世帯	100.0	19.4	16.5	5.3	58.8	7.1	1.2	0.6	91.2	9.4	3.5
世帯構成	その他の世帯	150	27	29	8	86	5	3	—	142	9	12
	その他	100.0	18.0	19.3	5.3	57.3	3.3	2.0	—	94.7	6.0	8.0
居住地域	斜面地居住	67	7	25	6	29	3	2	—	62	—	10
	その他居住	100.0	10.4	37.3	9.0	43.3	4.5	3.0	—	92.5	—	14.9
介護保険の介護度	介護の必要はないの で申請していない	86	37	4	1	44	16	2	2	66	8	3
	介護認定の結果は自 立（非該当）	100.0	43.0	4.7	1.2	51.2	18.6	2.3	2.3	76.7	9.3	3.5
介護保険の介護度	要支援1～2	252	48	77	17	110	17	5	—	230	16	27
	要介護1～3	100.0	19.0	30.6	6.7	43.7	6.7	2.0	—	91.3	6.3	10.7
介護保険の介護度	要介護4～5	379	129	29	12	209	52	5	1	321	35	15
	無回答	100.0	34.0	7.7	3.2	55.1	13.7	1.3	0.3	84.7	9.2	4.0
介護保険の介護度	その他居住	235	68	16	9	142	29	4	4	198	25	9
	その他居住	100.0	28.9	6.8	3.8	60.4	12.3	1.7	1.7	84.3	10.6	3.8
介護保険の介護度	介護の必要はないの で申請していない	324	99	43	15	167	39	7	3	275	28	19
	介護認定の結果は自 立（非該当）	100.0	30.6	13.3	4.6	51.5	12.0	2.2	0.9	84.9	8.6	5.9
介護保険の介護度	要支援1～2	546	146	80	23	297	59	7	2	478	48	32
	要介護1～3	100.0	26.7	14.7	4.2	54.4	10.8	1.3	0.4	87.5	8.8	5.9
介護保険の介護度	要介護4～5	603	195	69	26	313	78	8	4	513	67	24
	無回答	100.0	32.3	11.4	4.3	51.9	12.9	1.3	0.7	85.1	11.1	4.0
介護保険の介護度	介護の必要はないの で申請していない	24	5	7	1	11	7	1	—	16	1	4
	介護認定の結果は自 立（非該当）	100.0	20.8	29.2	4.2	45.8	29.2	4.2	—	66.7	4.2	16.7
介護保険の介護度	要支援1～2	53	7	23	4	19	2	1	—	50	1	11
	要介護1～3	100.0	13.2	43.4	7.5	35.8	3.8	1.9	—	94.3	1.9	20.8
介護保険の介護度	要介護4～5	37	6	11	3	17	1	1	—	35	3	3
	無回答	100.0	16.2	29.7	8.1	45.9	2.7	2.7	—	94.6	8.1	8.1
介護保険の介護度	介護の必要はないの で申請していない	7	3	2	—	2	1	2	—	4	—	2
	介護認定の結果は自 立（非該当）	100.0	42.9	28.6	—	28.6	14.3	28.6	—	57.1	—	28.6
介護保険の介護度	要支援1～2	146	29	11	4	102	9	1	1	135	4	7
	要介護1～3	100.0	19.9	7.5	2.7	69.9	6.2	0.7	0.7	92.5	2.7	4.8
介護保険の介護度	要介護4～5											
	無回答											

問	問4.4 食事を作った・食事を届ける				問4.5 買い物				問4.6 家の補修・手入れ（電球の取替えなど含む）			
	合計	した	してもらった	した、してもらったの両方	無回答	した	してもらった	した、してもらったの両方	無回答	した	してもらった	した、してもらったの両方
性別	合計（無回答省略）	870	92	47	30	701	95	40	721	83	66	7
	男性	100.0	10.6	5.4	3.4	80.6	10.9	4.6	82.9	9.5	7.6	0.8
性別	女性	306	19	13	10	264	35	8	258	59	12	4
		100.0	6.2	4.2	3.3	86.3	11.4	2.6	84.3	19.3	3.9	1.3
年齢区分	65～69歳	560	72	34	20	434	59	32	460	24	54	3
		100.0	12.9	6.1	3.6	77.5	10.5	5.7	82.1	4.3	9.6	0.5
年齢区分	70～74歳	200	25	5	6	164	38	2	158	23	11	1
		100.0	12.5	2.5	3.0	82.0	19.0	1.0	79.0	11.5	5.5	0.5
年齢区分	75～79歳	192	23	10	9	150	25	3	159	28	5	3
		100.0	12.0	5.2	4.7	78.1	13.0	1.6	82.8	14.6	2.6	1.6
年齢区分	80～84歳	170	11	11	3	145	9	9	150	10	17	—
		100.0	6.5	6.5	1.8	85.3	5.3	5.3	88.2	5.9	10.0	—
年齢区分	85歳以上	150	15	9	6	120	11	13	125	8	17	2
		100.0	10.0	6.0	4.0	80.0	7.3	8.7	83.3	5.3	11.3	1.3
その他		67	4	10	3	50	2	13	51	2	15	—
		100.0	6.0	14.9	4.5	74.6	3.0	19.4	76.1	3.0	22.4	—
世帯構成	一人暮らしの世帯	86	13	2	3	68	9	—	74	12	1	1
		100.0	15.1	2.3	3.5	79.1	10.5	—	86.0	14.0	1.2	1.2
世帯構成	夫婦だけの世帯	252	21	28	15	188	27	22	197	14	38	1
		100.0	8.3	11.1	6.0	74.6	10.7	8.7	78.2	5.6	15.1	0.4
世帯構成	その他の世帯	379	47	13	12	307	47	10	316	47	20	4
		100.0	12.4	3.4	3.2	81.0	12.4	2.6	83.4	12.4	5.3	1.1
居住地	斜面地居住	235	23	6	3	203	20	8	205	22	8	2
		100.0	9.8	2.6	1.3	86.4	8.5	3.4	87.2	9.4	3.4	0.9
居住地	その他居住	324	33	21	11	259	38	17	266	34	31	3
		100.0	10.2	6.5	3.4	79.9	11.7	5.2	82.1	10.5	9.6	0.9
介護保険の介護度	介護の必要はないの で申請していない	546	59	26	19	442	57	23	455	49	35	4
	介護認定の結果は自 立（非該当）	100.0	10.8	4.8	3.5	81.0	10.4	4.2	83.3	9.0	6.4	0.7
介護保険の介護度	要支援1～2	603	71	21	25	486	70	17	505	65	31	5
		100.0	11.8	3.5	4.1	80.6	11.6	2.8	83.7	10.8	5.1	0.8
介護保険の介護度	要介護1～3	24	1	4	—	19	5	5	14	2	7	—
		100.0	4.2	16.7	—	79.2	20.8	20.8	58.3	8.3	29.2	—
介護保険の介護度	要介護4～5	53	5	10	2	36	8	6	37	7	8	1
		100.0	9.4	18.9	3.8	67.9	15.1	11.3	69.8	13.2	15.1	1.9
無回答		37	2	7	1	27	2	5	30	1	8	—
		100.0	5.4	18.9	2.7	73.0	5.4	13.5	81.1	2.7	21.6	—
無回答		7	1	2	—	4	—	2	5	—	2	1
		100.0	14.3	28.6	—	57.1	—	28.6	71.4	—	28.6	14.3
無回答		146	12	3	2	129	10	5	130	8	10	—
		100.0	8.2	2.1	1.4	88.4	6.8	3.4	89.0	5.5	6.8	—

問	問4.7 庭の除草・剪定・手入れ				問4.8 家の掃除				問4.9 外出時の送迎・付き添い			
	合計	した	してもらった	した、してもらったの両方	無回答	した	してもらった	した、してもらったの両方	無回答	した	してもらった	した、してもらったの両方
性別	合計（無回答省略）	870	137	48	8	677	74	30	764	56	44	7
	男性	100.0	15.7	5.5	0.9	77.8	8.5	3.4	87.8	6.4	5.1	0.8
性別	女性	306	66	12	1	227	37	8	260	28	11	3
		100.0	21.6	3.9	0.3	74.2	12.1	2.6	85.0	9.2	3.6	1.0
年齢区分	65～69歳	560	71	36	7	446	37	22	500	28	33	4
		100.0	12.7	6.4	1.3	79.6	6.6	3.9	89.3	5.0	5.9	0.7
年齢区分	70～74歳	200	42	6	4	148	25	1	174	25	3	2
		100.0	21.0	3.0	2.0	74.0	12.5	0.5	87.0	12.5	1.5	1.0
年齢区分	75～79歳	192	36	13	—	143	18	3	171	15	5	4
		100.0	18.8	6.8	—	74.5	9.4	1.6	89.1	7.8	2.6	2.1
年齢区分	80～84歳	170	22	9	1	138	12	5	152	4	12	—
		100.0	12.9	5.3	0.6	81.2	7.1	2.9	89.4	2.4	7.1	—
年齢区分	85歳以上	150	20	7	2	121	9	10	131	2	11	—
		100.0	13.3	4.7	1.3	80.7	6.0	6.7	87.3	1.3	7.3	—
その他		67	10	8	—	49	6	10	51	1	11	—
		100.0	14.9	11.9	—	73.1	9.0	14.9	76.1	1.5	16.4	—
その他		86	7	4	1	74	4	1	80	9	2	1
		100.0	8.1	4.7	1.2	86.0	4.7	1.2	93.0	10.5	2.3	1.2
世帯構成	一人暮らしの世帯	252	38	18	2	194	20	19	212	7	24	2
		100.0	15.1	7.1	0.8	77.0	7.9	7.5	84.1	2.8	9.5	0.8
世帯構成	夫婦だけの世帯	379	72	16	3	288	33	6	339	31	13	4
		100.0	19.0	4.2	0.8	76.0	8.7	1.6	89.4	8.2	3.4	1.1
世帯構成	その他の世帯	235	26	14	3	192	20	5	210	18	7	1
		100.0	11.1	6.0	1.3	81.7	8.5	2.1	89.4	7.7	3.0	0.4
居住地域	斜面地居住	324	65	14	2	243	28	8	286	21	20	3
		100.0	20.1	4.3	0.6	75.0	8.6	2.5	88.3	6.5	6.2	0.9
居住地域	その他居住	546	72	34	6	434	46	22	478	35	24	4
		100.0	13.2	6.2	1.1	79.5	8.4	4.0	87.5	6.4	4.4	0.7
介護保険の介護度	介護の必要はないの で申請していない	603	101	33	5	464	47	8	548	47	19	4
		100.0	16.7	5.5	0.8	76.9	7.8	1.3	90.9	7.8	3.2	0.7
介護保険の介護度	介護認定の結果は自立（非該当）	24	5	2	1	16	4	5	15	1	2	2
		100.0	20.8	8.3	4.2	66.7	16.7	20.8	62.5	4.2	8.3	8.3
介護保険の介護度	要支援1～2	53	10	2	1	40	6	7	38	2	11	1
		100.0	18.9	3.8	1.9	75.5	11.3	13.2	71.7	3.8	20.8	1.9
介護保険の介護度	要介護1～3	37	5	4	—	28	3	5	29	1	8	—
		100.0	13.5	10.8	—	75.7	8.1	13.5	78.4	2.7	21.6	—
介護保険の介護度	要介護4～5	7	1	2	—	4	1	2	4	—	1	—
		100.0	14.3	28.6	—	57.1	14.3	28.6	57.1	—	14.3	—
無回答		146	15	5	1	125	13	3	130	5	3	—
		100.0	10.3	3.4	0.7	85.6	8.9	2.1	89.0	3.4	2.1	—

	問	問4.10 相談ごと				問4.11 お金の貸し借り				問4.12 物の貸し借り				問4.13 物の貸し借り (道具・食品・日用品)				
	合計	した	してもらった	した、してもらったの両方	無回答	した	してもらった	した、してもらったの両方	無回答	した	してもらった	した、してもらったの両方	無回答	した	してもらった	した、してもらったの両方	無回答	
性別	合計 (無回答省略)	870	96	45	16	713	15	17	2	836	42	19	18	791				
		100.0	11.0	5.2	1.8	82.0	1.7	2.0	0.2	96.1	4.8	2.2	2.1	90.9				
	男性	306	38	12	4	252	4	7	—	295	14	10	6	276				
		100.0	12.4	3.9	1.3	82.4	1.3	2.3	—	96.4	4.6	3.3	2.0	90.2				
年齢区分	女性	560	58	32	12	458	11	10	2	537	28	9	12	511				
		100.0	10.4	5.7	2.1	81.8	2.0	1.8	0.4	95.9	5.0	1.6	2.1	91.3				
	65～69歳	200	32	7	6	155	5	6	—	189	16	4	3	177				
		100.0	16.0	3.5	3.0	77.5	2.5	3.0	—	94.5	8.0	2.0	1.5	88.5				
	70～74歳	192	29	8	3	152	6	5	1	180	16	8	4	164				
		100.0	15.1	4.2	1.6	79.2	3.1	2.6	0.5	93.8	8.3	4.2	2.1	85.4				
	75～79歳	170	13	9	1	147	1	3	—	166	2	5	1	162				
		100.0	7.6	5.3	0.6	86.5	0.6	1.8	—	97.6	1.2	2.9	0.6	95.3				
	80～84歳	150	8	10	2	130	3	1	—	146	2	1	1	146				
		100.0	5.3	6.7	1.3	86.7	2.0	0.7	—	97.3	1.3	0.7	0.7	97.3				
世帯構成	85歳以上	67	2	8	2	55	—	1	1	65	—	1	3	63				
		100.0	3.0	11.9	3.0	82.1	—	1.5	1.5	97.0	—	1.5	4.5	94.0				
	その他	86	12	2	2	70	—	1	—	85	6	—	6	74				
		100.0	14.0	2.3	2.3	81.4	—	1.2	—	98.8	7.0	—	7.0	86.0				
	一人暮らしの世帯	252	22	22	5	203	6	2	—	244	10	3	5	234				
		100.0	8.7	8.7	2.0	80.6	2.4	0.8	—	96.8	4.0	1.2	2.0	92.9				
	夫婦だけの世帯	379	48	12	6	313	8	10	—	361	22	11	8	338				
		100.0	12.7	3.2	1.6	82.6	2.1	2.6	—	95.3	5.8	2.9	2.1	89.2				
	その他の世帯	235	26	10	5	194	1	5	2	227	10	5	5	215				
		100.0	11.1	4.3	2.1	82.6	0.4	2.1	0.9	96.6	4.3	2.1	2.1	91.5				
居住地域	324	45	18	8	253	7	5	1	311	17	9	7	291					
		100.0	13.9	5.6	2.5	78.1	2.2	1.5	0.3	96.0	5.2	2.8	2.2	89.8				
	斜面地居住	546	51	27	8	460	8	12	1	525	25	10	11	500				
		100.0	9.3	4.9	1.5	84.2	1.5	2.2	0.2	96.2	4.6	1.8	2.0	91.6				
介護保険の介護度	その他居住	603	78	21	13	491	14	11	1	577	34	12	15	542				
		100.0	12.9	3.5	2.2	81.4	2.3	1.8	0.2	95.7	5.6	2.0	2.5	89.9				
	介護の必要はないので申請していない	24	6	5	—	13	—	2	—	22	1	2	1	20				
	介護認定の結果は自立 (非該当)	100.0	25.0	20.8	—	54.2	—	8.3	—	91.7	4.2	8.3	4.2	83.3				
	要支援 1 ～ 2	53	1	10	1	41	—	1	—	52	1	3	—	49				
		100.0	1.9	18.9	1.9	77.4	—	1.9	—	98.1	1.9	5.7	—	92.5				
	要介護 1 ～ 3	37	6	3	1	27	1	—	1	35	1	—	2	34				
		100.0	16.2	8.1	2.7	73.0	2.7	—	2.7	94.6	2.7	—	5.4	91.9				
	要介護 4 ～ 5	7	1	2	—	4	—	1	—	6	1	1	—	5				
		100.0	14.3	28.6	—	57.1	—	14.3	—	85.7	14.3	14.3	—	71.4				
無回答	146	4	4	1	137	—	2	—	144	4	1	—	141					
		100.0	2.7	2.7	0.7	93.8	—	1.4	—	98.6	2.7	0.7	—	96.6				

	問	問4.13 看病・介護				問4.14 情報提供（お買い物・病院・福祉・教育の情報）				問4.15 その他			
	合計	した	してもらった	した、してもらったの両方	無回答	した	してもらった	した、してもらったの両方	無回答	した	してもらった	した、してもらったの両方	無回答
性別	合計（無回答省略）	870	40	31	4	795	78	42	31	719	11	8	849
	男性	100.0	4.6	3.6	0.5	91.4	9.0	4.8	3.6	82.6	1.3	0.9	97.6
年齢区分	女性	306	15	12	2	277	28	13	10	255	5	2	297
	65～69歳	100.0	4.9	3.9	0.7	90.5	9.2	4.2	3.3	83.3	1.6	0.7	97.1
	女性	560	25	19	2	514	50	29	21	460	6	6	548
	65～69歳	100.0	4.5	3.4	0.4	91.8	8.9	5.2	3.8	82.1	1.1	1.1	97.9
	70～74歳	200	18	2	1	179	27	8	5	160	1	2	196
	70～74歳	100.0	9.0	1.0	0.5	89.5	13.5	4.0	2.5	80.0	0.5	1.0	98.0
	75～79歳	192	16	6	2	168	30	7	8	147	4	—	188
	75～79歳	100.0	8.3	3.1	1.0	87.5	15.6	3.6	4.2	76.6	2.1	—	97.9
	80～84歳	170	1	7	—	162	6	13	8	143	1	—	168
	80～84歳	100.0	0.6	4.1	—	95.3	3.5	7.6	4.7	84.1	0.6	0.6	98.8
	85歳以上	150	1	8	—	141	8	6	2	134	4	3	142
	85歳以上	100.0	0.7	5.3	—	94.0	5.3	4.0	1.3	89.3	2.7	2.0	94.7
	その他	67	—	7	—	60	—	6	3	58	—	2	65
	その他	100.0	—	10.4	—	89.6	—	9.0	4.5	86.6	—	3.0	97.0
	一人暮らしの世帯	86	4	1	1	80	7	1	5	73	1	—	85
	一人暮らしの世帯	100.0	4.7	1.2	1.2	93.0	8.1	1.2	5.8	84.9	1.2	—	98.8
世帯構成	夫婦だけの世帯	252	8	11	2	231	12	22	6	212	2	3	247
	夫婦だけの世帯	100.0	3.2	4.4	0.8	91.7	4.8	8.7	2.4	84.1	0.8	1.2	98.0
	その他の世帯	379	23	13	2	341	48	15	19	297	6	1	372
	その他の世帯	100.0	6.1	3.4	0.5	90.0	12.7	4.0	5.0	78.4	1.6	0.3	98.2
	斜面地居住	235	9	7	—	219	18	5	6	206	3	4	226
	斜面地居住	100.0	3.8	3.0	—	93.2	7.7	2.1	2.6	87.7	1.3	1.7	96.2
居住地	その他居住	324	14	15	1	294	30	15	19	260	2	2	320
	その他居住	100.0	4.3	4.6	0.3	90.7	9.3	4.6	5.9	80.2	0.6	0.6	98.8
	介護の必要はないの で申請していない	546	26	16	3	501	48	27	12	459	9	6	529
	介護認定の結果は自 立（非該当）	100.0	4.8	2.9	0.5	91.8	8.8	4.9	2.2	84.1	1.6	1.1	96.9
介護保険の介護度	要支援1～2	603	32	10	2	559	66	23	24	490	9	5	587
	要支援1～2	100.0	5.3	1.7	0.3	92.7	10.9	3.8	4.0	81.3	1.5	0.8	97.3
	要介護1～3	24	1	3	1	19	4	6	1	13	1	—	22
	要介護1～3	100.0	4.2	12.5	4.2	79.2	16.7	25.0	4.2	54.2	4.2	4.2	91.7
	要介護4～5	53	2	8	1	42	2	3	4	44	—	1	52
	要介護4～5	100.0	3.8	15.1	1.9	79.2	3.8	5.7	7.5	83.0	—	1.9	98.1
	無回答	37	2	5	—	30	2	5	2	28	1	—	36
	無回答	100.0	5.4	13.5	—	81.1	5.4	13.5	5.4	75.7	2.7	—	97.3
	要介護4～5	7	2	2	—	3	1	3	—	3	—	1	6
	要介護4～5	100.0	28.6	28.6	—	42.9	14.3	42.9	—	42.9	—	14.3	85.7
	無回答	146	1	3	—	142	3	2	—	141	—	—	146
	無回答	100.0	0.7	2.1	—	97.3	2.1	1.4	—	96.6	—	—	100.0

	問	問5.1 景観に気をつけて次のようなことをしていますか				問5.2 空家や廃屋は増えていますか					
	合計	自分の家の庭造り (植栽や花壇など) に気をつけている	景観を保つために、近隣の景色 を良くするため、あるいは景観 の保全に関わったことがある	空家や廃屋の保 全や修復	その他・無回答	していない	増えている	減っている	あまり変わらない	わからない・無回答	
性別	合計（無回答省略）	870 100.0	353 40.6	36 4.1	8 0.9	76 8.7	397 45.6	314 36.1	27 3.1	376 43.2	153 17.6
	男性	306 100.0	128 41.8	16 5.2	6 2.0	30 9.8	126 41.2	120 39.2	9 2.9	132 43.1	45 14.7
	女性	560 100.0	223 39.8	20 3.6	2 0.4	46 8.2	269 48.0	193 34.5	18 3.2	243 43.4	106 18.9
	65～69歳	200 100.0	83 41.5	14 7.0	4 2.0	17 8.5	82 41.0	74 37.0	9 4.5	101 50.5	16 8.0
	70～74歳	192 100.0	88 45.8	10 5.2	1 0.5	11 5.7	82 42.7	74 38.5	9 4.7	78 40.6	31 16.1
	75～79歳	170 100.0	72 42.4	4 2.4	2 1.2	8 4.7	84 49.4	58 34.1	3 1.8	63 37.1	46 27.1
	80～84歳	150 100.0	56 37.3	2 1.3	—	18 12.0	74 49.3	44 29.3	4 2.7	67 44.7	35 23.3
	85歳以上	67 100.0	28 41.8	—	—	5 7.5	34 50.7	24 35.8	2 3.0	27 40.3	14 20.9
	その他	86 100.0	24 27.9	6 7.0	1 1.2	17 19.8	38 44.2	40 46.5	—	39 45.3	7 8.1
	世帯構成	一人暮らしの世帯	252 100.0	93 36.9	7 2.8	2 0.8	25 9.9	125 49.6	84 33.3	8 3.2	107 42.5
夫婦だけの世帯		379 100.0	159 42.0	21 5.5	4 1.1	25 6.6	170 44.9	147 38.8	12 3.2	151 39.8	69 18.2
その他の世帯		235 100.0	100 42.6	8 3.4	2 0.9	26 11.1	99 42.1	83 35.3	7 3.0	117 49.8	28 11.9
居住地域	斜面地居住	324 100.0	153 47.2	15 4.6	4 1.2	42 13.0	110 34.0	152 46.9	5 1.5	136 42.0	31 9.6
	その他居住	546 100.0	200 36.6	21 3.8	4 0.7	34 6.2	287 52.6	162 29.7	22 4.0	240 44.0	122 22.3
	介護の必要はないの で申請していない	603 100.0	290 48.1	31 5.1	5 0.8	53 8.8	224 37.1	235 39.0	17 2.8	298 49.4	53 8.8
介護保険の介護度	介護認定の結果は自 立（非該当）	24 100.0	7 29.2	1 4.2	1 4.2	2 8.3	13 54.2	11 45.8	—	9 37.5	4 16.7
	要支援 1～2	53 100.0	22 41.5	—	—	6 11.3	25 47.2	21 39.6	1 1.9	23 43.4	8 15.1
	要介護 1～3	37 100.0	10 27.0	—	—	7 18.9	20 54.1	16 43.2	2 5.4	11 29.7	8 21.6
	要介護 4～5	7 100.0	1 14.3	1 14.3	—	2 28.6	3 42.9	2 28.6	1 14.3	3 42.9	1 14.3
	無回答	146 100.0	23 15.8	3 2.1	2 1.4	6 4.1	112 76.7	29 19.9	6 4.1	32 21.9	79 54.1

	問5.3 移転する条件（3つまで）												問
	合計	病院が近い	商店街が近い	デパートが近い	スーパーが近い	娯楽施設が近い	役所や図書館等の公共施設が近い	交通が便利	マンションが便利	その他	移りたいと思わない	無回答	
性別	合計（無回答省略）	870	480	268	26	377	15	68	323	37	15	173	125
		100.0	55.2	30.8	3.0	43.3	1.7	7.8	37.1	4.3	1.7	19.9	14.4
男性		306	152	80	11	120	6	22	110	14	6	82	41
		100.0	49.7	26.1	3.6	39.2	2.0	7.2	35.9	4.6	2.0	26.8	13.4
女性		560	326	188	15	255	9	46	212	23	9	91	82
		100.0	58.2	33.6	2.7	45.5	1.6	8.2	37.9	4.1	1.6	16.3	14.6
年齢区分	65～69歳	200	117	55	5	103	6	19	86	12	4	38	15
		100.0	58.5	27.5	2.5	51.5	3.0	9.5	43.0	6.0	2.0	19.0	7.5
	70～74歳	192	110	64	6	81	3	17	80	11	3	27	30
		100.0	57.3	33.3	3.1	42.2	1.6	8.9	41.7	5.7	1.6	14.1	15.6
	75～79歳	170	89	55	7	63	4	11	53	7	—	37	31
		100.0	52.4	32.4	4.1	37.1	2.4	6.5	31.2	4.1	—	21.8	18.2
	80～84歳	150	76	49	6	60	2	4	42	3	1	35	30
		100.0	50.7	32.7	4.0	40.0	1.3	2.7	28.0	2.0	0.7	23.3	20.0
	85歳以上	67	31	21	—	26	—	6	12	2	2	18	13
		100.0	46.3	31.3	—	38.8	—	9.0	17.9	3.0	3.0	26.9	19.4
その他		86	54	24	2	42	—	10	47	2	5	18	4
		100.0	62.8	27.9	2.3	48.8	—	11.6	54.7	2.3	5.8	20.9	4.7
世帯構成	一人暮らしの世帯	252	140	89	6	102	3	20	80	9	5	48	41
		100.0	55.6	35.3	2.4	40.5	1.2	7.9	31.7	3.6	2.0	19.0	16.3
	夫婦だけの世帯	379	216	109	13	167	11	30	153	22	2	69	54
その他の世帯		100.0	57.0	28.8	3.4	44.1	2.9	7.9	40.4	5.8	0.5	18.2	14.2
		235	123	70	7	107	1	18	89	6	8	56	27
		100.0	52.3	29.8	3.0	45.5	0.4	7.7	37.9	2.6	3.4	23.8	11.5
斜面地居住		324	224	133	9	173	8	33	146	11	7	49	19
		100.0	69.1	41.0	2.8	53.4	2.5	10.2	45.1	3.4	2.2	15.1	5.9
		546	256	135	17	204	7	35	177	26	8	124	106
その他居住		100.0	46.9	24.7	3.1	37.4	1.3	6.4	32.4	4.8	1.5	22.7	19.4
	介護の必要はないの で申請していない	603	360	189	21	287	9	53	252	28	9	136	39
	介護認定の結果は自 立（非該当）	100.0	59.7	31.3	3.5	47.6	1.5	8.8	41.8	4.6	1.5	22.6	6.5
介護保険の介護度		24	17	13	—	14	—	3	11	1	1	4	—
		100.0	70.8	54.2	—	58.3	—	12.5	45.8	4.2	4.2	16.7	—
	要支援1～2	53	27	21	1	16	1	3	17	2	2	9	9
要介護1～3		100.0	50.9	39.6	1.9	30.2	1.9	5.7	32.1	3.8	3.8	17.0	17.0
		37	15	13	3	16	1	2	9	3	1	13	3
		100.0	40.5	35.1	8.1	43.2	2.7	5.4	24.3	8.1	2.7	35.1	8.1
要介護4～5		7	3	2	1	—	—	—	1	—	2	3	—
		100.0	42.9	28.6	14.3	—	—	—	14.3	—	28.6	42.9	—
		146	58	30	—	44	4	7	33	3	—	8	74
無回答		100.0	39.7	20.5	—	30.1	2.7	4.8	22.6	2.1	—	5.5	50.7

	問	問5.4 安心のために重要なこと（多重回答）												
	合計	同居している家族	離れていても家族がいる	親戚	隣近所の親しい友人・知人	隣近所とのつき合い	離れた地域・友人	役所のサービス	緊急時の消費・救急	福祉サービスの充実	その他・わからない・別	無回答		
性別	合計（無回答省略）	870	359	373	162	368	375	60	147	301	345	7	18	75
	男性	100.0	41.3	42.9	18.6	42.3	43.1	6.9	16.9	34.6	39.7	0.8	2.1	8.6
年齢区分	女性	306	146	127	64	106	138	13	50	109	112	3	9	24
		100.0	47.7	41.5	20.9	34.6	45.1	4.2	16.3	35.6	36.6	1.0	2.9	7.8
	65～69歳	560	213	245	97	260	236	46	97	190	232	4	9	49
		100.0	38.0	43.8	17.3	46.4	42.1	8.2	17.3	33.9	41.4	0.7	1.6	8.8
	65～69歳	200	95	87	39	99	77	22	29	70	86	2	1	4
		100.0	47.5	43.5	19.5	49.5	38.5	11.0	14.5	35.0	43.0	1.0	0.5	2.0
	70～74歳	192	77	97	42	84	86	12	31	69	76	2	4	15
		100.0	40.1	50.5	21.9	43.8	44.8	6.3	16.1	35.9	39.6	1.0	2.1	7.8
	75～79歳	170	55	71	32	70	76	7	30	56	64	1	6	18
		100.0	32.4	41.8	18.8	41.2	44.7	4.1	17.6	32.9	37.6	0.6	0.6	3.5
	80～84歳	150	45	60	29	52	73	8	26	51	57	1	2	19
		100.0	30.0	40.0	19.3	34.7	48.7	5.3	17.3	34.0	38.0	0.7	1.3	12.7
	85歳以上	67	29	25	13	24	27	6	13	24	25	1	1	7
		100.0	43.3	37.3	19.4	35.8	40.3	9.0	19.4	35.8	37.3	1.5	1.5	10.4
	その他	86	57	32	7	38	34	4	18	28	34	—	1	3
		100.0	66.3	37.2	8.1	44.2	39.5	4.7	20.9	32.6	39.5	—	1.2	3.5
世帯構成	一人暮らしの世帯	252	34	127	45	126	111	25	50	88	102	2	2	23
		100.0	13.5	50.4	17.9	50.0	44.0	9.9	19.8	34.9	40.5	0.8	0.8	9.1
	夫婦だけの世帯	379	154	176	76	157	168	18	65	129	158	1	2	34
		100.0	40.6	46.4	20.1	41.4	44.3	4.7	17.2	34.0	41.7	0.3	0.5	9.0
	その他の世帯	235	171	70	41	84	95	16	32	83	84	4	3	15
		100.0	72.8	29.8	17.4	35.7	40.4	6.8	13.6	35.3	35.7	1.7	1.3	6.4
居住地	斜面地居住	324	143	137	60	153	160	21	70	128	152	2	6	7
		100.0	44.1	42.3	18.5	47.2	49.4	6.5	21.6	39.5	46.9	0.6	—	2.2
	その他居住	546	216	236	102	215	215	39	77	173	193	5	7	68
		100.0	39.6	43.2	18.7	39.4	39.4	7.1	14.1	31.7	35.3	0.9	1.3	12.5
介護保険の介護度	介護の必要はないので申請していない	603	274	280	127	298	290	39	102	214	253	5	7	9
		100.0	45.4	46.4	21.1	49.4	48.1	6.5	16.9	35.5	42.0	0.8	1.2	1.8
	介護認定の結果は自立（非該当）	24	16	10	2	8	11	4	9	10	12	—	—	—
		100.0	66.7	41.7	8.3	33.3	45.8	16.7	37.5	41.7	50.0	—	—	—
	要支援 1～2	53	18	24	6	20	18	3	9	28	31	—	1	—
		100.0	34.0	45.3	11.3	37.7	34.0	5.7	17.0	52.8	58.5	—	1.9	—
	要介護 1～3	37	14	16	6	11	17	2	11	22	22	—	2	1
		100.0	37.8	43.2	16.2	29.7	45.9	5.4	29.7	59.5	59.5	—	5.4	2.7
	要介護 4～5	7	5	3	3	1	2	—	1	4	2	1	—	—
		100.0	71.4	42.9	42.9	14.3	28.6	—	14.3	57.1	28.6	14.3	—	—
	無回答	146	32	40	18	30	37	12	15	23	25	1	4	65
		100.0	21.9	27.4	12.3	20.5	25.3	8.2	10.3	15.8	17.1	0.7	2.7	44.5

		問 6 介護保険の介護度						
		問 合計	介護の必要はないので申請していない	介護認定の結果は自立(非該当)	要支援 1～2	要介護 1～3	要介護 4～5	無回答
性別	合計 (無回答省略)	870	603	24	53	37	7	146
		100.0	69.3	2.8	6.1	4.3	0.8	16.8
	男性	306	225	9	12	10	5	45
		100.0	73.5	2.9	3.9	3.3	1.6	14.7
年齢区分	女性	560	378	15	41	27	2	97
		100.0	67.5	2.7	7.3	4.8	0.4	17.3
	65～69歳	200	173	6	1	—	—	20
		100.0	86.5	3.0	0.5	—	—	10.0
年齢区分	70～74歳	192	137	4	15	3	3	30
		100.0	71.4	2.1	7.8	1.6	1.6	15.6
	75～79歳	170	103	7	12	9	—	39
		100.0	60.6	4.1	7.1	5.3	—	22.9
世帯構成	80～84歳	150	92	3	14	11	1	29
		100.0	61.3	2.0	9.3	7.3	0.7	19.3
	85歳以上	67	25	4	9	14	3	12
		100.0	37.3	6.0	13.4	20.9	4.5	17.9
世帯構成	その他	86	71	—	2	—	—	13
		100.0	82.6	—	2.3	—	—	15.1
	一人暮らしの世帯	252	152	9	31	16	1	43
		100.0	60.3	3.6	12.3	6.3	0.4	17.1
世帯構成	夫婦だけの世帯	379	276	9	14	13	2	65
		100.0	72.8	2.4	3.7	3.4	0.5	17.2
	その他の世帯	235	175	6	8	8	4	34
		100.0	74.5	2.6	3.4	3.4	1.7	14.5
居住地域	斜面地居住	324	232	10	24	19	2	37
		100.0	71.6	3.1	7.4	5.9	0.6	11.4
	その他居住	546	371	14	29	18	5	109
		100.0	67.9	2.6	5.3	3.3	0.9	20.0
介護保険の介護度	介護の必要はないので申請していない	603						
		100.0						
	介護認定の結果は自立 (非該当)	24						
		100.0						
介護保険の介護度	要支援 1～2	53						
		100.0						
	要介護 1～3	37						
		100.0						
介護保険の介護度	要介護 4～5	7						
		100.0						
	無回答	146						
		100.0						

第2章 末端の住民自治組織「自治町会（町内会）」等の現状と課題に関する考察

～八幡東区中尾三丁目の住民意識調査から見えてくるもの～

1 調査の目的

急速な少子高齢化の進行や、連帯意識の希薄化・無関心化がいわれるなかで、いま地域コミュニティの末端組織「自治町会」の運営は、きわめて複雑で困難な問題を抱えている。

役員のなり手がなく、高齢で組長業務が辛い、一人暮らしや高齢者単独世帯の急増、空き家の増加、生活困窮世帯の増加、町内会の役割とは…、活動範囲や責任領域の問題、行政や他機関・団体との関係は…等々。どの現象も深刻で、住民自治組織の「あり様」に対する本質的論議と、現状打開のための当面对策を併行して取り組まなければならない状況に直面していると言えよう。

加えて、北九州方式の地域づくり方針のなかで、校区市民センターを中心にしたまちづくり推進の中核となる「まちづくり協議会」との関係、活動・業務内容の多様化も加わり、自治町会の位置づけに変化を生じさせている。

このようなもとで地域住民は、自治町会をはじめ、婦人会、老人クラブといった既存の住民組織をどのように認知し、何に期待し、何を評価し、はた、不満を持っているか等を解明し、併せて、自治町会と新たな関連性を深めている校区市民センター・校区まちづくり協議会に対する認知度・関心度・帰属意識・参加意識などを知ることによって、今後の町会運営に生かしていこうとするもの。また、これらの調査を通じて住民自治組織そのものや、住民主体のまちづくりのあり方について課題や今後の方向を探ろうとするものである。

2 中尾三丁目自治町会の概況

1. 八幡東区の東部、高槻小学校校区に位置する郊外住宅地で、東側を小倉北・南区と境界を接する山路町・大平町と東北東方向に流れる槻田川（旧、金山川）を挟んで西側の斜面に約350の主として戸建住宅が5本の谷道(市道)に沿って点在している。公共交通機関としては西鉄バスが町内の最深部を終点として荒生田・七条・戸畑方面と結び、市民センター・小学校とは徒歩で約20分以内の半径に収まっている。
2. 市の住民基本台帳による当町会の人口は410世帯・996人（2007年9月30日）であるが、市の「町・丁・字」区分と自治町会の境界の相違等から、町会加入率はほぼ90パーセント台を維持しているにもかかわらず、町会の2007年4月1日時点の現勢は312世帯・862人となっている。これは、校区まちづくり協議会を構成する4自治区会（高槻・中畑・山路・大平）の中では最も大きな町会でもある。

3. 八幡東区の高齢化率は29,0%（2007年9月末現在）で、北九州市（22,6%）で最も高く、当町内も少子高齢化の傾向が年々進行の一途をたどっている。

△ 中尾三丁目の高齢化率（人口に占める65歳以上の比率）

中尾三丁目全体 29,5%

自治町会加入者のみ 27,7%

△ 中尾三丁目の少子化率（人口に占める15歳未満の比率）

中尾三丁目全体 9,2%

自治町会加入者のみ 9,9%

4. 町の凡そ8割の世帯が急な坂道で生活しており、高齢化が進む中で日常生活はもとより、自治会活動にも少なからぬ支障が出てきている。

△ アンケートで、町会の課題として坂道の多いことをあげた人が全体の48,2%もの高ポイントとなっており、年齢層が高いほどその比率も高くなっている。

（50代：49,5%、60代：51,0%、70代以上：53,0%）

5. 自治委員も輪番制の組が多く、高齢の人が当番で組長になるところもあり、「組長がまわってくるのが怖い」という声も聞かれる。

6. 自治町会の加入率は90パーセント以上の高率を維持しているが、一人暮らし高齢者の死亡、長期入院、施設入所等は年を追って漸増しており、実質的な空き家の増加と町会加入世帯の減少が続いている。

7. 平成13年4月に校区市民センターがオープン以来、地域活動の拠点としての役割を果たすようになり、町会活動とまちづくり協議会活動の連携や調整も必要になってきている。

8. このような状況の中で、自治町会が住民自治のカナメの組織として、その機能と役割を果たしていくためには、従来にも増して住民相互の協力体制、そのための連帯・共同意識の醸成を通して、助け合い・支え合いのまちづくりが必要になってきている。各種行事・活動への積極的な参加はもとより、日常の環境美化やマナーアップ（ごみ出し・迷惑駐車・ペットの飼い方等）・防犯防災対策など、具体的な課題に対する住民相互の理解や自覚を高める取り組みも要求が高い。特に、ふれあいネットワーク事業など、高齢者や高齢世帯に対する見守り・支援の取り組みが益々重要になっているといえよう。

9. 個々の自治町会が抱える諸課題の解決のためには、町会自体の努力はもとよりであるが、問題解決をより有効に促進し、住民の生活環境改善を図るには校区自治活動の中核としての「まちづくり協議会」の役割は極めて重要。そのために、中尾三丁目自治町会では「まちづくり協議会」にバス問題などを積極的に取り組むように問題提起を行ってきている。

10. 併せて、高齢者や病弱者等、支援が必要な人達が安心して安全に暮らせるようにするには、住民自治組織の活動だけで解決できるものではなく、行政など関係機関の責任ときめ細かな対応を求め、連携を密にしながら相互の役割の棲み分けと、対等・平等の協働関係を確立していくことが必要である。

11. 自治町会と同じエリアに属性・年代別の単独組織として婦人会・老人クラブが健在で、活発な

活動を展開し、町会と連携を図りながら密接な協力関係を維持している。反面、子ども会、青年会といった地域組織は完全に過去のものとなってしまった。

3 調査方法と調査内容等

1 調査時期・方法等

- (1) 2008年1月15日から調査用紙配布、2月15日締め切りで回収。
- (2) 町会長→4つのブロック責任者（副町会長）→組長（27組）→会員家庭のルートで配布し、逆ルートで回収。
- (3) 調査対象……………20歳以上の全町会員
- (4) 回収状況……………調査対象740人、回答者596人 回収率80,54%

2 調査内容

- (1) 方式……………アンケート方式
- (2) 設問・項目……………別掲（101～103P）

4 調査結果の概要

別掲（104P～122P）

5 調査結果 若干の分析

設問1 回答者の属性・年代

- ① 町会全体の男女比は、女性54,8%（472人） 男性45,2%（390人）。そのうち20歳以上は、女性54,2%（401人） 男性45,8%（339人）となっている。
- ② 回答者の属性比較は、女性316人 男性257人 属性不記入23人で、回答率（回収率）は、女性78,8%、男性75,8%（属性不明100%）で、女性の方が3ポイントほど上回っている。
- ③ 年代別では、回答率に大きな差が認められ、20歳代の64,2%に対して60歳代は95,6%となっており、高年齢層の方が高くなる傾向が顕著である。

設問2 自治町会・婦人会・老人クラブの認知度

- ① 町会・婦人会・老人クラブの住民組織に対する認知度は「知っている」が82,4%と、「知っているものもある」を加えると92,1%に達する。
- ② これに対して「知らない」「関心がない」の合計が7,2%で、とりわけ20代では38,9%と、4割近くが無関心であることが分かる。
- ③ 男女比では「知っている」で女性の方が4,5%上回っている。婦人会の存在がどう影響して

いるか？ 無関心層は、若干ではあるが男性の方に多い。

設問 3 町会の活動で何に力を入れるべきか

- ① 男女とも、「道路・ゴミ問題など」日常生活に直結した課題をトップにあげ、2位以下に大きく水をあけている。
- ② つづいて、「少子高齢化対策」「住民相互の親睦や連帯のための行事」「地域や町の独自課題」「行政との協働による自治活動」と続き、順位には属性による大きな相違は見られないが、女性の方が「少子高齢化」を深刻に受け止め、男性は「親睦や連帯」「地域や町の独自課題」に比較的強い関心を持っていることがうかがえる。
- ③ 「少子高齢化対策」を過半数があげたのが30代女性、60代女性であったことと、30、40、50代男性のポイントが低い点が注目される。
- ④ 若年層の「親睦や連帯」のポイントが低いことと、町内行事への参加者の年齢層に偏りがみられる傾向にはそれなりの因果関係が認められるのではなかろうか。
- ⑤ 日常活動の中で時々耳にする「町会は会費の徴収や回覧板による周知活動をやっておけばよいのであって、あまり色々なことはしなくてよい」という意見が、今回の調査では9.1ポイントであった。これを多いと見るか、少ないと見るか微妙なところ。
- ⑥ 以上から見えてくることは、今日の町会に対する住民のニーズが極めて多様化し、分化していることが解るが、どの課題に、どの程度のウエートを置いて運営すべきか、どれを取っても「必要ない」と切り捨てられるものが無いだけに難しい選択である。
- ⑦ 設問4の「町会の当面の課題は何？」と総合的に見ると、より住民の意識状況が鮮明に見えてくるのではなかろうか。

設問 4 町会の当面の課題は何か

- ① 全体的に過半数を超えて最も多いのが「バス便の増発など、公共交通手段の充実」であったことは（女性1位、男性3位）意外とも見えるが、ダイヤ改正のたびに減便や路線廃止の影響を最も受けている中高年女性には、とりわけ最大の関心事であり、切実な問題であることがうかがえる。この問題は当町会から再三申し入れた結果「校区まちづくり協議会」の活動方針にようやく盛り込むことができたが、住民がまちづくりに何を要望し、どんなことに期待しているかを具体的に示す数字であるといえよう。
- ② 急な坂道に悩まされている日常生活の不便から、高齢化の進行とあいまって「坂道対策」が男性で49ポイント（第1位）、女性48.4ポイント（第3位）と、地域の地形的な特徴に対する対策の必要性をあげている。
- ③ 「高齢者への支援対策やシステム」は男女とも第2位を占め、(46.7、52.8) バス問題や坂道問題と併せて高齢社会における自治活動の重要課題を浮き彫りにしている。
- ④ 反面、次代を担う「子どもの問題や少子化対策」は「環境問題」と並んで、当面する切実な課題の影に押しやられた傾向があり、第7、8位と必ずしも高い関心にはなり得ていない。

- ⑤ このほか、「違法駐車・犬の糞・ポイ捨てなど、マナーやモラルの問題」への関心は高く、男女とも第4位で、全体でも44,3ポイントとなっている。
- ⑥ 高齢化対策等とともに日常生活に直結した「下水や道路、手摺り設置など、住環境の改善」も全体で34,1ポイントと、第5位にランクされているが、ひと頃の自治会・町会活動に比べて、他に大きな課題が増えたことで、この位置にとどまっているような感もある。
- ⑦ 「町会、婦人会、老人クラブ活動の活性化」による住民組織の強化を望む声は、男性10,1ポイント、女性9,8ポイントとなっている。
- ⑧ この設問でも、自治町会など地域組織の関わっている問題に対する住民の課題意識は、各年代を通じて多様化しており、今後の活動のあり様については多面的な分析・検討が必要と思われる。

設問5 広報活動について（広報紙3紙はどの程度読まれているか？）

※町会を通じて配布している①市政だより ②市民センターだより ③町会だより「向こう三軒両隣」の、3種類の広報紙がどの程度読まれているかについての実態を把握するための調査項目。

- ① 3紙のうち、よく読まれている順に①市政だより ②町会だより「向こう三軒両隣」 ③市民センターだよりとなっている。

全体で、「毎回よく読む」と「関心のある記事を読む」の合計は、市政だより64,3%、町会だより59,9%、市民センターだより55,7%となっており、市政だよりが広く関心を持って読まれていることが判るが、3紙いずれも住民の過半数が「読んでいる」という結果が出ている。

- ② 逆に、「ほとんど読まない」と「まったく読んだことがない」を加した数値は、市政だより16,1%、町会だより21,2%、市民センターだより21,3%で、実態を反証している。
- ③ 総じて若年層ほど「ほとんど読んでない」「まったく読んだことがない」が多く、30代の市政だよりを除いて3紙とも20代、30代の過半数以上に読まれてないことも判る。
- ④ 3紙とも属性による予想以上に大きな差があることが明らかになった。市政だよりを「読んでいる」人は女性の方が5,1%多く、「読んでない」は倍近くの10%も男性が多い。他の2紙は更に差が大きく、「読んでいる」は女性が10%前後多く、「読んでない」の方は男性が10%前後上回っている。

殆んど毎回全戸配布されている広報紙が女性に読まれ、男性に余り読まれていないという理由は何なのか…？ ※町会だよりは全戸配布と回覧板が半々程度。

- ⑤ 今回はクロス集計は行っていないが、市民センターだよりを「読んでいる」人と「読んでない」人の、属性別・年代別の認知・利用状況（設問6）を比較してみるのも意味があるのではなかろうか。

設問 6 校区市民センターの利用状況などについて

※この設問項目は、開館から7年を経過した（2001年4月25日オープン）校区市民センターに対する、当町会住民の利用度及び認知度を計るものである。

- ① 全体で最も多いのは、選挙の投票時などを除いて「ほとんど利用しない」が過半数を超えて51,5%。次いで、大きなイベントの時など「必要なときだけ利用する」の20,6%、以下「一度も行ったことがない」11,7%、「よく利用する」の7,4%、「まあまあ利用する」の4,9%、「あることを知らない」2,5%の順となっている。
- ② 「よく利用する」「まあまあ利用する」「必要な時だけ利用する」を『利用者層』とすると、その合計が32,9%であるのに対し、「ほとんど利用しない」「一度も行ったことがない」「あることを知らない」の『利用しない層』65,8%で、『利用者層』は『利用しない層』のちょうど半分という結果が出ている。
- ③ 属性による比較では、『利用者層』は女性の方が男性よりもやや上回っているが、率では大差はなく（女性35,1%、男性31,5%）、一般に言われているような「市民センターは女性の利用者が圧倒的に多い」という印象は、当町内でみる限り、男女の絶対数の相違（45対55）を反映しての相乗作用程度か…？
- ④ 年代別では、『利用者層』の率が70代以上45,7%、60代38,7%と、高齢者層が比較的高く、30代30,3%、40代25,0%、50代24,8%の順となっており、子育て年代層が50代を上回っていて、この分野における市民センターの努力と貢献度が伺える。ここでも20代の若者の利用は1割に達していない。

設問 7 校区まちづくり協議会への参加意識・認知度・関心度・帰属意識について

※この設問は、校区まちづくり協議会に対する住民の参加度、認知度、関心度、帰属意識を問うものである。

- ① まちづくり協議会の活動・行事に何らかのかたちで「参加したことがある」と答えたのは、男性14,0%、女性13,9%、合計では14,1%に過ぎず、参加意識・関心度・帰属意識共に低迷していると言わざるを得ないのではないだろうか。（男女を合計した数字が整合性に欠けるのは属性不明者が23人いるため）
- ② 「参加したことがある」の年代別をみると、20～30代は10%未満、60代・70代以上が20%前後となっているのは、まちづくり協議会などの住民組織役員の年齢構成、イベント等への参加者層と相互関連があるものと思われる。
- ③ まちづくり協議会の存在・活動を「知っている」住民は、「参加したことがある」「存在・活動を知っている」「参加するきっかけがない」の三つを合計すると、男性が50,2%、女性60,8%、両方では56,4%と、住民の過半数に認知されていることが判る。しかしながら、知りながら「参加したことがない」人が極めて多い（男性93人・72,1%、女性148人・77,1%、合計252人・75,0%）ことの原因が「きっかけがない」以外に何なのかについても解明する必要があるところである。

- ④ 一方で、行政の所管部局からは「活発なモデル的なまち協」との、高い評価を受けている組織でありながら、「存在すら知らない」と答えた住民が男性30,0%、女性21,5%、合計で24,7%も存在していることをどのようにとらえるかも検討が必要だろう。
- ⑤ 「関心がない」と答えた無関心層は、男性17,9%、女性16,5%、合わせて17,4%と、いずれも、一度でも「参加したことがある」人を上回っていることと、男女合計で第1位に「存在すら知らない」、第3位に「関心がない」がランクされていることと併せて、非常に気になるところである。
- ⑥ 「関心がない」「存在すら知らない」を合わせた、いわゆる、まちづくり協議会になんらの帰属意識も持っていない住民が、男性47,9%、女性38,0%、合計42,1%にも及んでいるという現実に対しては、組織・活動両面はもとより、住民自治の“あり様”を含めた根本問題の検討が必要な時期に来ているのではないだろうか。

それは、ひとつ当校区に限らず、行政主導による住民組織再編とマニュアル型組織対応と、イベント・動員方式中心の「まちづくり」を忠実に実行してきた〈まちづくり協議会〉のかかえる共通した問題点であり、課題であるのかもしれない。

この意識調査の結果が示す実態から、「住民が主人公の住民自治とは…」「真に自立した住民組織とは…」「住民と行政の協働のあり方とは…」を考えるための、入り口のヒントが見えてくるのではなかろうか。

設問 8・9 自由意見記入欄

○設問 8 中尾三丁目自治町会・婦人会・老人クラブに対して

○設問 9 校区市民センター・校区まちづくり協議会に対して

- ① 自由意見は、設問 8・9 合わせて B 4 用紙で 9 ページに及ぶほど多数出されている。

内容は極めて多岐にわたり、好評⇔不評 感謝⇔批判 評価⇔課題指摘 改革⇔現状維持 参画⇔お任せ 個人的⇔全体的・社会的 ミクロな問題⇔マクロな問題 現象的・局面的⇔基本的・抜本的…等々、対極的な意見や提案も少なくない。

- ② とは言え、いずれも自治町会・婦人会・老人クラブ、市民センター、まちづくり協議会それぞれにとっては、貴重な意見や今後の運営のあり方を示唆する非常に重要な内容の「てんこ盛り」になっている。
- ③ 今後できるだけ迅速且つ綿密に内容を検討して、対応について具体的に住民に返していくことが必要であろう。

※自由意見欄記載内容

- ・婦人会、老人クラブ、自治町会と別々にしなくても、自治町会一つにまとめて運営したら、高齢化の中、市政だよりを配るのも大変な地区だから、例えば委託するとか、みんなで話し合ってもう少し住みよい、気楽な安心できる町にしたらどうでしょうか。〈60代・女〉
- ・葬式に町旗はいらないのでは？ 〈60代・男〉
- ・自治町会・婦人会・老人クラブ共に、諸行事活動内容をわかりやすく知らせ、参加をうなが

- し、関心が持てるように広報活動をしてほしい。〈60代・男〉
- ・婦人会の活動に参加させていただいています。旅行が楽しいです。老人会は先で入りたいと思います。〈60代・女〉
- ・近いうちに老人会にお世話になります。〈70代～・男〉
- ・参加したい意思はあるが、どういう活動をしているかわからない。〈60代・不明〉
- ・お世話になります。〈70代～・男〉〈50代・女〉
- ・自治町会・婦人会・老人クラブの皆様方に常にお世話になっておりますので、感謝いたしております。〈70代～・女〉
- ・皆さんの活動にはいつも頭が下がります。〈70代～・男〉
- ・皆さんよくがんばっていると思います。〈60代・女〉
- ・今町内の役をしているので、当町内がとても良く組織され、活発に働いていると思います。〈60代・女〉
- ・正直、どこでどんな事が行われているのか知らないで、わかりません。〈20代・女〉
- ・婦人会の参加は1度だけしたのですが、年齢差が大きくて1人だけ離れていました。〈50代・女〉
- ・感謝しています。会員が一人でも多くなることを希望しています。〈70代～・女〉
- ・問題があればそれに取り組み、より良い環境になればと思います。〈30代・女〉〈30代・男〉
- ・空き家、高齢者住居が増加しており、より多くの対策が必要。〈60代・男〉
- ・拘束を受ける。老化が目立つ。長時間座れない。〈70代～・女〉
- ・多忙なため不参加。〈60代・女〉
- ・老人クラブの会長は、関係組織や団体との仲介も役目としていると思うが、その任に堪える適任者を選んでもらいたい。〈70代～・男〉
- ・婦人会に若い方々の活動がほしい。〈60代・女〉
- ・長い間下水道工事などしているが、工事後完全に元通りに整備されていない。市へ申し込みを。〈50代・男〉
- ・猪倉バス停横で夜若い男等がたむろし、落書きなどしている。警察に夜間パトロール強化の申し入れを。〈50代・男〉
- ・婦人会は若い方が入って（役員）、活動・交流されるよう期待しています。老人会の役員をされている方は名実共に活躍してください。〈50代・男〉
- ・組長さんのお手当ては、組の世帯数を考慮して出すようにされたら如何でしょうか。軒数の多いところは大変だと思います。〈50代・男〉
- ・自治会のことに関しては、出来るだけ協力する。老人クラブにおいては、ほどほどに協力する。〈70代～・男〉
- ・今のままで充分だと思います。〈70代～・女〉
- ・時々老人会の旅行に行っている。町内会の交流会には出来れば行きたい。体調のいいときは

続けて行きたいです。〈70代～・女〉

・猪倉バス停上（都市高横から下）側溝工事で手摺を外したまま、雪が少しでも積もると歩いて上り下りできない。何故付けないのか?! 〈50代・男〉

・自治町会・婦人会・老人クラブの各役員の皆様の活躍、本当にご苦労様です。それぞれ役員を経験した人でなければわからない長所、短所が多々あること、その身になれば充分気持ちがわかると思います。昨年1月・8月と借家の方が死亡、町内会役員、民生委員の熱心なお世話になり本当にありがとうございました。今年に入り又民生委員、幾度も訪問をしていただきました。区役所職員と親身な心使いで大事に至らず結着がつき、ホッとしています。〈60代・男〉

・火の用心で、夜回ってもらうのはありがたい。夜中（0～1時）携帯電話でずっと話している若者がいて気持ちが悪い。午後10時ごろ車から降りようとするのと近づいてきたので、遠回りして車から降りた。（10代後半～20代前半）〈60代・女〉

・いろいろな行事に参加して楽しみたいと思います。〈70代～・女〉

・老人会の活動に新会員を積極的に入れるべきだと思う。〈60代・男〉

・婦人会は会員は多いが参加する人は決まっているみたいなので、もう少し何かないだろうか。老人クラブは、行事のわりに会費が高いのではないか。〈60代・女〉

・何かと気を配ってよくやってくださっていると思います。〈70代～・女〉

・婦人会の方々、時々立ち寄り声をかけて下さり、ありがたく思っています。〈70代～・女〉

・盆踊り大会ですが、子どもが大きくなるとなかなか行く機会が減ってきます。大人でも参加できるよう、何か良い方策はないか…おばさんパワーに負けて入ってはいけません。〈50代・男〉

・中尾三丁目は坂道が多く、年々高齢化してきており、これから引っ越しや、老人ホームなどに移られる方も出てくるかもしれません。バスの増便など、この地域で暮らしやすい環境を作っていきたいですね。〈30代・女〉

・老人クラブの古紙回収はとても助かっています。今後とも続けてください。〈70代～・女〉

・高齢者が多数参加できるような行事の企画をよろしく願いしたいです。〈70代～・女〉

・高齢者や弱脚者も多数参加できる行事の企画を、送迎も含めてしてほしい。〈70代～男〉

・感謝しております。〈70代～・男〉

・高齢者が多い中で、ふれあいネットワークの活動は大変だけど素晴らしいことだと思います。〈50代・女〉

・婦人会は若い方もご活躍を。〈70代～・女〉

・もっと若い人や女性が積極的に役員等をやってもらいたい。〈60代・男〉

・道路の落ち葉などがたくさんあり、それを入れる緑のゴミ袋を定期的にいただきたい。誰に伝えてもらえばよいのか？ 冬場は特に多く、自己負担で市の袋を買い、使用しています。〈30代・女〉

・町内の街灯がずっと2ヶ月も消えたままのところがあります。夜はとても危ないと思いま

- す。〈年代・性別不明〉
- ・それなりに活躍されていると思います。〈60代・男〉
 - ・小学校の活動を通して老人会・自治会など、多数の方のお世話になっており、大変ありがたいと思っています。お年寄りの方が若い方よりも活発に動いておられるので、見習わなくては…と思います。〈30代・女〉
 - ・実際にどういう活動をされているのか知らない。〈60代・不明〉
 - ・老人クラブ、婦人会を一本に。〈60代・不明〉
 - ・特に一人暮らしのお年寄りが、もっと参加できる雰囲気作りを考えてほしいと思います。〈50代・不明〉
 - ・市の下請けのような活動は最低限にしてもらいたい。〈60代・男〉
 - ・どのような活動をしているかわからない人がたくさんいると思います。活動内容を紹介したらよくわかるのではないかと思います。〈70代～・女〉
 - ・ガードレールのついた坂道です。(120～130m) 右側が二丁目、左側が三丁目で(自分の家)だけです。タバコのポイ捨てで3～4年前に立枯れの草が燃え、通りがかりの人3人でバケツリレーで消したことがあります。長い道を掃除してもすぐに犬のフンが2、3箇所にあります。ステッカーを貼ってもいたちごっこですよ。町内で看板を建てて下さい。市の土地で年1回の草刈だけです。木も切ってほしいです。落ち葉もすごいですよ。〈70代～女〉
 - ・自治町会とまちづくり協議会の区分がわからない。〈70代～・男〉
 - ・宗教法人である神社の行事にどこまでタッチするのか、町内会としてけじめが必要ではないか。〈60代・男〉
 - ・おじいちゃん・おばあちゃんと子どもたちが一緒に参加できるイベントがあるとよいと思います。〈30代・女〉
 - ・自治会・婦人会・老人会がなくなると親睦・ご近所のお付き合いがなくなるので必要と思います。〈70代～・女〉
 - ・仕事をしているので、参加する時間もないので、いまは関心ありません。〈40代・女〉
 - ・今の状態でよいのではないか。必要な人が入って活動する。〈70代～・男〉
 - ・ほとんど関心なし。〈60代・女〉
 - ・庭で草や木など燃やす人がいる。煙がひどく窓があげられない。〈60代・女〉
 - ・道路を広くしてほしい。〈30代・男〉
 - ・地元の人たちだけの自治会のような気がする。会長や役員たちの顔も知らない。婦人会、老人クラブ等も気楽に参加できるような体制を作してほしい。〈60代・男〉
 - ・老人クラブは、たとえば公園に花を植えるとか、何かのスポーツをするとかの活動をしてはどうだろうかと思います。〈60代・女〉
 - ・回覧板の横幅を狭くできませんか？ 雨天時ポストに入り切れなくて濡れています。〈60代・男〉
 - ・良いことだと思っている。〈60代・男〉

- ・寄付は年間分をまとめて徴収するか、町会費の中に算入して、そのつど集めてまわる手間を省くようにしてはいかがでしょうか。〈50代・女〉
- ・町内会が時代の流れに即していないとよく考える。そういう中で、おそらく町会長が書かれていると思われる「向こう三軒両隣」のみが、ニーズに即した町内での現代的な取り組みなどと、常々評価している。三丁目町内会は完全な高齢社会なので町内会として取り組むことには限度があるのではないかと…そこを考え直して改善していかないと「町内会」という看板がだんだんと重荷になってくだけ終わると思う。例えば、赤十字の募金は戦後から始まり長い歴史があると思うが、あれをずっと町内会が担うべきものだろうか？ 回覧板の中に福祉協議会の購入物品案内がくるが、あれを買われていらっしゃる方はおられるのか？ 回覧板は安否確認もかねてが建前だが、現状はポスト内や玄関横に野ざらして放置されている。手渡しをされていない。それならば月1回にしてはどうか？ など、見直しを考える必要があると思う。〈50代・女〉
- ・3－1組から得明寺上に通じる縦道は全くの草茫々である。通勤に上の方が数名利用しているが、女性の方は得明寺の境内を通るようにしたい。二度ほど私が草刈りをしたがタバコの吸殻もあり、防災・防犯上も好ましくない。こういう所こそ町内会の力で改善すべきでは…本来は土地の持主がすべきこととは思いますが…。〈50代・男〉
- ・役員の皆様の熱心さがよく伝わってきます。〈50代・男〉
- ・昨年より時間がなくなり参加できなくなりましたが、先輩にいろいろ教えていただき楽しいことがたくさんありました。機会があったら又教えていただきたいと思っています。〈50代・女〉
- ・市政だよりや回覧板のまわってくるのが遅い。〈60代・女〉
- ・年に一度の敬老会で大変お世話様になり心からお礼申します。又、隣近所の皆様に大変よくして頂いて、一人暮らしでも安心の毎日を送っています。〈70代～・女〉
- ・仕事をしているので中尾での活動に参加するチャンスが今はありません。これから考えてみたいと思います。〈70代～・男〉
- ・毎年日帰り或いは一泊懇親旅行を続けてもらいたい。年1～2回の囲碁・将棋大会（町主催、有料1000円まで）を希望したい。〈70代～・男〉
- ・マンネリ化して進歩がないと思う。〈不明・女〉
- ・まちづくり協議会のアンケート結果はどうなっているのか？ できたら「向こう三軒両隣」でお伝えください。〈50代・女〉
- ・ごみのネットは、各自気が付いたら片付けるようにしたらどうでしょうか。〈60代・女〉
- ・活動状況、ニュース、メンバー、構成組織等の情報が入りにくい。活発な人はどこでも顔を出すし、出る人が、嫌いな人が必ず存在する。人前に出たくない人（私も含めて）が多くなっている気がする。こういう人をどう参加させ、好きな行事でも参加できる地域づくり、今後大事になると思う。〈60代・男〉
- ・町内会…老人が多くなって組長をやれない人が出てきているので、組長の仕事を減らして

ほしい。市政だよりなどは業者に受け合わせたらどうか。神社の件も氏子に任せてほしい。

<60代・女>

- ・組長のする仕事を少なくしてほしい。神社の物売りが多すぎる。<40代・男>
- ・組長が廻ってくるのがいやらしい。共働きをしているので組長の仕事を減らしてほしい。交通共済の集金・神社の集金はやめてほしい。<40代・女>
- ・①組長の最低の職務は何と何かを考える時に来ている。②役員の選考をどうして行くか。③町内会の最低限度の仕事はどの範囲まで必要か。④高齢化社会にどう対処するか。①に関係する組長をできる世帯が減っている。⑤余裕のある行動で楽しく過す。<70代～・男>
- ・婦人会や老人クラブに入会する年齢制限を知らないなので、センターだより等で広報してください。<60代・男>
- ・地域のためにどういう活動をしているのか、もっと住民にPRするとよいと思う。<60代・女>
- ・犬を飼うのは自由ですけど、常識のある飼い方を一番にお願いしたいと思います。<70代～・女>
- ・イベントの参加に心がけます。<70代～・男>
- ・町会・婦人会・老人会などがあることによって地域の活動ができていますので、大切にしていかなければならないことだと思います。

お年寄りががんばっているのだから、若い者もこれからがんばるべき！！<30代・女>

- ・ご苦労様です。<50代・男>
- ・たいへん献身的にお世話いただいているので、感謝しています。<70代～・女>
- ・幅広い意見や提案を取り入れること。<70代～・男>
- ・現状のままで充分だと思います。<70代～・女>
- ・基本的には、関心のある人々が自主的に参加して運営していくのが良い。積極参加、推進する人々と要請されれば参加する程度の人々とのミックス型になるのではと思う。事務局があまり振りかぶらずに、地味に活動する程度が結局は長続きするのでは…。<70代～男>
- ・皆様方がいろいろは活動をされているので感謝しています。<70代～・女>
- ・いろいろされていると思いますが、病人をかかえていてなかなか思うように行けない。<70代～・女>
- ・現在忙しくて、どういう活動などをしているのかさえ知りません。<40代・女>
- ・七条・荒生田方面への（循環バス等）交通アクセスの充実を早急に取り組んでいただきたい。

<30代・男>

- ・市民センターに行く人は役員さんやイベント・行事に携わっている人、又、クラブで利用している人以外の人とは特別出かけていないのでは？また、行こうと思っても身体的に行くことができない人、また、何も参加していなくても気軽に茶飲み話でも出来る場所にしてほしい。<60代・女>

- ・西鉄や南興タクシーと話し合い、坂道の家の前まで車が来るような方法はないでしょうか。

<60代・女>

- ・まちづくりの方も、町内全体を見て、「こんな町・あんな町に住みたいと思うような環境を作るようにしたら（将来の夢かもしれませんが）どうでしょうか。<60代・女>
- ・市民センターで行われるクラブ活動、講演会等、広報活動を活発にしてほしい。（何を教えているのか、自分も利用できるのかがわからない）<60代・男>
- ・古紙回収のときだけでなく、他の行事の時もマイクによる呼びかけが必要ではないか。<60代・男>
- ・センターをよく利用させていただいております。皆様と声かけをさせていただき、気持ちよく挨拶出来てうれしいです。いろんなことを学び、吸収し、自分のため、地域のために少しでも活動に参加して行きたいと思います。<60代・女>
- ・坂道があるので、少しでも道を広げて歩きやすくしてほしい。<70代～・男>
- ・こちらから積極的に参加しなくてはいけないと思うが、なかなかふんぎりがつかない。呼びかけをお願いしたい。<60代・不明>
- ・中尾1号線道路両脇の竹林に大小ごみの不法投棄が再三されている。市環境局、警察、土地所有者等の関係者と合同協議して改善できないだろうか。<70代～・男>
- ・大変お世話になっております。今後ともよろしくお願い申し上げます。<70代～・女>
- ・いつも大変お世話になっています。これからも益々のご発展をお祈りします。<70代～・男>
- ・とても地区の人たちの活動の拠点として、よい活動をしていると感謝しています。<60代・女>
- ・とても感謝しています。<60代・女><70代～・男>
- ・行事が多すぎると思います。<40代・女>
- ・どこでどんな事が行われているのか知らないので、わかりません。<20代・女>
- ・懸命にお骨折りいただいていることに感謝し此の地に住む幸せを感じています。<70代～・女>
- ・問題があればそれに取り組み、より良い環境になればと思います。<30代・女>
- ・社会福祉協議会は従来と違うきめ細かい対応を必要とするのでは…。<60代・男>
- ・活発に活動してください。<70代～・男>
- ・先月引っ越してきたので、まだよくわかりません。それから、少しだけ町内を散歩してみたのですが、目印になるものが少ないので、詳しい地図があるといいなあと思いました。<30代・女>
- ・最近引っ越してきたため、よく解りませんでした。<40代・男>
- ・市のやり方は不公平です。荒生田の市長さん宅周辺だけずば抜けてきれいにして、私たちの町はいつも後回しで、お金がないと言います。<70代～・女>
- ・何かといろいろの行事があるとのことですが、少し多いとの声を耳にしました。家庭を一番、自分の出来る範囲で協力します。<60代・女>

- ・自分で出来るぐらいの範囲で協力する。〈70代～・男〉
- ・高槻は昔から高槻村と言われ、環境・土地・人情が優れていて住みよい所。(中畑・山路・大平・中尾1、2、3) 他のセンターに負けないと思います。まちづくり協議会、委員各自まとまって活躍していること、生涯学習を学んだ私にとってもうれしく思います。力強く、一丸とまとめて進んでいます。今後の発展をお祈りいたします。〈60代・男〉
- ・バス便の増発がどうかならないものか。〈60代・女〉
- ・階段から階段の間に渡れるようにして頂けたらいいと思います。〈70代～・男〉
- ・関心を高めたい。〈70代～・女〉
- ・まちづくり協議会の行事と自治会の行事、取り組みを考えると自治会の役員がいなくなるのではないのでしょうか。出ごとが多いと思いますがいかが…。〈60代・男〉
- ・市民センターもまちづくりも、もっと若い人が集まるようになったら良いなと思う。〈60代・女〉
- ・あまり行っておらず、よくわかりません。〈70代～・男〉〈70代～・女〉
- ・川の草刈りをこまめにしてほしい。〈40代・女〉
- ・まだ仕事をしているので、いろんな行事に参加は出来ませんが、辞めたら参加したいと思っています。〈30代・女〉
- ・日夜のご活躍感謝しております。高齢者対策よろしく願います。〈70代～・男〉
- ・バス便の増発をぜひ検討していただきたいです。〈50代・女〉
- ・急な坂で大雨のときの対策が必要なところと、道路幅を広くしてほしいところがあります。〈60代・男〉
- ・まちづくり協議会は同じような年代の人の仲良しクラブのようにになっているが、もっと、若者・壮年・高齢者・男女がバランスよく役員会を構成して、民主的に運営すべきではないか。〈60代・男〉
- ・「がんばっちょる」と思います。〈60代・男〉
- ・まちづくり協議会の役員は町会・区会の役員にならないように。そうしないと町会役員になり手がない。〈60代・男〉
- ・仕事をしているとなかなか利用することができない。活発に活動されていることはわかっています。〈40代・女〉
- ・クラブの活動内容がよくわからない。〈60代・不明〉
- ・実際にどういう活動をされているのか知らない。地域にどうかかわっているのか。〈60代・不明〉
- ・駐車場が狭いので広くしてほしい。行事が多が活動の証し。〈60代・不明〉
- ・まちづくり協議会と区会の関係が不明確。どこが違い、どちらがうえなのか？ 〈60代・男〉
- ・市民センターの活動は「たかつきだより」によってよくわかります。このような多くの催しで職員の方、関係者の方、大変ありがとうございます。まちづくり協議会の活動内容を多くの方がわかりますようご紹介してください。関係者の皆様、いつもお世話様になりまして誠

に有難うございます。〈70代～・女〉

- ・日頃からお世話になりありがとうございます。バザーや地域祭りなど親子でとても楽しみにしています。他の地域の友人も“すごいねえ・・・”と感心していました。これからも出来るだけ参加したいと思います。〈30代・女〉
- ・イベント中心のまちづくりでいいのでしょうか。もっと地域の課題にじっくり取り組んでもらいたい。〈60代・男〉
- ・側溝、道路等、補修が必要な所、早く対処してほしい。〈20代・女〉
- ・里山の活動は地域の特長を活かしたすばらしい取り組みだと思います。〈60代・男〉
- ・一部の人たちだけの運営でなくて、参加したくてもできない人等への具体的な呼びかけをしてほしい。〈50代・男〉
- ・まちづくり協議会は地域のどのような団体や人でも入れるのでしょうか。入れないなら一部の人の団体の団体ですか。〈60代・女〉
- ・センターはいろいろなイベントがあるので子どもも喜んで参加しているのでよいと思います。〈30代・男〉
- ・センターでフリーマーケットなどがあると良いと思います。〈30代・女〉
- ・もっといろいろ知らせてほしい。〈60代・男〉
- ・市民センターには、行ってみたいと思う行事もありますが、老人になり過ぎて、思うだけで終わっています。〈70代～・女〉
- ・古紙回収等、いつもありがとうございます。〈70代～・男〉
- ・共によくやって戴いていると思う。このまま続けてほしい。〈70代～・男〉
- ・バス増便のアンケートをとったが、その後どうなっているのか何も知らされない。まちづくり協議会は市役所や西鉄に本気で交渉する気があるのか疑問です。お祭りには熱心なようですが…。〈40代・男〉
- ・子育て支援とかは良いことだと思う。利用する人は同じ人で利用の目的が違うのでは？〈不明・女〉
- ・バス問題等のアンケート結果はどうなっているのですか？〈50代・女〉
- ・入りやすいセンターです。〈50代・女〉
- ・一生懸命活動されていると思う。よくわからないのは自分が積極的でなく、悪いのだろうと思っている。何もしないでいるのはやはり自分のPRなく、情報も入らないということは、人も近寄らなくなるのでは、そういう人が最近増加しているのでは…。〈60代・男〉
- ・市民センターは地域の人が趣味を楽しむのはいいが、行事が多すぎる。まちづくりは各町内の困ったことを市に全町内で請願してほしい。〈60代・女〉
- ・センターの行事が多すぎる。〈40代・男〉
- ・たずさわりたい人で行動すれば良いと思う。無理に町内会から引き出す必要はない。町会をどう運営していくべきかの転換期に来ている。今、皆の知恵を集合して改革された町内、市民センターにしていけばよい。〈70代～・男〉

- ・センターは必要ない。〈40代・女〉
- ・市民センターが地域住民の幅広い利用者を作るため、常連利用者を通じて各種行事をPRしてほしい。〈60代・男〉
- ・中畑の交差点（五叉路）の信号設置を運動してほしい。〈60代・女〉
- ・一部の人だけでなく、皆が気楽に利用できるような市民センターにしてほしい。〈60代・女〉
- ・市民センターの職員の方達が皆気持ちの良い人々なのでとても利用しやすい。〈50代・女〉
- ・今度の館長さんは市民センターの役目を良く理解していてとてもよいです。ずっと高槻にいてください。〈60代・女〉
- ・古紙回収、大変ありがたく思っています。ゴミ袋の配布も助かります。〈40代・女〉
- ・センターで老人向きの針仕事があればと思います。〈70代～・女〉
- ・市民センターには今はまだ子どもに関することでしか利用しないけれど、とても大切な場所。センターがあるから町の人達は元気です。〈30代・女〉
- ・高校の時市民センターをよく利用させていただき、ありがとうございました。遅くまで開館しているので勉強するのに助かりました。〈20代・女〉
- ・夜、市民センターで勉強させてもらったことが大学進学に役立ち、有難く思っている。〈20代・男〉
- ・よく活動されていると思います。〈70代～・女〉
- ・一部役員だけの利用施設ではなく、多数の住民の利用に努力すること。〈70代～・男〉
- ・事務局があまり振りかぶらずに、喜んで自主的に参加・運営する程度にするのが望ましいと考える。〈70代～・男〉
- ・皆様方がいろんな活動をされているので感謝しています。〈70代～・女〉
- ・町内全員が参加できる運動会（スポーツ大会）等検討してください。〈50代・女〉
- ・自治体（行政）に協力することはよいが、下部組織ではない。〈70代～・男〉 ※この意見は設問3の末尾に記入されていた。

6 事後対応と、その後の「途中経過」

1 プロジェクトチーム設置

中尾三丁目自治町会では、意識調査で得られた結果と、その分析に基づいて、住民の意見や要望・提言をどのように生かして、町会運営の具体的な改善・改革を進めるかを検討するプロジェクトチームを設置して、調査後の事後対策に臨んだ。

(1) プロジェクトチームの編成

中尾三丁目自治町会会長

中尾三丁目自治町会副会長

中尾三丁目自治町会会計監査

中尾三丁目自治町会相談役（プロジェクト代表）

中尾三丁目婦人会会長

中尾三丁目老人クラブ会長

中尾三丁目老人クラブ会長

中尾三丁目自治町会歴代役員代表

(2) 会議開催経過

第1回 9月17日（水） 8人中8人出席

第2回 11月21日（金） 8人中8人出席

第3回 12月15日（月） 8人中8人出席

(3) 議題及び審議内容

※省略

(4) 答申内容決定の方法

多数決 全員一致 その他の方法

2 「答申」と町会の対応

プロジェクトチームは全員一致でまとめた「答申書」を作成し、2008年12月自治町会に提出。自治町会は拡大役員会に諮って答申を全面的に承認し、直ちに関係方面への手続きと全住民への経過報告に着手した。答申内容の骨子は次の通り。

(1) 答申の骨子

1. 各種募金、寄付金、掛け金等の取り扱い業務のうち、改廃を検討する必要があるもの
 - (1) 取り扱い中止の方向で検討を要するもの
 - ① 共同募金
 - ② 神社奉賛金
 - ③ " 大麻・暦等販売
 - ④ " 施設維持や上級神社への奉納金寄付
 - (2) 部分的に取り扱い方法変更（中止）の方向で検討を要するもの
 - ① 交通共済（掛け金の集金中止・納付方法変更）
2. 前項以外で、主として組長業務の軽減を目的に取り扱い改廃の検討が必要なもの
 - (1) 福祉関係物品販売の資料配布引き受けを中止する方向で関係団体・機関との手続きを進めること。
 - (2) 募金・寄付金等の集金方法は従来通りとするが、各組において構成員全員一致で、他の徴収方法をとることは容認する。
3. その他「具体的対応が必要なもの」を含む、諸事項への対応
 - (1) 行事や活動のあり様に関するもの
 - (2) 組織や活動の内容に関するもの
 - (3) 広報・情報活動に関するもの
 - (4) 婦人会・老人クラブの活動に関するもの
 - (5) 身近な住環境問題に関するもの
4. 調査で出された「意見」等に対するコメントについて
※省略

5. 関係機関・団体に関する事項の取り扱い

(1) 調査項目の「設問6・校区市民センター」に関する事項

町会として、校区市民センターに対し、資料を添付して正式に文書で「お知らせ」する。

(2) 調査項目の「設問7・校区まちづくり協議会」に関する事項

町会として、校区まちづくり協議会に対し、資料を添付して正式に文書で「お知らせ」する。

6. 町民への周知

できるだけ、迅速・的確に全会員への周知徹底をはかる。

(2) 答申理由の説明

1. 具体的な対応が必要なもの

○ 行事や活動のあり様に関するもの

この項は多岐にわたる意見・問題提起・指摘が出されていますが、特に、町会活動の合理化、高齢化に伴う組長業務の軽減化、関係機関・団体との関係のあり様と業務の適正化など、具体的な対応を望む声も少なくありませんでした。慎重に協議の結果、第一段階として当自治町会レベルで次のように整理し、対処していくこととしました。

1) 各種募金・寄付金・掛け金等の取り扱い業務について

(1) 現在町会として取り扱っているもの

①合同盆踊り大会 ②日本赤十字 ③交通共済 ④まつり起業祭 ⑤共同募金

⑥歳末助け合い募金

神社関係のものとして ⑦玉替え券頒布 ⑧夏越祭人型人形 ⑨神社大麻・暦販売⑩奉賛金 ⑪施設維持や上級神社への奉納金寄付（不定期）

の、10～11種類です。

(2) このうち、当町会として

①当然、継続して取り扱っていく必要のあるもの。

②意見は分かれているが、当面継続して取り扱わざるを得ないもの。

③住民自治組織の業務として取り扱うことに疑義や問題があると判断せざるを得ないものに分け、③については、取り扱い中止の前段手続きとして、関係先に対して文書で検討・善処方を申し入れることにします。

(3) 前項の③に該当するもの

ア. 交通共済掛け金…本来事業主体自身による全面的な事務執行が本筋と思われますが住民の多数が加入しているという現実や公共性を考慮して、町会として事務の一部は取り扱うが集金・納付事務は、納金方法の変更等により事業者の方で行うよう申し入れ、町会業務から切り離す方向で話し合います。

イ. 共同募金…長い歴史を持った募金であり、社会の各所（職域・公共施設・官公署・民間団体・街頭等）で広汎に実施されており、重ねて居住地での取り組みが必要不可欠なのか？検討の時期に来ていると思われますので町会業務から除外する方向で提案します。

ウ. 神社関係について…基本的には、多様な思想・信条の住民が寄り集まって組織されている住民自治組織においては、政治的・宗教的な中立と各人の自由が保障されなければなりません。もとより、現在行われている神社関係の寄付等においても、基本的原則を尊重することを前提に住民其々の判断によって、その対応の自由が保障されていることは周知の通りです。

しかしながら、古来からの日本社会における「氏神さま」と「地域集落」の関係において、宗教色とは異なる生活文化や暮らしのしきたりの中に「神社・鎮守の森・お祭り」との深いつながりの存在することを十分に理解しながらも、住民自治組織である町会として組織的に対応するに当たっては、宗教・宗派間の平等性、宗教法人固有の活動領域にまで踏み込むことの是非等をふくめて、住民全体のコンセンサスを得るという民主性が忘れられてはなりません。

以上のことを考慮した上で、本町会としては、次の寄付金・募金等については、宗教法人・乳山神社の組織内で処理していただくよう、検討をお願いすることにしました。

- 神社大麻・暦等販売
- 奉賛金
- 施設維持や上級神社への奉納金寄付

2) 福祉関係物品販売の資料配布

その、絶対的必要性を疑問視する意見で一致しましたので、取り扱いを中止したい旨を高槻自治区会を通じて申し入れます。

なお、中止理由の中には、数多い福祉関係団体の中で特定団体だけを取り扱うことへの疑問や、高齢組長から取り扱い上の困難性が指摘されていることも含意しての決断です。

3) 募金・寄付金等を町会費の中に一律加算して徴収し、組長業務の簡素化を図っては…という提案について

募金・寄付金等が例外なく任意によって行われているため、一括徴収することによって、全会員が無条件に（強制的に）拠出せざるを得ないことになる事態は好ましくありません。

従って、町会としては従来通りの方法でお願いしたいと思います。ただし、組常会等で構成会員全員一致で「組」として行う場合はその限りではありません。「組」の意思決定を尊重させていただきます。

○ 組織や活動の内容に関するもの

- 1) 回覧板が有効に機能するように改善を求める意見がありました。どこをどのように改善できるかを含めて検討を進めていきます。
- 2) 町会・婦人会・老人クラブの行事・イベントの充実を求める積極的な意見に、具体的にどのように応えていくか行事の内容を引き続き検証していきます。

○ 広報・情報活動に関するもの

- 1) 町会だより「向こう三軒両隣」や「センターだより」で、できるだけきめ細かに情報伝達につとめているところですが、まだまだ、不十分・知らない・わからないといった指摘もあります。今後とも充実につとめてまいります。お知らせはできるだけ家族の方全員が読まれるようにご協力をお願いします。

○ 婦人会・老人クラブ活動に関するもの

- 1) 老人クラブ・婦人会の会員になる場合の年齢制限に対する質問がありました。
老人クラブ…60歳以上ならどなたでも
婦人会………特に年齢制限はありません
- 2) 老人クラブは公園に花を植える等、積極的な活動を訴える意見もありました。早速そのような取り組みを計画中です。

○ 身近な住環境問題等に関するもの

1) 下水道工事関係

調査時が下水道の換管工事と重なったこともあって、工事に対する注文・苦情・不便の訴え・修復への心配などの指摘が複数出されていきました。工事も概ね終了して、住環境の整備は着実に前進していると思いますが、なお、問題のある箇所等にお気付きの方はご連絡ください。

2) 不法投棄や犬の糞に対する対策

2箇所看板を増設しました。しかしながら、それだけではこの問題はなかなか解決しません。町会としても、引き続きマナー・モラルの向上を重要課題として取り組んでいきます。

3) ボランティア袋について

公共の道路や公園等を清掃される場合は無料のボランティア袋を用意してあります。役員までご連絡ください。

4) 防災・防犯対策等

関係機関（警察・消防・区役所等）とも連絡を取りながら取り組んでいます。具体的に指摘のあった所については再確認していきます。

5) バス便の確保、荒生田バス停の待合所設置等について

校区まちづくり協議会に問題提起して、校区全体の課題として取り組んでいます。荒生田バス停問題については一定の見通しもついて早期着工を陳情するなどの経過を「向こう三軒両隣」でもお知らせした通りですが、署名運動など今後とも皆様のご協力をお願いします。

6) 猪倉バス停上の手摺りの設置

設置が完了しています。

2. 意見等に対するコメント・紹介のみのもの

※省略

3 取り組みに対する自治町会の基本的なスタンス

- ❶ 高齢社会の進行が著しい現在、力を入れて取り組まなければならない新たな課題〔例えば、「ふれあいネットワーク」活動等〕の増加や、市民センターを中心とするまちづくり活動など、町会業務が以前に比べて過重化・複雑化するなかで、可能な限り役員、特に組長(自治委員)業務の軽減・簡素化を図る必要に迫られている。
- ❷ 現在町会が取り扱っている寄付・募金・集金業務だけでも10～11種類に及んでいるが、思想信条や生活実態の違いを超えて組織されている『住民自治組織』の今日的意義や役割及び活動の「あり様」に照らして、その業務の範囲はどこまでなのか。どこまでやるのが正しいのかを話し合い、判断する。
- ❸ この機会に、関係機関・団体に対して率直に問題提起し、時代の変化に即した自治町会運営の改革・改善の実現をめざす。

4 関係機関・団体への働きかけ（現在の到達点）

住民意識調査に始まった、一つの町の「小さな試み」は、今後どのような展開を見せるのかは分からないが、住民自らによる関係機関・組織への働きかけを通じて改革・改善を目指す第一歩が印されたことの意味は小さくないであろう。現時点では、要請等を行った先からの正式な回答はまだ届いていないが、この試みを通じて今後の「住民自治のあり様」をめぐる論議に素材提供できればと考えている。

◇校区市民センターに説明、理解と協力を要請 〈2009年1月〉

◇校区まちづくり協議会に説明、理解と協力を要請 〈2009年1月〉

◇当該自治区会会長に説明、理解と協力を要請 〈2009年1月〉

◇自治区会長から八幡東区長に対して、「集金業務の改廃について」の要望書提出

〈2009年2月〉

◇自治区会長から北九州市民共済生活協同組合理事長宛に「集金業務の変更について」の要望書提出 〈2009年2月〉

◇自治区会長（神社責任総代）から神社宮司宛に「集金業務の改廃について」の要望書提出 〈2009年2月〉

7 結びにかえて

住民意識調査の結果、自治町会や婦人会、老人クラブのみでなく、まちづくり協議会や市民センターに対する住民のニーズは、きわめて多様化していることが明らかになった。

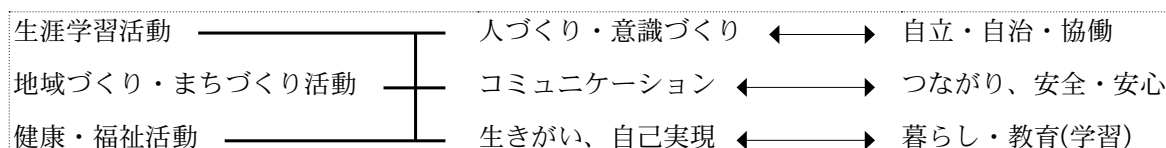
また、自治町会への認知度や帰属意識が年代や属性による多少の相違はあるにせよ、比較的高いのに対して、校区レベルの新しい組織『まちづくり協議会』については「存在すら知らない」と「関心がない」と答えた、何らの帰属意識も期待感も持っていない住民が42.1%にのぼることも判明した。

この結果が示す実態から、「住民が主人公の住民自治とは…」「住民の自立とは…」「住民と行政の協働のあり方とは…」など、住民自治の基本にかかる問題が問い直されているように感じるのだが、最後に「市民センター」と「まちづくり協議会」に関する私見を述べて結びに代えることにしたい。

1 市民センターの機能と役割

公民館⇒市民福祉センター⇒市民センターと変遷してきたなかで、現在の市民センターには、地域住民の自立したまちづくり活動の拠点という名目上の目的と、実際には行政施策実施の場という現実の実態とが交錯していると言えよう。

少子高齢化やコミュニティ崩壊の危機がいわれるなかで、地域の人たちが「人間らしく生きる」ために必要な課題は山積している。環境美化、防災・防犯、子育て支援、青少年の健全育成、健康づくりなど、取り組むテーマは尽きないが、これらを解決するためにも、公民館・市民福祉センター・市民センターと施設の名称が変わっても、そのいずれをも貫く基本的使命は次の三つであることに変わりはないはずである。



地域そのものや、そこに住む住民のアイデンティティの確立は自然発生的ではない。三つがお互いに関係し合ったり、重なり合ったり補完し合いながら、住民一人一人が人間的な豊かさを追求でき、自己と他者との関係において「幸せな」生活を送る条件を創り出しながらコミュニティとしての要件「つながりのある関係」を醸成していく営み——その活動を保障し、条件整備し、拠点としての役割を果たしていくのが市民センターであると思う。

2 まちづくり協議会は「ツリー型」から「クラスター型」に移行を

住民意識調査の結果からも言えることは、現在の、既存住民組織を寄せ集め、再編した「ツリー型」組織では、どうしても突破し得ない限界があるのではないだろうか。

●クラスター型（ぶどうの房のような）ネットワークの中で「協議体」の活性化を図ると同時に

参加しているそれぞれの単位組織も独自性を発揮し、自由で闊達な活動を展開できるように保障する。多様な単位組織の活性化が「協議体」を充実させ、それがまた単位組織の活動を刺激し、支援するといった互酬的循環を生み出すことをめざすための改善策として提起したい。

- 現在の市のマニュアルは、上意下達のツリー型で、しかもそのツリーにぶら下がるのは実質的には「地域団体」と「官製団体」などに制限されている（学習集団や多様な市民団体は対象外）。

ひどい場合は、社会福祉協議会まで潰して自治区会・町内会の焼き直しというところもあり、それが住民意識調査に現れた「まちづくり協議会」への帰属意識の予測を超えた低さの大きな要因とも思われる。

- 当面の改善方法としては

(1) 過渡的な措置として、ツリーにぶら下がる対象を拡げるための具体策。

1. 団体・機関

(1) 地域団体（地縁団体）

自治会・町内会・婦人会・老人クラブ・子ども会 等

(2) 関係機関

学校・消防・警察・福祉施設 等

(3) 官製団体

社会福祉協議会・食生活改善推進協議会・青少年健全育成協議会・民生委員・児童委員協議会・健康づくり推進委員の会・男女共同参画推進委員の会・公園愛護会・河川愛護会 等

(4) 支援団体

学習集団・ボランティアサークル・各種テーマコミュニティ・PTA・NPO・各種市民団体 等

(5) その他の団体（校区の特性によっては次のような団体を「まち協」の構成員に加えることが必要）

農業協同組合〈例、両谷校区・上津役校区・島郷校区等〉・漁業協同組合〈例、新門司校区・若松・小倉北の一部〉・生活協同組合・商店組合〈例、中央町・魚町・祇園町・黒崎等〉・学園自治会〈例、北方・平野・折尾〉・団地自治会〈例、徳力等〉など

2. 個人

(1) 全ての住民（個人）に参加の自由と権利を

(2) 学識経験者

(2) クラスター組織への移行

・学習会、話し合いを繰り返し、十分な合意形成を得たうえで…。

- 八幡東区E・K校区まちづくり協議会の組織構成 〈事例紹介〉

自治区会、婦人会、年長者クラブ連合会、民生委員・児童委員協議会、中学校父母教師会、小学校父母教師会、幼稚園父母教師会、駅前商店組合、クラブ連絡協議会、消防分団、年長者憩いの家運営委員会、公園愛護会連合会、食生活改善推進協議会、警察交番所、A少年補導委員、B少年補導委員、健康づくり推進員、まちづくり推進委員の会、「つぼみ」、「すみれ会」、ひまわり文庫図書ボランティア、子育てサポーター、市民センター

以上、23団体・機関・個人が対等・平等の立場で参画

●改善を拒む要因

- ①まちづくり・地域づくりの理念が狭隘（狭くて、かたくな）
- ②行政の思惑…影響力の及ぶ範囲に止めたい。
- ③地域総括補助金との関係（各単位組織の既得権益と再配分段階での矛盾を心配）

3 「豆腐型」から「納豆型」のまちづくりへ…個性とつながりを重視

●単位はどちらも「大豆」だが

- ・個を尊重し、その上に「つながり」を創る
- ・共同体 ⇒ 協同体 ⇒ 協働体 ⇒ 響動体
- ・人と人の関係を豊かにし、人と自然の関係を取り戻し、人と社会の関係を健康にする

4 住民の英知と成熟を育むまちづくりを担う「中核的住民組織」とは…

- (1) 「同化」なのか？…市総務市民局地域振興課（当時）が、平成15・16年度の市民センター館長研修で配布した資料で礼賛推奨。

※（本題からそれるが）…戦後初期、公民館などを中心に全国で進められた「地域おこし」「まちづくり」の命題の一つは「『同化』からの開放」であった。

- (2) 「ネットワーク」なのか？

- (3) 新たな「創造」なのか？

- ①課題で協働する「ゆるやかなネットワーク」の形成から…ここからスタートしないと行政主導になったり、地域ボス支配型になる危険性。

- ②地域ビジョンを持った「まちづくり計画」…学習と実践の反復で、住民組織自らが成長していく過程で、自主的に地域課題解決にむけた取り組みの中で、人・自然・文化・伝統・風土・企業・諸施設機能などを戦略的に活用した「まちづくり計画」を持つような力を養う視点を堅持する。

- ③政策決定・遂行機能を持った「包括的地域経営主体」の創出（それが「まちづくり協議会」という名称であってもよい）

○地域団体と官製団体、志縁団体等（クラスターの一粒・ひと粒）がそれぞれバラバラに存在したままでは、「地域力」の創出は困難。そこで目標や課題にむかって協働するネットワークの形成が必要に。

○地域の様々な課題に包括的、戦略的に対応し、地域経営の中核となる自立的な地域コミュニティ「包括的地域経営主体」の存立が理想的。

- ④「包括的地域経営主体」に必要な力量・能力

- ・組織指導能力
- ・政策立案能力
- ・実践行動能力
- ・行政・関係機関等との協働能力

- ・財政力
- ・広報力
- ・事務・実務能力

5 学びを基底に「まちづくりは人づくり」をコーディネートする市民センターの使命

(1) 生涯学習事業とのかかわりで

- ①生涯学習事業は、学習活動を通じて地域社会の形成者を育てる事業の一つであり、自らの地域を自らの力で創るという意識形成に寄与する。
- ②ふれあい活動を通じて築かれた助け合いのきずな、日常的に地域でつながり合うことによって地域コミュニティが人々の命や暮らしを支えてきた。
- ③地域の中での人と人とのつながりが、地域内で人・モノ・情報のネットワークを広め、ひいては地域の活力を高めることになり、それが地域においていくつもの「公共」を創り出す原動力となる。

(2) 地域コミュニティの創造的再生

- ①地域住民間に顔の見える関係の構築。
- ②自らの役割の自覚と支え合う雰囲気づくり。
- ③日常的な事業を通じてのコミュニケーションづくり。
- ④（例えば）避難訓練を含む防災に関する学習への取り組み。

(3) 市民センターのこうした取り組みが・・・

- ①より創造的な文化を地域に創出し、
- ②住民が「地縁」により結ばれるとともに、活動を通じた「知縁」「志縁」により、さらに強く、重層的に「つながり」合う。
- ③地域の機関や団体間の協働を強固なものにする。

町内会活動等に対するアンケートにご協力ください

中尾三丁目自治町会

中尾三丁目自治町会では、地域の自治活動を今まで以上に活性化して皆様のお役に立てるようにするために、お一人お一人のご意見や希望をアンケート方式により調査させていただくことにしました。今後の町内会運営に生かしていきたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。

◆答えていただくのは、1世帯1人ではなく成人の方全員です。例えば20歳以上の方が3人居られるご家庭では、各人それぞれが記入した3枚を提出して下さい。

◆組長さんを通じて2月15日（金）までにご提出下さい。

◆無記名で結構です。 ※ 右のページもありますので記入して下さい

1 あなたご自身についておたずねします。〈該当するものに○をつけてください〉

(1) ①男性 ②女性

(2) ①20代 ②30代 ③40代 ④50代 ⑤60代 ⑦70歳以上

2 あなたは、中尾三丁目に町内会（自治町会）や婦人会・老人クラブがあることをご存知ですか。

〈1つだけ選んで○をつけて下さい〉

回答欄	1 知っている	4 関心がない
	2 知っているものもある	5 その他（ ）
	3 知らない	

3 あなたは、自治町会の活動で何が重要だと思いますか。何に力を入れるべきだと思いますか。

〈いくつ○をつけても結構です〉

回答欄	1 道路やごみ問題など、日常の住民生活に密着した課題。
	2 少子高齢社会が抱える諸問題（例えば、子育て支援とか高齢者対策など）。
	3 住民同士が仲良くなり、連帯を強めるために親睦行事に力を入れる。
	4 地域や中尾三丁目独自の課題に取り組む。
	5 行政や関係機関との連携を密にし、協働事業の推進、情報の伝達等に力を入れる。
	6 町内会は会費の徴収、回覧板などの仕事をしていればよいので、それ以上は必要ない。
	7 その他（ ）

4 あなたは、中尾三丁目の当面の課題は何だと思いますか。〈いくつ〇をつけても結構です〉

回答欄	1 高齢化が進み、高齢者が多くなっているので、きめ細かな支援のためのシステムづくり。
	2 次代を担う子どもの問題。少子化社会での子育て支援等。
	3 急な坂道が多いので対策が必要。
	4 下水や道路・手すり設置など、住環境の改善。
	5 違法駐車・犬のふん・ポイ捨てなど、マナーやモラルの問題。
	6 住民同士の連帯意識の回復。支えあい、助け合う近隣関係。
	7 バス便の増発など、公共交通手段の充実。
	8 河川の浄化、自然保護、地球温暖化防止の啓蒙などの環境問題。
	9 町内会・婦人会・老人クラブ活動の活発化。
	10 その他（ ）

5 広報活動についておたずねします。〈それぞれ1つだけ選んでそれぞれの欄に〇をつけて下さい〉

回答欄	この欄に〇をつけるのではありません（右の3つの欄それぞれに）	市政だより	センターだより （たかつきだより）	町内会だより （向こう三軒両隣）
	1 毎回よく読んでいる			
	2 関心のある記事は読んでいる			
	3 読んだり読まなかったりする			
	4 ほとんど読まない			
	5 まったく読んだことがない			
	6 その他			

6 あなたは、「高槻市民センター」を利用していますか。〈1つだけ選んで〇をつけて下さい〉

回答欄	1 よく利用する。（毎週1回以上位）
	2 まあ、まあ利用する。（月に1回程度）
	3 必要なときだけ利用する。（大きなイベントや関心のある講演会等のときだけ）
	4 ほとんど利用しない。（選挙の投票に行く程度）
	5 一度も行ったことがない。
	6 市民センターがあることを知らない。

7 「高槻まちづくり協議会」についておたずねします。〈1つだけ選んで〇をつけて下さい〉

回答欄	1 まちづくり協議会の行事に参加したことがある。
	2 まちづくり協議会の存在や活動は知っている。
	3 まちづくり協議会に関心はあるが、参加するきっかけがない。
	4 まちづくり協議会に関心がない。
	5 まちづくり協議会の存在を知らなかった。

- 8 中尾三丁目自治町会や婦人会・老人クラブに対する、あなたのご意見・ご希望等をお聞かせ下さい。

- 9 「市民センター」や「まちづくり協議会」に対する、あなたのご意見・ご希望をお聞かせ下さい。

※ 左のページも記入して下さい

ご協力ありがとうございました

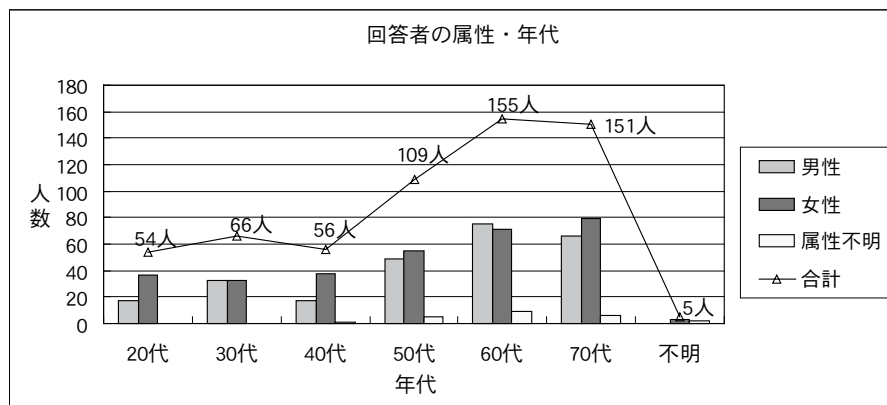
中尾三丁目自治町会 住民意識調査（アンケート集計）〈概要表〉

平成20年3月 中尾三丁目自治町会

設問1 回答者の属性・年代

	男		女		属性不明		合計		
	人数	男／％	人数	女／％	人数	不明／％	人数	男女／％	
20代	17	6.6	37	11.7			54	9.1	6 位
30代	33	12.8	33	10.5			66	11.1	4 位
40代	17	6.6	38	12.0	1	4.4	56	9.4	5 位
50代	49	19.1	55	17.4	5	21.7	109	18.3	3 位
60代	75	29.2	71	22.5	9	39.1	155	26.0	1 位
70代以上	66	25.7	79	25.0	6	26.1	151	25.3	2 位
年代不明		0.0	3	0.9	2	8.7	5	0.8	7 位
合計	257	100.0	316	100.0	23	100.0	596	100.0	

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	合計	
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	
	％	％	％	％	％	％	％	％	
男性	17	33	17	49	75	66	0	257	2 位
	31.5	50.0	30.4	45.0	48.4	43.7		43.1	
女性	37	33	38	55	71	79	3	316	1 位
	68.5	50.0	67.9	50.5	45.8	52.3	60.0	53.0	
属性不明			1	5	9	6	2	23	3 位
			1.8	4.6	5.8	4.0	40.0	3.9	
合計	54	66	56	109	155	151	5	596	
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	



設問2 自治町会・婦人会・老人クラブの認知度

※ あなたは、中尾三丁目に町内会（自治町会）や婦人会・老人クラブがあることをご存知ですか。

男性	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	合計	
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	
	男/%	男/%	男/%	男/%	男/%	男/%	男/%	男/%	
1. 知っている	5	19	13	43	67	57	0	204	1位
	29.4	57.6	76.4	87.8	89.4	86.4		79.4	
2. 知っているものもある	6	7	2	4	6	6	0	31	2位
	35.3	21.2	11.8	8.2	8.0	9.1		12.0	
3. 知らない	3	4	1	1	1	1		11	3位
	17.6	12.1	5.9	2.0	1.3	1.5		4.3	
4. 関心がない	2	2	1	1	1	2		9	4位
	11.8	6.1	5.9	2.0	1.3	3.0		3.5	
5. その他								0	5位
6. 不記入	1	1						2	
	5.9	3.0						0.8	
合計	17	33	17	49	75	66	0	257	
	100	100	100	100	100	100	0	100	

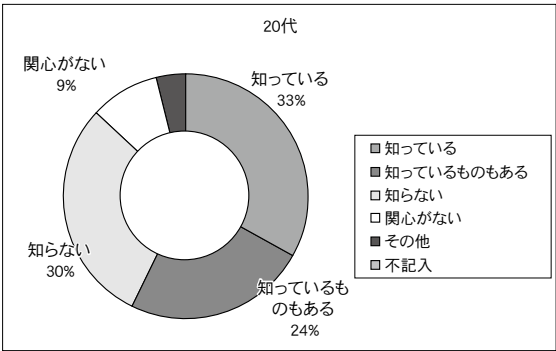
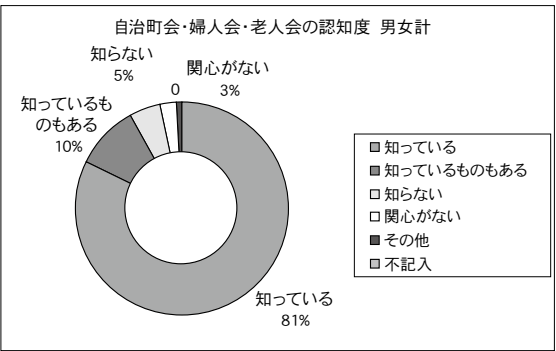
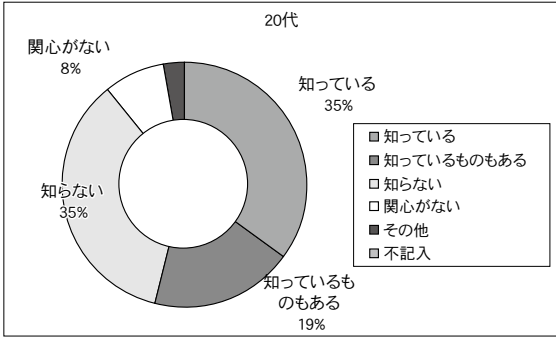
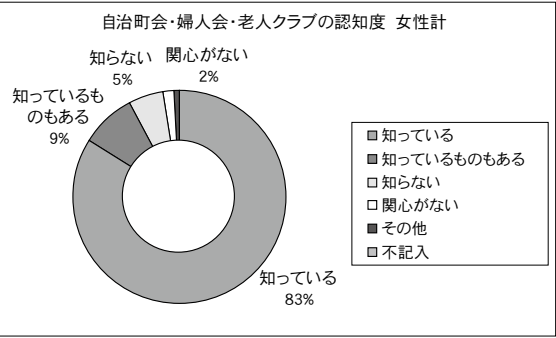
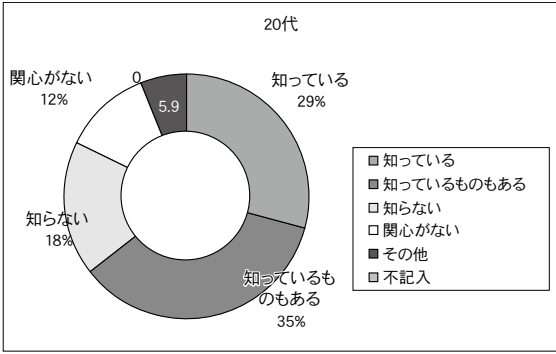
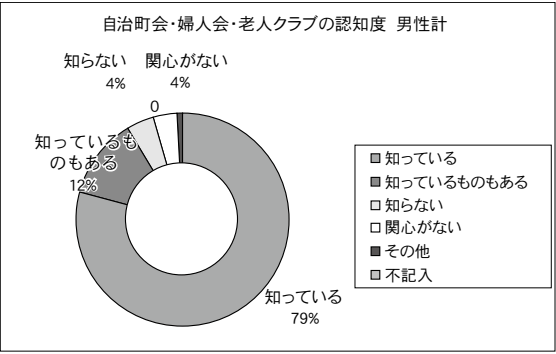
女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	合計	
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	
	女/%	女/%	女/%	女/%	女/%	女/%	女/%	女/%	
1. 知っている	13	20	35	53	66	75	3	265	1位
	35.2	60.6	92.1	96.4	93.0	94.9	100.0	83.9	
2. 知っているものもある	7	10	2	2	4	2	0	27	2位
	18.9	30.3	5.3	3.6	5.6	2.5		8.5	
3. 知らない	13	2			1			16	3位
	35.1	6.1			1.4			5.1	
4. 関心がない	3	1	1			1		6	4位
	8.1	3.0	2.6			1.3		1.9	
5. その他								0	5位
6. 不記入	1					1		2	
	2.7					1.3		0.6	
合計	37	33	38	55	71	79	3	316	
	100	100	100	100	100	100	100	100	

※属性不明のデータがありますが、この分の印刷は省きます。但し、下記の合計には入っています。

合 計	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	合計	
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	
	男女/%	男女/%	男女/%	男女/%	男女/%	男女/%	男女/%	男女/%	
1. 知っている	18	39	49	100	142	138	5	491	1位
	33.3	59.1	87.5	91.7	91.6	91.4	100.0	82.4	
2. 知っているものもある	13	17	4	6	10	8	0	58	2位
	24.1	25.8	7.1	5.5	6.5	5.3		9.7	
3. 知らない	16	6	1	2	2	1	0	28	3位
	29.6	9.1	1.8	1.8	1.3	0.7		4.7	
4. 関心がない	5	3	2	1	1	3	0	15	4位
	9.3	4.5	3.6	0.9	0.6	2.0		2.5	
5. その他	0	0	0	0	0	0	0	0	5位
6. 不記入	2	1	0	0	0	1	0	4	
	3.7	1.5				0.7		0.7	
合計	54	66	56	109	155	151	5	596	
	100	100	100	100	100	100	100	100	

設問 2 自治町会・婦人会・老人クラブの認知度

ピックアップ グラフ化



設問3 自治町会の活動で何が重要と思いますか、何に力を入れるべきだと思いますか

(複数回答)

%は人数比

男性	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	合計	
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	
	男／%	男／%	男／%	男／%	男／%	男／%	男／%	男／%	
1. 道路、ゴミ問題	8	22	12	30	53	48		173	1位
%	47.1	66.7	70.6	61.2	70.7	72.7		67.3	
2. 少子高齢化	7	10	3	14	35	22		91	2位
%	41.2	30.3	17.6	28.6	46.7	33.3		35.4	
3. 連帯、親睦行事	4	6	7	13	31	28		89	3位
%	23.5	18.2	41.2	26.5	41.3	42.4		34.6	
4. 独自課題	3	3	7	15	14	22		64	4位
%	17.6	9.1	41.2	30.6	18.7	33.3		24.9	
5. 行政協働	4	4		14	21	21		64	4位
%	23.5	12.1		28.6	28.0	31.8		24.9	
6. 会費徴収、回覧板	2	1	2	6	6	7		24	6位
%	11.8	3.0	11.8	12.2	8.0	10.6		9.3	
7. その他	2	4			1	4		11	7位
%	11.8	12.1			1.3	6.1		4.3	
合計 件数	30	50	31	92	161	152		516	
%	176.5	151.5	182.4	187.8	214.7	230.3		200.8	
人数	17	33	17	49	75	66		257	

%は人数比

女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	合計	
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	
	女／%	女／%	女／%	女／%	女／%	女／%	女／%	女／%	
1. 道路、ゴミ問題	24	20	33	37	42	48	3	207	1位
%	64.9	60.6	86.8	67.3	59.2	60.8	100.0	65.5	
2. 少子高齢化	12	17	18	25	39	38	3	152	2位
%	32.4	51.5	47.4	45.5	54.9	48.1	100.0	48.1	
3. 連帯、親睦行事	5	4	4	19	19	41		92	3位
%	13.5	12.1	10.5	34.5	26.8	51.9		29.1	
4. 独自課題	7	3	5	7	13	18		53	5位
%	18.9	9.1	13.2	12.7	18.3	22.8		16.8	
5. 行政協働	5	7	5	12	10	17	1	57	4位
%	13.5	21.2	13.2	21.8	14.1	21.5	33.3	18.0	
6. 会費徴収、回覧板	1	3	2	1	9	11		27	6位
%	2.7	9.1	5.3	1.8	12.7	13.9		8.5	
7. その他	1	2	3			5		11	7位
%	2.7	6.1	7.9			6.3		3.5	
合計 件数	55	56	70	101	132	178	7	599	
%	148.6	169.7	184.2	183.6	185.9	225.3	233.3	189.6	
人数	37	33	38	55	71	79	3	316	

※属性不明のデータがありますが、この分の印刷は省きます。但し、下記の合計には入っています。

％は人数比

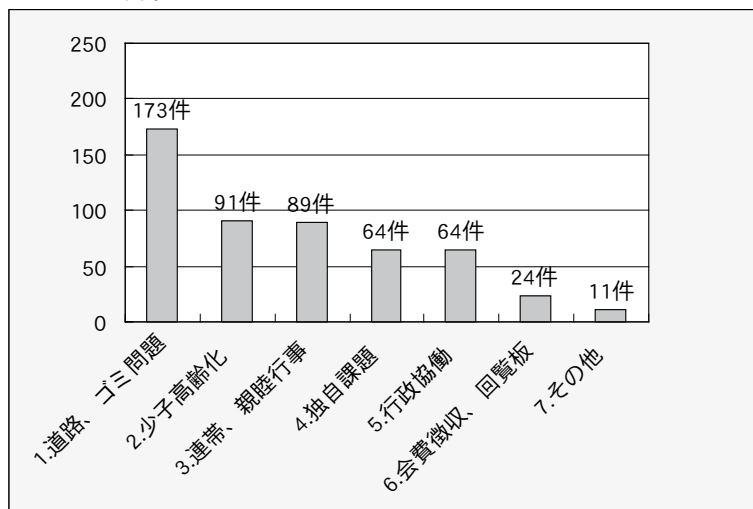
合 計	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	合計	
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	
	男女／％	男女／％	男女／％	男女／％	男女／％	男女／％	男女／％	男女／％	
1. 道路、ゴミ問題	32	42	45	69	100	100	3	391	1 位
	59.3	63.6	80.4	63.3	64.5	66.2	60.0	65.6	
2. 少子高齢化	19	27	21	39	80	63	3	252	2 位
	35.2	40.9	37.5	35.8	51.6	41.7	60.0	42.3	
3. 連帯、親睦行事	9	10	11	33	52	70		185	3 位
	16.7	15.2	19.6	30.3	33.5	46.4		31.0	
4. 独自課題	10	6	12	24	29	41		122	5位
	18.5	9.1	21.4	22.0	18.7	27.2		20.5	
5. 行政協働	9	11	5	27	33	39	1	125	4 位
	16.7	16.7	8.9	24.8	21.3	25.8	20.0	21.0	
6. 会費徴収、回覧板	3	4	4	8	16	19		54	6 位
	5.6	6.1	7.1	7.3	10.3	12.6		9.1	
7. その他	3	6	4		1	10		24	7 位
	5.6	9.1	7.1		0.6	6.6		4.0	
合計	件数	85	106	102	200	311	342	7	1153
	％	157.4	160.6	182.1	183.5	200.6	226.5	140.0	193.5
	人数	54	66	56	109	155	151	5	596

設問3 自治町会の活動で何が重要と思いますか、何に力を入れるべきだと思いますか

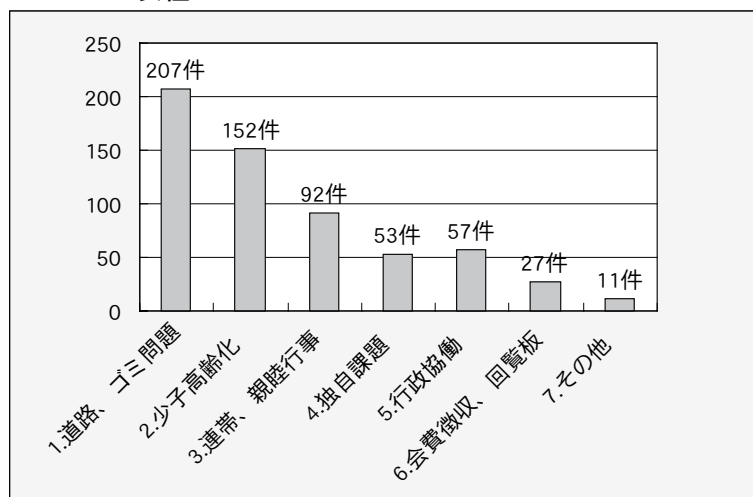
ピックアップ グラフ化

(複数回答)

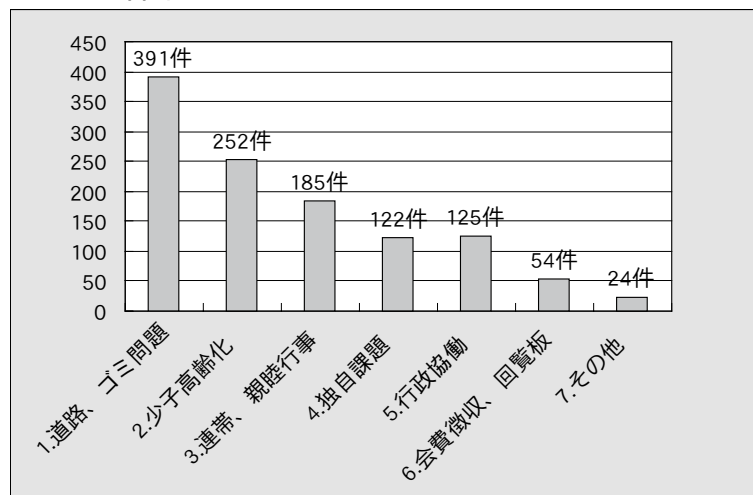
男性



女性



合計



設問4 中尾三丁目自治町の当面の課題は何だと思いますか

(複数回答)

男性	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	合計	
	人数 男／％	人数 男／％	人数 男／％	人数 男／％	人数 男／％	人数 男／％	人数 男／％	人数 男／％	
1. 高齢者支援	5	11	6	26	43	29		120	2 位
	29.4	33.3	35.3	53.1	57.3	43.9		46.7	
2. 子供の問題、 少子化支援	5	11	2	6	13	8		45	7 位
	29.4	33.3	11.8	12.2	17.3	12.1		17.5	
3. 坂道対策	5	16	4	24	40	37		126	1 位
	29.4	48.5	23.5	49.0	53.3	56.1		49.0	
4. 下水、道路、 手すり設置	3	5	4	16	35	25		88	5 位
	17.6	15.2	23.5	32.7	46.7	37.9		34.2	
5. マナー、モラル	5	9	8	22	21	41		106	4 位
	29.4	27.3	47.1	44.9	28.0	62.1		41.2	
6. 連帯、近隣	3	4	4	8	27	25		71	6 位
	17.6	12.1	23.5	16.3	36.0	37.9		27.6	
7. バス、交通	6	8	10	21	31	34		110	3 位
	35.3	24.2	58.8	42.9	41.3	51.5		42.8	
8. 環境問題	3	5	1	5	10	12		36	8 位
	17.6	15.2	5.9	10.2	13.3	18.2		14.0	
9. 組織活性化		1	1	1	13	10		26	9 位
		3.0	5.9	2.0	17.3	15.2		10.1	
10. その他	2	4	2		3	4		15	10位
	11.8	12.1	11.8		4.0	6.1		5.8	
合計	件数	37	74	42	129	236	225	743	
	％	217.6	224.2	247.1	263.3	314.7	340.9	289.1	
	人数	17	33	17	49	75	66	257	

％は人数比

女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	合計	
	人数 女／％	人数 女／％	人数 女／％	人数 女／％	人数 女／％	人数 女／％	人数 女／％	人数 女／％	
1. 高齢者支援	15	21	16	30	45	38	2	167	2 位
	40.5	63.6	42.1	54.5	63.4	48.1	66.7	52.8	
2. 子供の問題、 少子化支援	6	13	8	5	13	16	2	63	7 位
	16.2	39.4	21.1	9.1	18.3	20.3	66.7	19.9	
3. 坂道対策	13	18	17	28	35	41	1	153	3 位
	35.1	54.5	44.7	50.9	49.3	51.9	33.3	48.4	
4. 下水、道路、 手すり設置	9	13	12	20	24	32	2	112	5 位
	24.3	39.4	31.6	36.4	33.8	40.5	66.7	35.4	
5. マナー、モラル	12	7	17	26	33	47	2	144	4 位
	32.4	21.2	44.7	47.3	46.5	59.5	66.7	45.6	
6. 連帯、近隣	7	7	5	19	21	27		86	6 位
	18.9	21.2	13.2	34.5	29.6	34.2		27.2	
7. バス、交通	18	18	19	36	37	55	3	186	1 位
	48.6	54.5	50.0	65.5	52.1	69.6	100.0	58.9	
8. 環境問題	3	5	2	8	8	17	1	44	8 位
	8.1	15.2	5.3	14.5	11.3	21.5	33.3	13.9	
9. 組織活性化	1	2	2	6	6	14		31	9 位
	2.7	6.1	5.3	10.9	8.5	17.7		9.8	
10. その他			1		3	3		7	10位
			2.6		4.2	3.8		2.2	
合計	件数	84	104	99	178	225	290	993	
	％	227.0	315.2	260.5	323.6	316.9	367.1	433.3	
	人数	37	33	38	55	71	79	316	

※属性不明のデータがありますが、この分の印刷は省きます。但し、下記の合計には入っています。

%は人数比

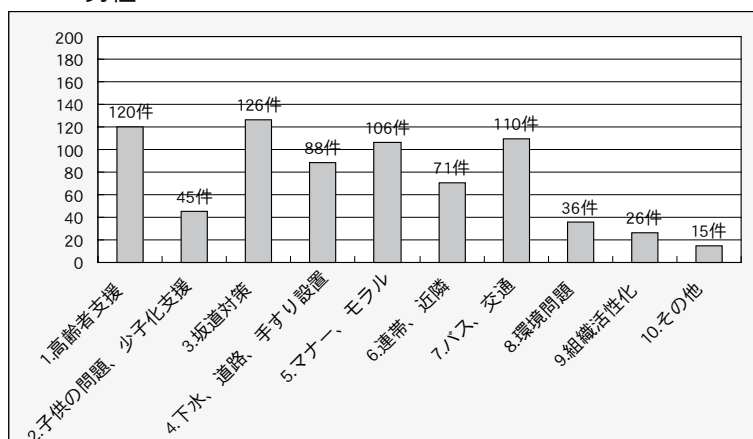
合 計	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	合計	
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	
	男女／%	男女／%	男女／%	男女／%	男女／%	男女／%	男女／%	男女／%	
1. 高齢者支援	20	32	22	56	95	70	2	297	2 位
	37.0	48.5	39.3	51.4	61.3	46.4	40.0	49.8	
2. 子供の問題、少 子化支援	11	24	10	11	29	25	3	113	7 位
	20.4	36.4	17.9	10.1	18.7	16.6	60.0	19.0	
3. 坂道対策	18	34	21	54	79	80	1	287	3 位
	33.3	51.5	37.5	49.5	51.0	53.0	20.0	48.2	
4. 下水、道路、手 すり設置	12	18	16	37	61	57	2	203	5 位
	22.2	27.3	28.6	33.9	39.4	37.7	40.0	34.1	
5. マナー、モラル	17	16	26	52	59	92	2	264	4 位
	31.5	24.2	46.4	47.7	38.1	60.9	40.0	44.3	
6. 連帯、近隣	10	11	9	28	48	53	1	160	6 位
	18.5	16.7	16.1	25.7	31.0	35.1	20.0	26.8	
7. バス、交通	24	26	30	59	75	92	4	310	1 位
	44.4	39.4	53.6	54.1	48.4	60.9	80.0	52.0	
8. 環境問題	6	10	3	13	19	30	1	82	8 位
	11.1	15.2	5.4	11.9	12.3	19.9	20.0	13.8	
9. 組織活性化	1	3	3	7	19	24		57	9 位
	1.9	4.5	5.4	6.4	12.3	15.9		9.6	
10. その他	2	4	3		6	7		22	10位
	3.7	6.1	5.4		3.9	4.6		3.7	
合計	121	178	143	317	490	530	16	1795	
	224.1	269.7	255.4	290.8	316.1	351.0	320.0	301.2	
	54	66	56	109	155	151	5	596	

設問4 中尾三丁目の当面の課題は何だと思いますか

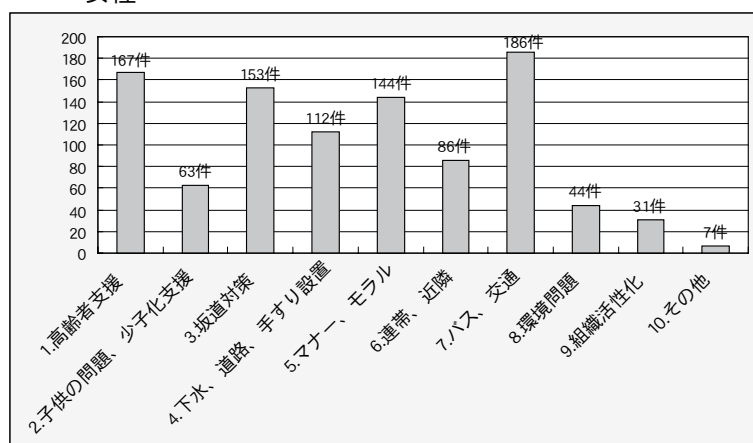
ピックアップ グラフ化

(複数回答)

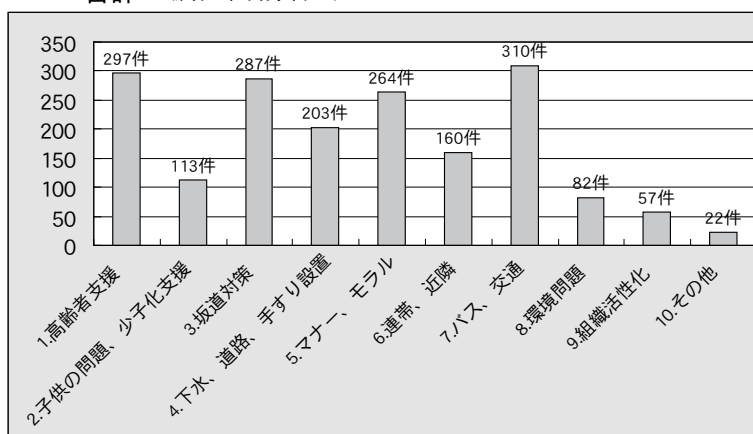
男性



女性



合計 (属性不明分含む)



設問5① 広報活動〔市政だより〕について

男性	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	合計	
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	
	男/%	男/%	男/%	男/%	男/%	男/%	男/%	男/%	
1. 毎回良く読む	1	5	3	11	34	33		87	1位
	5.9	15.2	17.6	22.4	45.3	50.0		33.9	
2. 関心のある記事を読む	1	1	5	22	22	19		70	2位
	5.9	3.0	29.4	44.9	29.3	28.8		27.2	
3. 読んだり読まなかったり	3	8	5	7	11	5		39	3位
	17.6	24.2	29.4	14.3	14.7	7.6		15.2	
4. ほとんど読まない	7	10	3	3	4	3		30	4位
	41.2	30.3	17.6	6.1	5.3	4.5		11.7	
5. 全く読んだことがない	5	9	1	5	3	3		26	5位
	29.4	27.3	5.9	10.2	4.0	4.5		10.1	
6. その他				1	1	3		5	6位
				2.0	1.3	4.5		1.9	
合計	17	33	17	49	75	66	0	257	
	100	100	100	100	100	100	0	100	

女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	合計	
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	
	女/%	女/%	女/%	女/%	女/%	女/%	女/%	女/%	
1. 毎回良く読む	4	8	12	17	42	47	1	131	1位
	10.8	24.2	31.6	30.9	59.2	59.5	33.3	41.5	
2. 関心のある記事を読む	3	11	15	16	18	16	1	80	2位
	8.1	33.3	39.5	29.1	25.4	20.3	33.3	25.3	
3. 読んだり読まなかったり	12	8	9	17	8	11	1	66	3位
	32.4	24.2	23.7	30.9	11.3	13.9	33.3	20.9	
4. ほとんど読まない	12	6	2	5	1	3		29	4位
	32.4	18.2	5.3	9.1	1.4	3.8		9.2	
5. 全く読んだことがない	6	0	0	0	1	1		8	5位
	16.2				1.4	1.3		2.5	
6. その他					1	1		2	6位
					1.4	1.3		0.6	
合計	37	33	38	55	71	79	3	316	
	100	100	100	100	100	100	100	100	

※属性不明のデータがありますが、この分の印刷は省きます。但し、下記の合計には入っています。

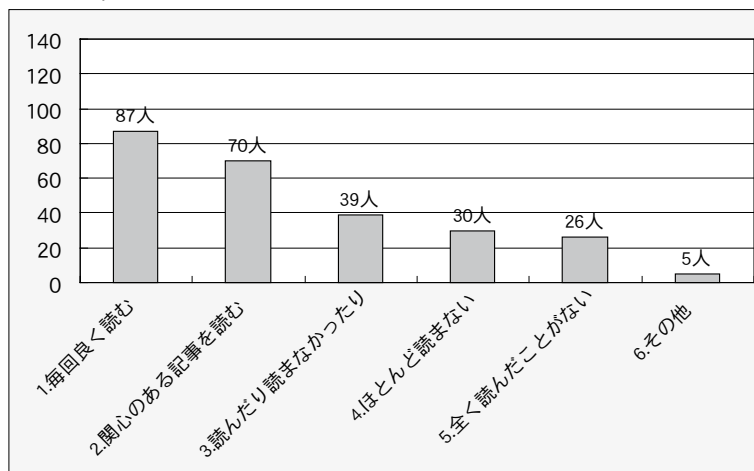
合計	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	
	男女/%	男女/%	男女/%	男女/%	男女/%	男女/%	男女/%	男女/%	
1. 毎回良く読む	5	13	15	32	80	83	2	230	1位
	9.3	19.7	26.8	29.4	51.6	55.0	40.0	38.6	
2. 関心のある記事を読む	4	12	20	39	42	35	1	153	2位
	7.4	18.2	35.7	35.8	27.1	23.2	20.0	25.7	
3. 読んだり読まなかったり	15	16	15	24	21	17	1	109	3位
	27.8	24.2	26.8	22.0	13.5	11.3	20.0	18.3	
4. ほとんど読まない	19	16	5	8	5	6	1	60	4位
	35.2	24.2	8.9	7.3	3.2	4.0	20.0	10.1	
5. 全く読んだことがない	11	9	1	5	5	5	0	36	5位
	20.4	13.6	1.8	4.6	3.2	3.3		6.0	
6. その他	0	0	0	1	2	5	0	8	6位
				0.9	1.3	3.3		1.3	
合計	54	66	56	109	155	151	5	596	
	100	100	100	100	100	100	100	100	

設問 5① 広報活動〔市政だより〕について

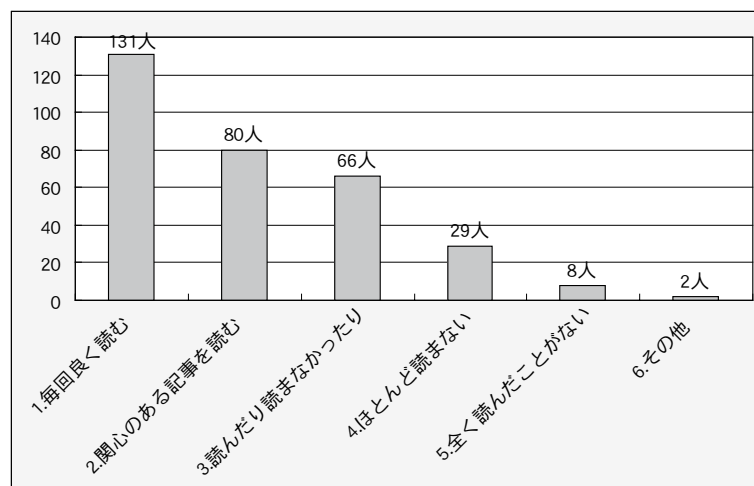
ピックアップ グラフ化

(複数回答)

男性

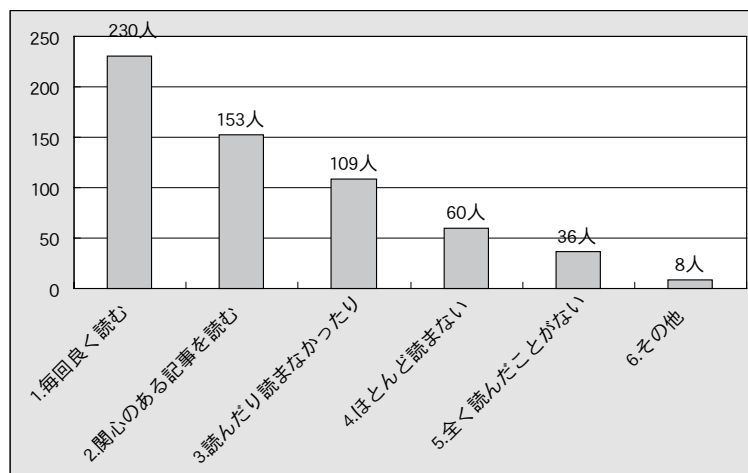


女性



合計

(属性不明分含む)



設問5② 広報活動〔市民センターだより〕について

男性	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	合計	
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	
	男／％	男／％	男／％	男／％	男／％	男／％	男／％	男／％	
1. 毎回良く読む	1	2	3	6	29	33		74	1 位
	5.9	6.1	17.6	12.2	38.7	50.0		28.8	
2. 関心のある記事を読む		2	5	13	14	19		53	2 位
		6.1	29.4	26.5	18.7	28.8		20.6	
3. 読んだり読まなかったり	1	6	4	17	18	5		51	3 位
	5.9	18.2	23.5	34.7	24.0	7.6		19.8	
4. ほとんど読まない	8	12	3	7	6	3		39	4 位
	47.1	36.4	17.6	14.3	8.0	4.5		15.2	
5. 全く読んだことがない	4	9	2	5	4	3		27	5 位
	23.5	27.3	11.8	10.2	5.3	4.5		10.5	
6. その他	3	2		1	4	3		13	6 位
	17.6	6.1		2.0	5.3	4.5		5.1	
合計	17	33	17	49	75	66		257	
	100	100	100	100	100	100		100	

女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	合計	
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	
	女／％	女／％	女／％	女／％	女／％	女／％	女／％	女／％	
1. 毎回良く読む	2	6	12	15	39	46	1	121	1 位
	5.4	18.2	31.6	27.3	54.9	58.2	33.3	38.3	
2. 関心のある記事を読む	1	7	12	16	16	16	2	70	2 位
	2.7	21.2	31.6	29.1	22.5	20.3	66.7	22.2	
3. 読んだり読まなかったり	10	6	8	15	11	8		58	3 位
	27.0	18.2	21.1	27.3	15.5	10.1		18.4	
4. ほとんど読まない	14	11	5	7	2	2		41	4 位
	37.8	33.3	13.2	12.7	2.8	2.5		13.0	
5. 全く読んだことがない	10	3	1	1		2		17	5 位
	27.0	9.1	2.6	1.8		2.5		5.4	
6. その他				1	3	5		9	6 位
				1.8	4.2	6.3		2.8	
合計	37	33	38	55	71	79	3	316	
	100	100	100	100	100	100	100	100	

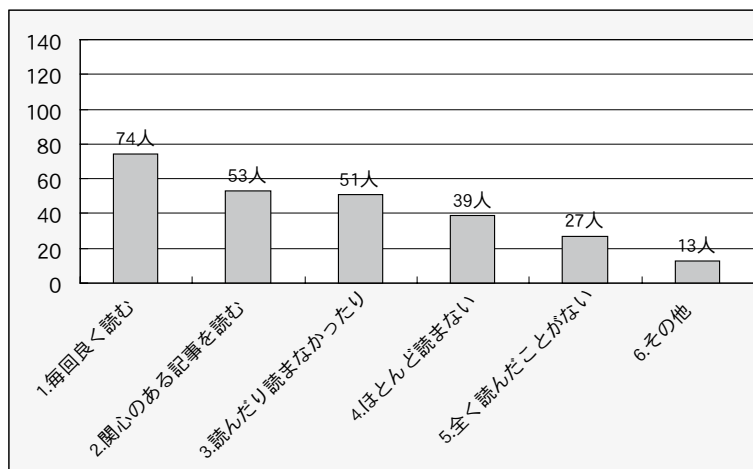
※属性不明のデータがありますが、この分の印刷は省きます。但し、下記の合計には入っています。

合 計	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	合計	
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	
	男女／％	男女／％	男女／％	男女／％	男女／％	男女／％	男女／％	男女／％	
1. 毎回良く読む	3	8	15	22	72	82	1	203	1 位
	5.6	12.1	26.8	20.2	46.5	54.3	20.0	34.1	
2. 関心のある記事を読む	1	9	18	31	32	35	3	129	2 位
	1.9	13.6	32.1	28.4	20.6	23.2	60.0	21.6	
3. 読んだり読まなかったり	11	12	12	34	31	14		114	3 位
	20.4	18.2	21.4	31.2	20.0	9.3		19.1	
4. ほとんど読まない	22	23	8	14	8	5	1	81	4 位
	40.7	34.8	14.3	12.8	5.2	3.3	20.0	13.6	
5. 全く読んだことがない	14	12	3	6	5	6		46	5 位
	25.9	18.2	5.4	5.5	3.2	4.0		7.7	
6. その他	3	2		2	7	9		23	6 位
	5.6	3.0		1.8	4.5	6.0		3.9	
合計	54	66	56	109	155	151	5	596	
	100	100	100	100	100	100	100	100	

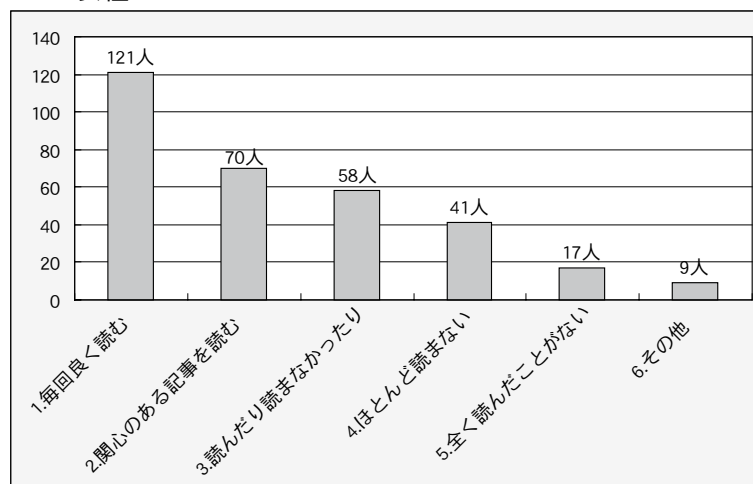
設問 5② 広報活動〔市民センターだより〕について

ピックアップ グラフ化

男性

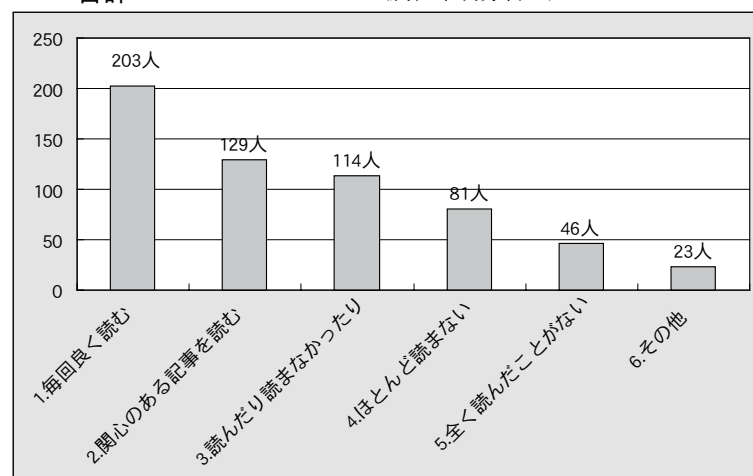


女性



合計

(属性不明分含む)



設問5③ 広報活動〔町内会だより（向こう三軒両隣）〕について

男性	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	合計	
	人数 男／％	人数 男／％	人数 男／％	人数 男／％	人数 男／％	人数 男／％	人数 男／％	人数 男／％	
1. 毎回良く読む	1	3	5	10	34	36		89	1 位
	5.9	9.1	29.4	20.4	45.3	54.5		34.6	
2. 関心のある記事を読む	2	2	4	13	16	13		50	2 位
	11.8	6.1	23.5	26.5	21.3	19.7		19.5	
3. 読んだり読まなかったり		5	4	13	13	5		40	3 位
		15.2	23.5	26.5	17.3	7.6		15.6	
4. ほとんど読まない	7	11	1	8	5	3		35	4 位
	41.2	33.3	5.9	16.3	6.7	4.5		13.6	
5. 全く読んだことがない	4	11	3	4	4	3		29	5 位
	23.5	33.3	17.6	8.2	5.3	4.5		11.3	
6. その他	3	1		1	3	6		14	6 位
	17.6	3.0		2.0	4.0	9.1		5.4	
合計	17	33	17	49	75	66		257	
	100	100	100	100	100	100		100	

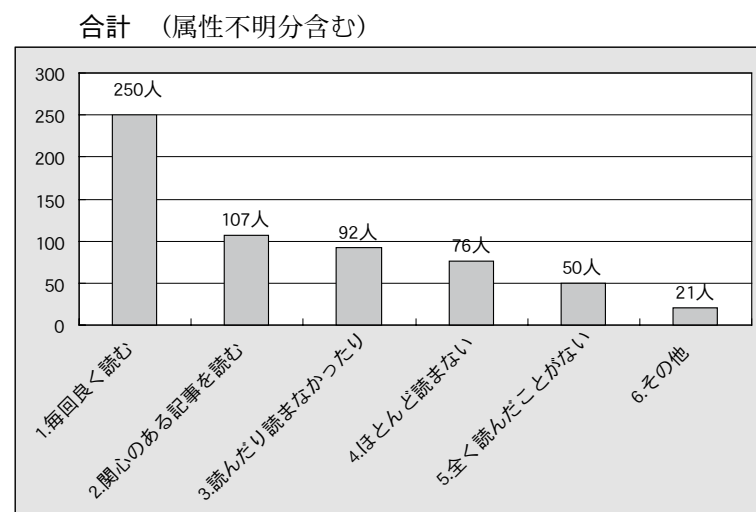
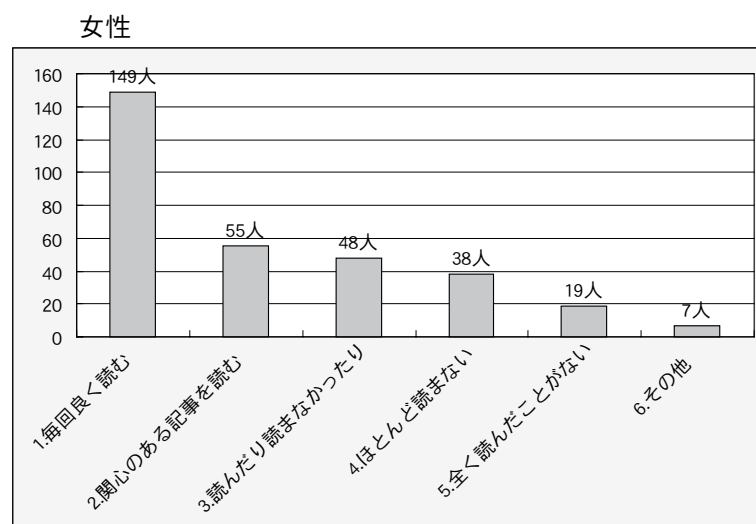
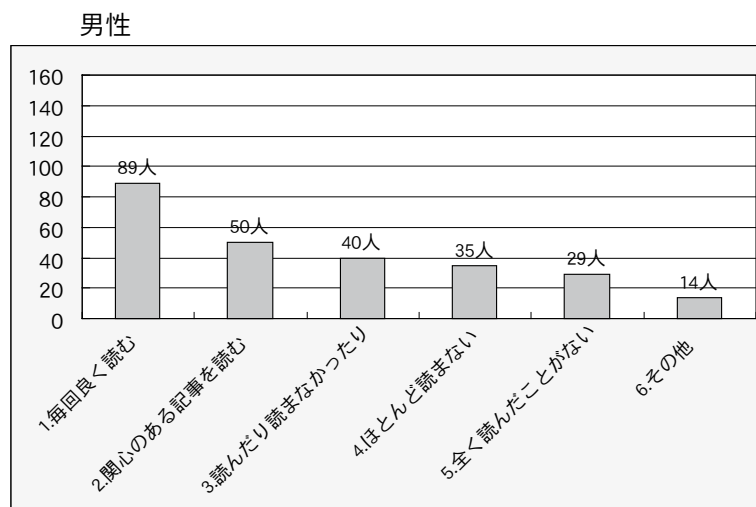
女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	合計	
	人数 女／％	人数 女／％	人数 女／％	人数 女／％	人数 女／％	人数 女／％	人数 女／％	人数 女／％	
1. 毎回良く読む	3	8	15	24	47	50	2	149	1 位
	8.1	24.2	39.5	43.6	66.2	63.3	66.7	47.2	
2. 関心のある記事を読む	1	11	9	10	10	13	1	55	2 位
	2.7	33.3	23.7	18.2	14.1	16.5	33.3	17.4	
3. 読んだり読まなかったり	9	2	8	15	7	7		48	3 位
	24.3	6.1	21.1	27.3	9.9	8.9		15.2	
4. ほとんど読まない	14	8	4	5	4	3		38	4 位
	37.8	24.2	10.5	9.1	5.6	3.8		12.0	
5. 全く読んだことがない	10	4	2	1		2		19	5 位
	27.0	12.1	5.3	1.8		2.5		6.0	
6. その他					3	4		7	6 位
					4.2	5.1		2.2	
合計	37	33	38	55	71	79	3	316	
	100	100	100	100	100	100	100	100	

※属性不明のデータがありますが、この分の印刷は省きます。但し、下記の合計には入っています。

合 計	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	合計	
	人数 男女／％	人数 男女／％	人数 男女／％	人数 男女／％	人数 男女／％	人数 男女／％	人数 男女／％	人数 男女／％	
1. 毎回良く読む	4	11	20	37	86	90	2	250	1 位
	7.4	16.7	35.7	33.9	55.5	59.6	40.0	41.9	
2. 関心のある記事を読む	3	13	13	23	27	26	2	107	2 位
	5.6	19.7	23.2	21.1	17.4	17.2	40.0	18.0	
3. 読んだり読まなかったり	9	7	13	29	21	13		92	3 位
	16.7	10.6	23.2	26.6	13.5	8.6		15.4	
4. ほとんど読まない	21	19	5	14	10	6	1	76	4 位
	38.9	28.8	8.9	12.8	6.5	4.0	20.0	12.8	
5. 全く読んだことがない	14	15	5	5	5	6		50	5 位
	25.9	22.7	8.9	4.6	3.2	4.0		8.4	
6. その他	3	1		1	6	10		21	6 位
	5.6	1.5		0.9	3.9	6.6		3.5	
合計	54	66	56	109	155	151	5	596	
	100	100	100	100	100	100	100	100	

設問 5③ 広報活動〔町内会だより（向こう三軒両隣）〕について

ピックアップグラフ化



設問6 校区市民センターを利用していますか

男性	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	合計	
	人数 男/%	人数 男/%	人数 男/%	人数 男/%	人数 男/%	人数 男/%	人数 男/%	人数 男/%	
1. よく利用する	1 5.9				9 12.0	5 7.6		15 5.8	4位
2. まあまあ利用 する		3 9.1			4 5.3	5 7.6		12 4.7	5位
3. 必要なときだ け	1 5.9	4 12.1	1 5.9	9 18.4	17 22.7	22 33.3		54 21.0	2位
4. 殆ど利用しな い	8 47.1	15 45.5	12 70.6	34 69.4	36 48.0	24 36.4		129 50.2	1位
5. 一度も行った ことがない	5 29.4	6 18.2	3 17.6	3 6.1	7 9.3	7 10.6		31 12.1	3位
6. 在ることを知 らない	1 5.9	4 12.1	1 5.9	3 6.1		1 1.5		10 3.9	6位
7. その他	1 5.9	1 3.0			2 2.7	2 3.0		6 2.3	7位
合計	17 100.0	33 100.0	17 100.0	49 100.0	75 100.0	66 100.0	0	257 100.0	

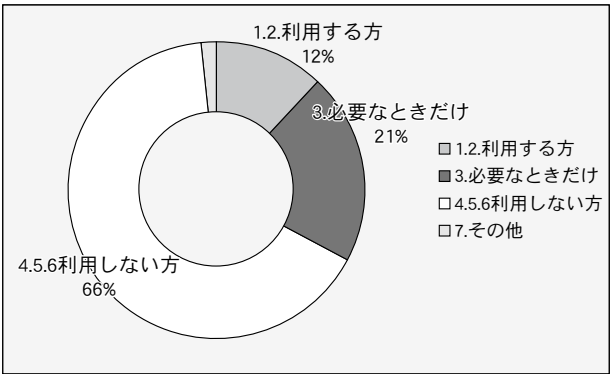
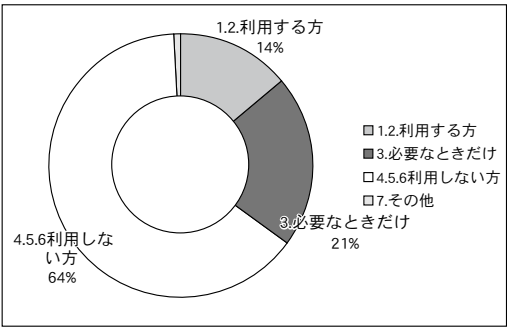
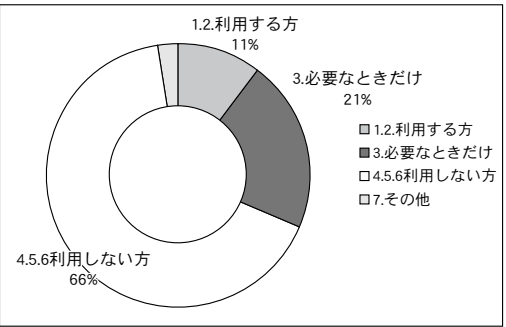
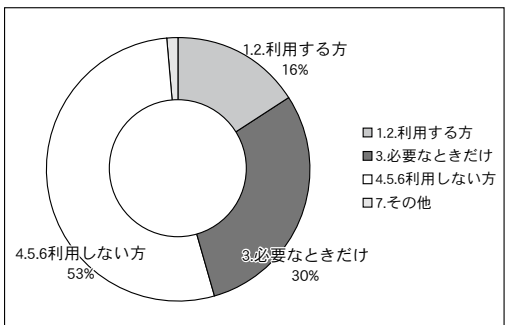
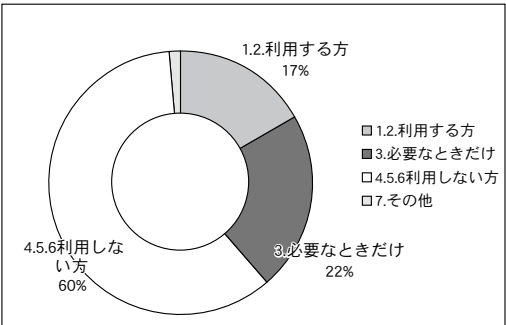
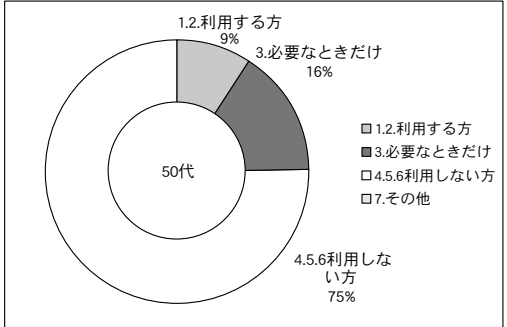
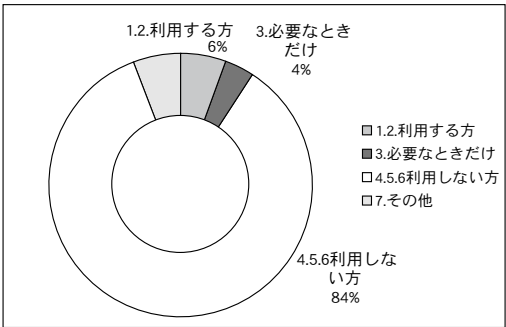
女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	合計	
	人数 女/%	人数 女/%	人数 女/%	人数 女/%	人数 女/%	人数 女/%	人数 女/%	人数 女/%	
1. よく利用する		4 12.1	1 2.6	7 12.7	7 9.9	9 11.4	0	28 8.9	4位
2. まあまあ利用 する	2 5.4	0 0.0	2 5.3	3 5.5	5 7.0	4 5.1	0	16 5.1	5位
3. 必要なときだ け	1 2.7	9 27.3	10 26.3	7 12.7	16 22.5	23 29.1	1 33.3	67 21.2	2位
4. 殆ど利用しな い	13 35.1	15 45.5	25 65.8	35 63.6	37 52.1	35 44.3	2 66.7	162 51.3	1位
5. 一度も行った ことがない	19 51.4	2 6.1	0	3 5.5	6 8.5	6 7.6	0	36 11.4	3位
6. 在ることを知 らない		3 9.1				2 2.5		5 1.6	6位
7. その他	2 5.4							2 0.6	7位
合計	37 100.0	33 100.0	38 100.0	55 100.0	71 100.0	79 100.0	3 100.0	316 100.0	

※属性不明のデータがありますが、この分の印刷は省きます。但し、下記の合計には入っています。

合 計	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	合計	
	人数 男女/%	人数 男女/%	人数 男女/%	人数 男女/%	人数 男女/%	人数 男女/%	人数 男女/%	人数 男女/%	
1. よく利用する	1 1.9	4 6.1	1 1.8	7 6.4	17 11.0	14 9.3	0	44 7.4	4位
2. まあまあ利用 する	2 3.7	3 4.5	2 3.6	3 2.8	9 5.8	10 6.6	0	29 4.9	5位
3. 必要なときだ け	2 3.7	13 19.7	11 19.6	17 15.6	34 21.9	45 29.8	1 20.0	123 20.6	2位
4. 殆ど利用しな い	21 38.9	30 45.5	38 67.9	71 65.1	80 51.6	63 41.7	4 80.0	307 51.5	1位
5. 一度も行った ことがない	24 44.4	8 12.1	3 5.4	8 7.3	13 8.4	14 9.3	0	70 11.7	3位
6. 在ることを知 らない	1 1.9	7 10.6	1 1.8	3 2.8	0	3 2.0	0	15 2.5	6位
7. その他	3 5.6	1 1.5	0	0	2 1.3	2 1.3	0	8 1.3	7位
合計	54 100.0	66 100.0	56 100.0	109 100.0	155 100.0	151 100.0	5 100.0	596 100.0	

設問6 校区市民センターを利用していますか

ピックアップグラフ化



設問7 校区まちづくり協議会について

男性	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	合計	
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	
	男/%	男/%	男/%	男/%	男/%	男/%	男/%	男/%	
1. 行事に参加したことがある		2		4	14	16		36	4位
		6.1		8.2	18.7	24.2		14.0	
2. 存在、活動を知っている	1	7	6	7	29	15		65	2位
	5.9	21.2	35.3	14.3	38.7	22.7		25.3	
3. 参加するきっかけがない	1	1	1	7	8	10		28	5位
	5.9	3.0	5.9	14.3	10.7	15.2		10.9	
4. 関心がない	2	10	0	9	12	13		46	3位
	11.8	30.3		18.4	16.0	19.7		17.9	
5. 存在を知らない	13	12	10	21	11	10		77	1位
	76.5	36.4	58.8	42.9	14.7	15.2		30.0	
6. その他		1		1	1	2		5	6位
		3.0		2.0	1.3	3.0		1.9	
合計	17	33	17	49	75	66	0	257	
	100	100	100	100	100	100		100	

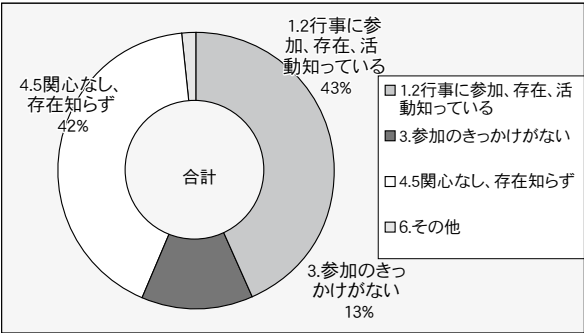
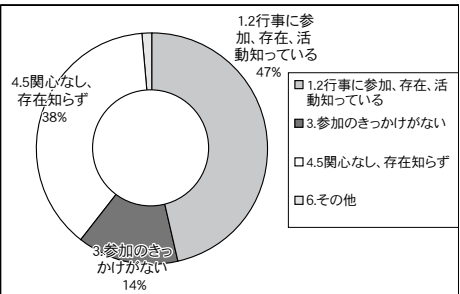
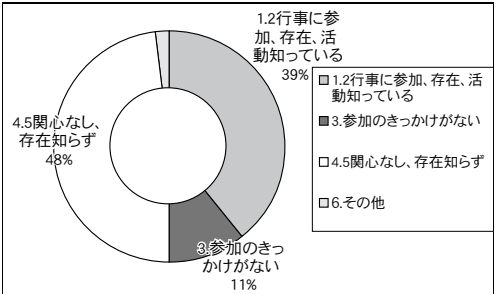
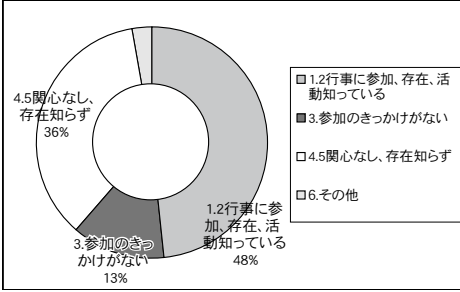
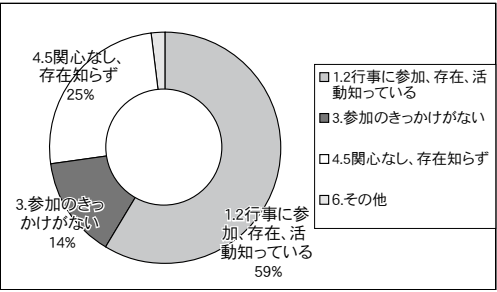
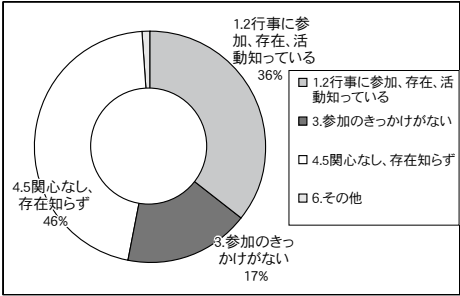
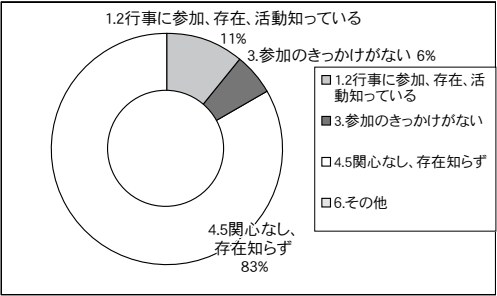
女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	合計	
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	
	女/%	女/%	女/%	女/%	女/%	女/%	女/%	女/%	
1. 行事に参加したことがある	1	3	5	7	18	10		44	5位
	2.7	9.1	13.2	12.7	25.4	12.7	0.0	13.9	
2. 存在、活動を知っている	4	10	13	19	25	30	2	103	1位
	10.8	30.3	34.2	34.5	35.2	38.0	66.7	32.6	
3. 参加するきっかけがない	2	4	6	11	12	10		45	4位
	5.4	12.1	15.8	20.0	16.9	12.7		14.2	
4. 関心がない	7	7	9	7	6	15	1	52	3位
	18.9	21.2	23.7	12.7	8.5	19.0	33.3	16.5	
5. 存在を知らない	23	9	5	11	8	12		68	2位
	62.2	27.3	13.2	20.0	11.3	15.2		21.5	
6. その他					2	2		4	6位
					2.8	2.5		1.3	
合計	37	33	38	55	71	79	3	316	
	100	100	100	100	100	100	100	100	

※属性不明のデータがありますが、この分の印刷は省きます。但し、下記の合計には入っています。

合 計	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	合計	
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数	
	男女/%	男女/%	男女/%	男女/%	男女/%	男女/%	男女/%	男女/%	
1. 行事に参加したことがある	1	5	5	11	34	27	1	84	4位
	1.9	7.6	8.9	10.1	21.9	17.9	20.0	14.1	
2. 存在、活動を知っている	5	17	20	28	57	46	3	176	2位
	9.3	25.8	35.7	25.7	36.8	30.5	60.0	29.5	
3. 参加するきっかけがない	3	5	7	19	22	20	0	76	5位
	5.6	7.6	12.5	17.4	14.2	13.2		12.8	
4. 関心がない	9	17	9	17	20	31	1	104	3位
	16.7	25.8	16.1	15.6	12.9	20.5	20.0	17.4	
5. 存在を知らない	36	21	15	33	19	23	0	147	1位
	66.7	31.8	26.8	30.3	12.3	15.2		24.7	
6. その他	0	1	0	1	3	4	0	9	6位
	0.0	1.5		0.9	1.9	2.6	0.0	1.5	
合計	54	66	56	109	155	151	5	596	
	100	100	100	100	100	100	100	100	

設問 7 校区まちづくり協議会について

ピックアップ グラフ化



第3章 坂道の多い地域で生活する高齢者の健康に関する研究

1 はじめに

今日の日本において、様々な社会問題で少子高齢化が問題の要因となっていると思われる。特に高齢化による影響は、高齢者に対するサービス面において医療・福祉制度の見直しをしなければ、サービス維持が困難になってきている。高齢化による問題は、中山間地や離島だけにとどまらず、都市部においても広がりが出ている。中山間地や離島の高齢者が集落人口の50%を超え、独居老人が増加している地域を限界集落と呼ばれている。ⁱ この集落は、集落の共同活動が徐々に行えなくなり、消滅に向かう危険性を秘めている。同様な動向が都市部にも見られ、都市部でのこのような集落を限界コミュニティと呼んでいる。ⁱⁱ 都市の限界コミュニティは、住民特に高齢者の日常の生活圏であり行政の最小単位でもある町丁・字において、65歳以上の高齢者人口が40%を超えていることが一つの要件である。

都市の限界コミュニティとして、1970年代頃に作られた集合住宅や坂道の多い地域での住宅地等があげられる。本稿では、坂道の多い地域での住宅地に着目して調査を行う。

日本の国土の7割が山地で、昔から多数の人が山の斜面や崖下に家を建て生活をしている。また、人口の増加、経済高度成長に伴う人口の都市集中化により、崖下等への家の建築が進んできた。このような崖崩れによる災害の危険性のある地域に住む人たちは、生命財産を守るために災害防止の工事を行わなければならない。この地域に対し、行政は急傾斜地の崩壊を防止し、民生の安定と国土の保全をしなければならない。この急傾斜地とは、斜面の傾斜度が30度以上ある土地をいう。

急傾斜地は、生活面において生命財産を損なう危険性を伴うだけでなく、生活面において不便な地域であることが多いと思われる。このような地域は、山間地に多く見られるが、都市部においてもみられる。しかし、急傾斜地に住む住民は、自らが急傾斜地に住んでいるという認識をしていない場合がある。それは、住宅に面している一面は、急傾斜地にあたるものの、他面は整備された道路に面しているため、日常生活では、急傾斜地での生活であると認識していないのである。

急傾斜地の多い地域は、危険な地域に住んでいるという認識をしていないが、決して平地と同様に滑らかな斜面での生活ができているとはいえない。このような地域は、坂道や階段の多い環境にあるといえる。このような環境は、日常生活において不便な地域と称されることが多く、高齢者になると転居することを望んでいると考えられる。日常生活での不便さは、買い物のしにくさの面から、高齢者の買い物難民として問題視され始めている。ⁱⁱⁱ

しかし、坂道の多い地域は、健康面からみると、日常から平地に比べて傾斜地上り下りすることから運動量が多く、日常生活による健康増進が行われているのではないかと考えられる。本調査は、医療および福祉に従事している専門的知識を持っている者に対し、専門的な視点から研究対象

地域に住む高齢者の健康状態と生活環境をどのように捉えているのかアンケートで質問を行った。本稿では、専門職の立場から高齢者にとっての生活が困難になっている坂道の多い地域に関して高齢者の健康と医療福祉機関および行政、地域の役割をどの様に考えているのかについて明らかにする。

2 高齢者のリハビリテーションと地域生活

本研究において、高齢者の健康増進と傾斜地での運動について考えるために、リハビリテーションの役割を理解しておかなければならない。

リハビリテーションは、能力低下あるいは社会的不利を起こす諸条件の悪影響を減少させ、障害を持つ人たちの社会的統合を実現することを目指している。^{iv}リハビリテーションにとっては、クライアント（対象者）のニーズを把握することが必要になる。リハビリテーションにおけるニーズは、クライアントが社会生活を営むために欠くことのできない基本条件のことである。リハビリテーションは、クライアントが必要としているものを地域社会の中で保証され、総合的に提供されなければならないのである。総合的なリハビリテーションとしては、医学的、教育的、職業的、社会的、およびリハビリテーション介護がある。^v

ここでは、本研究に關与する医学的、社会的、リハビリテーション介護について説明する。医学的リハビリテーションは、クライアントの心身機能の向上と維持を目的としている。これは、看護師、理学療法士、作業療法士等の専門知識をもった者からが、機能障害の回復、能力低下の予防、能力の再獲得を促している。社会的リハビリテーションは、社会的不利の解決を目的としており、個々の社会的集団の一員としての生活を築けるように、高齢者や障害者に対して弱者の住みよい健全な社会に変化するよう社会側の意識や環境を作ることが求められている。

リハビリテーション介護は、介護とともにリハビリテーションを必要とするクライアントに、高齢者や障害者が人間として尊厳のある生活を保つために従来から提供されている介護とリハビリテーションを一体化して行うことである。リハビリテーションと介護の一体化のためには、看護師、理学療法士、作業療法士、介護福祉士等により共同作業として行われるチームアプローチが必要となる。

上記のリハビリテーションの他に、施設や在宅でのリハビリテーションではない、生活空間に配慮した地域リハビリテーションがある。地域リハビリテーションは、地域資源を用いて、地域レベルで行うリハビリテーション活動で、障害者とその家族を含む地域全体が参加して行われる方法であると世界保健機構が提起づけている。地域リハビリテーションは、障害を抱える者や高齢者が、住み慣れたところで、そこに住む人々とともに、一生安全に生き生きとした生活が送られるよう、医療や保健・福祉及び生活に関わるあらゆる人々が行う活動の全てであるといえる。このような地域リハビリテーションは、地域により果たす役割は異なり、地域にあったクライアントのニーズを把握することが重要である。

医療機関への通院が困難な場合や、通院・通所に対して受け入れ態勢が不十分な場合は、訪問リ

ハビリテーションの対象となる。本研究の対象地域は、通院・通所を困難にさせる地域であると思われる。訪問リハビリテーションは、生活の場で行われるものであり、生活者としての障害者や高齢者に視点をいたした支援のためには、生活障害としてとらえることも必要である。また、リハビリテーションは、障害を持っていても、地域社会の中で日常生活を営むことができるようにすることであるが、社会的不利を住宅や屋外に出る方法も含めた社会の物理的環境改善を図り、生活をより快適に過ごせるようにするものである。

リハビリテーションは、その人らしい生活を取り戻すための一連の取り組みである。急性期リハビリテーションから維持期リハビリテーションに移行するなかで、機能訓練依存にならぬよう心がけなければならないのである。専門家とクライアントが目的に対して共通の認識を持つことが大切である。さらに、リハビリテーションは、最終的に、住み慣れた地域で活動的な生活を送ることができ、生活の中で自ら機能回復するリハビリテーションが望ましいといえる。そのためには、介護ありきの志向からリハビリテーションありきであることを重視し、住宅改修、福祉用具等を整備し、生涯住み続けることのできる住宅や屋外での手すりやスロープ等をしたバリアフリーを十時集させることが求められる。この視点は、医療的リハビリテーションからリハビリテーション介護への重点移行、さらに地域リハビリテーションへの行政や地域医療福祉機関の支援をしなければならないと思われる。

3 高齢者の住環境とバリアフリー

坂道の多い地域で生活する高齢者の住環境は、建物の老朽化により悪化していることが考えられる。このような地域での建物の改築・改修は、道幅が狭いことや自動車自体の乗り入れが困難等による道路事情の悪さから敬遠されがちであると思われる。

一般的には、高齢者の住環境を取り巻く状況は、変わりつつある。2000年4月に施行された介護保険制度は、高齢者への介護サービスに関する様相に大きな影響を与えている。それとともに、住宅の品質確保の促進等に関する法律により、高齢者居住性能が、段階別に定められることになった。さらに、2001年4月には、高齢者の居住の安定確保に関する法律が成立した。このように、高齢者に関する住環境に対する意識は高まりつつあると考えられる。

日本の住宅は、脳血管障害や心疾患などの疾病により障害をもった場合に問題が多く、決して安心して暮らせる状況ではないといわれている。具体的な点として、住宅内に段差が多く、室内移動に適しておらず、転倒・転落事故の原因になっている。このような住宅上の問題が、寝たきりの高齢者を増加させる要因として考えられている。屋外での生活においても室内と同じように転倒・転落事故をなくすため、階段や傾斜地に手すりやスロープを設置し、予防的措置を施している。

高齢者に適していない生活環境は、これまで女性の介護により多くを維持することができていた。しかし、核家族化や女性の社会進出が進むにつれ、家庭内での介護を十分に行うことのできない介護力不足や屋外での社会参加支援や地域でのサポート不足とも相まって、高齢者自身が一人でも生活しなければならない状況におかれているといえる。このような問題は、介護保険制度の導入

により、介護従事者によるサポートにより少しでも解消されていると考えられる。

4 下関市の高齢者に関する状況

(1) 下関市の高齢化

多様化する福祉ニーズに対し、行政が提供するサービスだけでは十分ではなく、また行政の力だけでは解決困難になってきている。たとえば、健康づくりや寝たきり予防などは住民の広い参画がなければ実現することができない。そのために、地域の生活課題の解決に取り組んでいく必要がある。

下関市の人口は、25年間で減少傾向にあり、2005年は29万人で、1980年の32.5万人に対し約10%減少している。高齢者は、1980年の3.4万人から2005年の7.4万人に増加している。高齢化率は、1980年の10.6%から2005年の25.5%に増加しており、2005年の全国平均の20.1%と比べると5.4ポイント拡大している。

上記のような高齢化の中で、下関市の65歳以上の高齢者がいる高齢者世帯は、1980年の2.6万世帯から2005年4.9万世帯と1.8倍に増加している。その割合は、1980年の25.8%から2005年の42.0%に上昇している。高齢者世帯の中で、一人暮らしおよび夫婦世帯は、1980年の0.8万人から2005年の2.9万人に増加している。その割合は、1980年に30.7%であり2005年に58.6%に上昇している。

さらに下関市の坂道の多い地域は、限界コミュニティで定義されている高齢化率40%に値している地域が多い。さらに補足すると、55歳以上の人は50～60%を占め、今後10年以内に65歳以上の高齢者の増大が予測される。

このように、下関市は、高齢化が進み高齢者世帯も増加している。このような状況は、高齢者の日常生活を支えるための環境整備を考える必要が生じているといえる。

(2) 下関市の総合計画と地域福祉計画

地域で高齢者を支えるという考え方は、家族介護のあり方の変化により重要視されている。この点においては、行政も積極的に取り組み、地域住民と共に、地域の各種団体、民生委員・児童委員、社会福祉協議会、NPO、ボランティア、社会福祉事業者、保健医療関係者、学校、企業などと、地域福祉に関わる様々な人々が連携し、積極的に参加することを支援している。

下関市のまちづくりの基本指針である下関市総合計画では、保健・医療・福祉分野で「誰でもが健康で、ふれあいを大切にした温かみのあるまち」が将来像として掲げられている。下関地域福祉計画^{vi}のなかでは、基本目標として、「ふれあい」「あんしん」「ささえあい」の3つのテーマが掲げられている。特に、地域みんなが健やかに安心して暮らせる環境を作るための課題として、高齢化が進む中で、健康や老後に対する不安は多くなっており、一人ひとりの健康づくりや介護予防、地域で生活し続けられるための福祉サービスの基盤整備が必要であると考えられている。

2007年3月に下関市が行った下関市地域福祉計画策定に係るアンケートの結果報告には、毎日の暮らしの中で抱えている悩みや不安として多かったものは、「健康」や「老後」についてであると示

されている。下関市はこのアンケート調査結果をもとに下関地域福祉計画をたてているが、下関市の高齢化の現状を踏まえると、健康不安はさらに増加することが懸念される。

下関市地域福祉計画では、元気で活動的な高齢期を過ごすことが重要であるという認識のもとで、高齢者の健康不安に対して、健康づくりや介護予防活動を進めている。具体的な取り組みは、「生涯を通じた健康づくりの推進」、「健康に関する情報提供・意識の啓発」、「健康づくり推進活動の支援」、「食育の推進」、「健康診査の充実」、「介護予防の推進」である。

さらに、同計画は、福祉サービスの基盤整備を進めている。生涯を通じて諮問の誰もが安心した生活を送ることができるよう、必要な福祉サービスを必要なときに適切に利用できるように基盤整備することを重要視している。さらに、サービスの量的拡充、サービスの質の向上、サービスの適正化を図り、よりよい福祉サービスを提供することが掲げられている。高齢者に対しては、介護予防・生活支援サービスを必要とする高齢者が生涯を通じて在宅で安心して暮らせるよう、デイサービスやショートステイ、配色、介護用品、日常生活用具等の給付、訪問理美容サービス等の高齢者福祉サービスの充実を図っている。

(3) 介護予防サービスの内容

坂道の多い地域で生活する高齢者にとって、日常生活の中で適度な運動を行うことにより介護予防に繋がっていると考えられる。近年、政府は、増加する社会保障費を抑制させるための施策として医療や介護の予防を積極的に取り組んでおり、高齢者も健康を保つことができることから関心が高いといえる。

介護保険制度による介護予防サービスは、要支援１・２と認められた介護認定者が受けることができる。このサービスの内容^{vii}は、介護予防訪問介護（ホームヘルプ）、介護予防訪問入浴介護、介護予防訪問看護、介護予防訪問リハビリテーション、介護予防居宅療養管理指導、介護予防通所介護（デイサービス）、介護予防通所リハビリテーション（デイケア）、介護予防短期入所生活介護（ショートステイ）、介護予防短期入所療養介護（ショートステイ）、介護予防特定施設入居者生活介護、介護予防福祉用具貸与、特定介護予防福祉用具購入費の支給、介護予防住宅改修費の支給である。

このようなサービス内容を職種別に具体的にみる。看護師は、主治医の指示により、血圧・脈拍などの健康チェック、床ずれの予防や処置、機能訓練等を行う。理学療法士や作業療法士等は、主治医の指示により、マッサージ、運動、手先の訓練、作業補装具の利用による機能訓練等を行う。介護士は、食事、入浴、通院の付き添い等を行う。

福祉用具や住宅改修について具体的にみる。福祉用具は、歩行器、スロープ、手すり、入浴補助用具等である。住宅改修は、廊下・階段・浴室・トイレ等の手すり設置、引き戸への扉の取替え、洋式便器等への便器の取替え、段差解消のためのスロープ設置、滑り防止のための床または通路面の材料の変更である。

坂道の多い地域で生活する高齢者にとって介護保険制度による介護予防サービスは、利便性の悪さから積極的に利用しないのではないかとと思われる。

5 下関市でのアンケート調査の分析

(1) アンケート調査目的

アンケート調査の目的は、高齢者にとっての生活が困難になっている坂道の多い地域に関して高齢者の健康と医療福祉機関および行政、地域の役割を明らかにすることである。坂道の多い地域は、日常から平地に比べて傾斜地を上り下りすることから運動量が多く、日常生活による健康増進が行われているのではないかと考えられる。先に述べたリハビリテーションと坂道との関連や専門職がクライアントのニーズを把握する必要性について明らかにすることができる。また、介護保険制度での介護予防と坂道での健康管理との関連についても専門職の立場から明らかにできる。

(2) アンケート調査方法および調査対象、調査実施時期

本アンケート調査は、坂道の多い地域で生活する高齢者に関して専門職の視点からみたものである。調査方法は、質問紙の配布によるアンケート調査を行った。調査対象は、A医療・福祉機関に勤務している看護師、介護士（介護福祉士およびホームヘルパー）、理学療法士および作業療法士である。アンケート調査用紙は、機関を通じて297人に配布した。調査は2009年3月に実施した。

(3) 調査項目

本アンケート調査で対象としたのは、調査対象者の属性としては、a. 性別、b. 年齢、c. 職種、d. 坂道の多い地域での居住歴、e. 坂道の多い地域居住者の知人の有無の5項目である。調査項目は、大別して3つである。その3つは、1. 坂道の多い地域で生活している高齢者についての認識、2. 平地で生活する高齢者と比べた高齢者の現状認識、3. 平地で生活する高齢者と比べた医療および福祉機関や行政の役割についてである。

坂道の多い地域で生活している高齢者についての認識については、f. 健康維持、g. 危険度、h. リハビリ、i. 医療および介護予防、j. 生活知識である。平地で生活する高齢者と比べた高齢者の現状認識については、k. 健康、l. 健康意識、m. 日常生活、n. バリアフリー、o. 講習会、p. 利便性、q. 自家用車乗り入れの利便性、r. 改築改修、s. 助け合いである。平地で生活する高齢者と比べた医療および福祉機関や行政の役割については、t. 医療および福祉機関の通院支援、u. 医療および福祉機関の居住情報収集、v. 医療および福祉機関の医療および介護予防支援、w. 医療および福祉機関の相談支援、x. 行政の健康づくり支援、y. 救急車および介護車両乗り入れ、z. 助け合いの必要性である。

調査項目は、以上26項目である。

(4) 調査結果（属性）

アンケート調査用紙の回収枚数は297枚であり、回収率100%である。

属性について集計をみる。ⁱⁱⁱ 性別は、女性274人（92.3%）、男性23人（7.7%）である。年齢は、20歳代37人（12.5%）、30歳代54人（18.2%）、40歳代67人（22.6%）、50歳代99人（33.3%）、60歳代以上39人（13.1%）である。職種は、看護師116人（39.1%）、介護士161人（54.2%）、理学療法士・

作業療法士13人（4.4％）である。

現在および以前に、坂道の多い地域に住んだことがあるかについては、ある149人（50.2％）、ない138人（46.5％）である。あなたの周りの高齢者の中で、坂道の多い地域に住んでいる人を知っているかについては、知っている144人（48.5％）、知らない149人（50.2％）である。

さらに詳しく属性項目をみるために属性のクロス表を示す。

表1 年齢と職種のクロス表（人）

		職種			合計
		看護師	介護士	理学療法士・作業療法士	看護師
年齢	20歳代	10	26	1	37
	30歳代	19	27	7	53
	40歳代	31	31	3	65
	50歳代	40	53	2	95
	60歳代以上	16	23	0	39
	合計	116	160	13	289

表1をみると、看護師、介護士ともに50歳代以上の割合がそれぞれ48.3％、47.5％であり、ほぼ半数を占めている。調査対象者は、比較的年配であることがわかる。

表2 坂道居住と坂道居住知人のクロス表（人）

		坂道居住知人		合計
		知っている	知らない	知っている
坂道居住	ある	107	40	147
	ない	32	104	136
合計		139	144	283

表2より現在および以前に、坂道の多い地域に住んだことがあり、坂道の多い地域に住んでいる人を知っている人は、107人おり全体の37.8％であることがわかる。現在および以前に、坂道の多い地域に住んだことがなく、坂道の多い地域に住んでいる人を知らない人は、104人である全体の36.7％である。

(5) 調査結果 1

坂道の多い地域で生活している高齢者について5項目について質問した。

坂道は健康維持に役立つと思うかの質問についての調査結果は、大変思う23人（7.7％）、少し思う76人（25.6％）、ふつう50人（16.8％）、あまり思わない121人（40.7％）、全く思わない27人（9.1％）である。

坂道は高齢者にとって危険と思うかの質問についての調査結果は、大変思う195人（65.4％）、少し思う89人（29.9％）、ふつう11人（3.7％）、あまり思わない1人（0.3％）、全く思わない0人（0.0％）である。

坂道はリハビリに役立つと思うかの質問についての調査結果は、大変思う 4 人（1.3%）、少し思う 83 人（27.9%）、ふつう 58 人（19.5%）、あまり思わない 123 人（41.3%）、全く思わない 29 人（9.7%）である。

坂道は医療および介護予防に役立つと思うかの質問についての調査結果は、大変思う 4 人（1.3%）、少し思う 59 人（19.8%）、ふつう 45 人（15.1%）、あまり思わない 146 人（49.0%）、全く思わない 38 人（12.8%）である。

坂道での生活についての知識を得るべきだと思うかの質問についての調査結果は、大変思う 73 人（24.5%）、少し思う 114 人（38.3%）、ふつう 53 人（17.8%）、あまり思わない 44 人（14.8%）、全く思わない 7 人（2.3%）である。

以上の結果より、次のようなことがいえる。坂道は、高齢者にとって危険であると思われ、健康維持、リハビリ、介護予防に役立たないと思っている専門職の人が多いといえる。高齢者は、坂道の多い地域でどのような点に気をつけながら生活をしなければならないのか知っておくことが必要である。坂道は、高齢者にとって日常生活で健康を保つことができる身近な運動になるとはいえないと専門職は考えている。

(6) 調査結果 2

坂道の多い地域で生活している高齢者は平地で生活する高齢者と比べてどうかについて 9 項目質問した。

高齢者は健康だと思うかの質問についての調査結果は、大変思う 27 人（9.1%）、少し思う 85 人（28.6%）、ふつう 87 人（29.3%）、あまり思わない 86 人（29.0%）、全く思わない 8 人（2.7%）である。

高齢者自身の健康に対する意識は高いと思うかの質問についての調査結果は、大変思う 35 人（11.8%）、少し思う 73 人（24.6%）、ふつう 107 人（36.0%）、あまり思わない 72 人（24.2%）、全く思わない 6 人（2.0%）である。

日常生活（買い物等外出）はしやすいと思うかの質問についての調査結果は、大変思う 22 人（7.4%）、少し思う 9 人（3.0%）、ふつう 24 人（8.1%）、あまり思わない 136 人（45.8%）、全く思わない 102 人（34.3%）である。

屋外のバリアフリー（手すり・スロープ等）は進んでいると思うかの質問についての調査結果は、大変思う 4 人（1.3%）、少し思う 42 人（14.1%）、ふつう 49 人（16.5%）、あまり思わない 152 人（51.2%）、全く思わない 46 人（15.5%）である。

健康づくりの講習会等に参加すべきだと思うかの質問についての調査結果は、大変思う 39 人（13.1%）、少し思う 109 人（36.7%）、ふつう 102 人（34.3%）、あまり思わない 34 人（11.4%）、全く思わない 1 人（0.3%）である。

通院および通所時の利便性は良いと思うかの質問についての調査結果は、大変思う 4 人（1.3%）、少し思う 12 人（4.0%）、ふつう 59 人（19.9%）、あまり思わない 156 人（52.5%）、全く思わない 55 人（18.5%）である。

高齢者の自家用車乗り入れは便利だと思うかの質問についての調査結果は、大変思う 21 人

(7.1%)、少し思う28人 (9.4%)、ふつう80人 (26.9%)、あまり思わない112人 (37.7%)、全く思わない48人 (16.2%) である。

高齢者住宅としての改築および改修はされていると思うかの質問についての調査結果は、大変思う2人 (0.7%)、少し思う19人 (6.4%)、ふつう54人 (18.2%)、あまり思わない180人 (60.6%)、全く思わない33人 (11.1%) である。

民生委員等の組織によりお互いが助け合っていると思うかの質問についての調査結果は、大変思う3人 (1.0%)、少し思う20人 (6.7%)、ふつう91人 (30.6%)、あまり思わない141人 (47.5%)、全く思わない33人 (11.1%) である。

以上の結果から、次のようなことがいえる。坂道の多い地域で生活している高齢者は、健康状態も健康に対する意識も平地での生活する高齢者と変わらないと専門職の人は思っている。しかも、買い物等の日常生活は不便であり、道路および階段等の手すりやスロープによるバリアフリーは進んでいない。高齢者の自家用車による移動は困難であり、通院や通所の利便性も悪いといえる。このことは、医療や介護や必要であっても医療福祉機関への訪問を控える可能性があるといえる。さらに、民生委員等の組織による助け合いがあまり行われておらず、健康を自分自身で管理するため健康作りの講習会等に参加する必要性があると考えられている。

(7) 調査結果 3

坂道の多い地域で生活している高齢者は平地で生活する高齢者と比べて、医療および福祉機関や行政はどうすべきかについて7項目質問した。

医療および福祉機関は、高齢者の通院支援を行うべきだと思うかの質問についての調査結果は、大変思う91人 (30.6%)、少し思う130人 (43.8%)、ふつう51人 (17.2%)、あまり思わない15人 (5.1%)、全く思わない1人 (0.3%) である。

医療および福祉機関は、高齢者の居住情報収集を行うべきだと思うかの質問についての調査結果は、大変思う105人 (35.4%)、少し思う120人 (40.4%)、ふつう52人 (17.5%)、あまり思わない12人 (4.0%)、全く思わない0人 (0.0%) である。

医療および福祉機関は、高齢者の医療および介護予防支援を行うべきだと思うかの質問についての調査結果は、大変思う119人 (40.1%)、少し思う104人 (35.0%)、ふつう58人 (19.5%)、あまり思わない9人 (3.0%)、全く思わない0人 (0.0%) である。

医療および福祉機関は、高齢者の相談援助を行うべきだと思うかの質問についての調査結果は、大変思う137人 (46.1%)、少し思う102人 (34.3%)、ふつう47人 (15.8%)、あまり思わない5人 (1.7%)、全く思わない0人 (0.0%) である。

行政は健康づくり支援を行うべきだと思うかの質問についての調査結果は、大変思う91人 (30.6%)、少し思う127人 (42.8%)、ふつう59人 (19.9%)、あまり思わない12人 (4.0%)、全く思わない2人 (0.7%) である。

救急車および介護車両の乗り入れは便利だと思うかの質問についての調査結果は、大変思う24人 (8.1%)、少し思う41人 (13.8%)、ふつう77人 (25.9%)、あまり思わない98人 (33.0%)、全く思

わない51人（17.2％）である。

民生委員等の組織によりお互いが助け合う必要性はあると思うかの質問についての調査結果は、大変思う138人（46.5％）、少し思う89人（30.0％）、ふつう51人（17.2％）、あまり思わない10人（3.4％）、全く思わない2人（0.7％）である。

以上の結果から、次のようなことがいえる。医療および福祉機関の専門職は、平地で生活する高齢者に比べ、坂道の多い地域で生活している高齢者に対し、どのような生活をしているのかについて知る必要性を感じている。さらに、相談業務を行うことでニーズ把握を行い、通院や医療介護予防支援を行うべきであると専門職の人は考えている。また、行政においても、より一層の健康づくり支援を行うことが求められている。

また、救急車および介護車両の乗り入れは不便であり、緊急的な医療や日常的な介護支援に支障をきたしている懸念がある。このような生活環境の中で高齢者の自立した生活を支えるために、地域の助け合いは、平地に比べ必要性が求められている。

6 おわりに

全国的に都市の高齢化が問題になってきている。この問題は、1970年代の地域政策の弊害による影響も多くあると考えられる。都市に人口が密集し住宅用地の開発が行われ、利便性の悪い地域や集合住宅で生活を行ってきたのである。当時30代前後であった者が、40年を経過し生じた高齢化問題である。このような地域での生活は、健康である世代では不自由を感じることがなかったが、高齢になるにつれ不自由さを実感することになると思われる。

本研究にあたり、坂道は日常生活での健康管理に役立つと考えていた。そして、医療福祉専門職や行政や地域住民と高齢者が一体となることは、平地で住む高齢者と変わりなく行えると考えていた。しかし、医療福祉専門職は、決して坂道が高齢者にとって健康の面で良いものではなく、逆に危険な地域であると認識している。さらに、医療福祉機関や行政、地域組織が高齢者支援を強固に行うべきであると考えていた。この結果は、坂道で生活する高齢者に対するサポートのあり方を再考する必要性があることを示している。

今後の研究課題として、年齢別、専門職別、地域認識別などの分析を行い、専門職別による坂道の多い地域で生活する高齢者のとらえ方を明らかにしたい。

-
- i 大野晃『山村環境社会学序説－現代山村の限界集落化と流域共同管理』農山漁村文化協会 2005年
 - ii 池田清「限界コミュニティと日本型「補完性原則」－自助・共助・公助論の一考察」都市問題研究 第60巻第5号 2008年5月
 - iii 杉田聡『買物難民－もうひとつの高齢者問題』大月書店 2008年
 - iv 上田敏『目で見えるリハビリテーション医学』第2版 東京大学出版 1994年
 - v 一番ヶ瀬康子監修『リハビリテーション介護とは何か』一橋出版 1999年

- vi 下関市『下関市地域福祉計画』下関市 2008年
- vii 下関市『介護保険のサービスガイドー介護予防編』下関市 2007年
- viii 各項目の割合は、欠損値の割合を含んで計算している。

『坂道の多い地域で生活する高齢者に関する意識調査』

2009年3月実施

＜調査目的＞

高齢者にとっての生活が困難になっていると言われる地域として坂道の多い地域があげられます。そこで、この地域に関して高齢者の健康と医療福祉機関・行政・地域の役割とは何かについて医療・福祉機関従事者へのアンケート調査で明らかにします。坂道の多い地域とは、急勾配や階段の多い地域をイメージしてください。

本アンケートは、機関および個人を特定せず、結果においても研究以外に使用することはありません。つきましては、日頃感じられていることを率直にお答え頂ければ助かります。

＜設問＞該当する番号に○をつけてください。

問1 アンケート回答者ご自身についてお聞きします。

(1) 性別はどちらですか？

1. 女性 2. 男性

(2) 何歳代ですか？

1. 10歳代 2. 20歳代 3. 30歳代 4. 40歳代 5. 50歳代 6. 60歳代以上

(3) 職種は何ですか？

1. 看護師 2. 介護士(介護福祉士およびホームヘルパー) 3. 理学療法士および作業療法士

(4) 現在および以前に、坂道の多い地域に住んだことはありますか？

1. ある 2. ない

(5) あなたの周り的高齢者の中で、坂道の多い地域に住んでいる方を知っていますか？

1. 知っている 2. 知らない

(問2以降の回答に際しては、ご存じの現状かまたはご自分のイメージでお答えください。)

問2 坂道の多い地域で生活している高齢者についてお聞きします。

(1) 坂道は健康維持に役立つと思いますか？

1. 大変思う 2. 少し思う 3. ふつう 4. あまり思わない 5. 全く思わない

(2) 坂道は高齢者にとって危険だと思いますか？

1. 大変思う 2. 少し思う 3. ふつう 4. あまり思わない 5. 全く思わない

(3) 坂道はリハビリに役立つと思いますか？

1. 大変思う 2. 少し思う 3. ふつう 4. あまり思わない 5. 全く思わない

(4) 坂道は医療および介護予防に役立つと思いますか？

1. 大変思う 2. 少し思う 3. ふつう 4. あまり思わない 5. 全く思わない

(5) 坂道での生活についての知識を得るべきだと思いますか？

1. 大変思う 2. 少し思う 3. ふつう 4. あまり思わない 5. 全く思わない

問 3 坂道の多い地域で生活している高齢者は、平地で生活する高齢者と比べてどうかお聞きします。

(1) 高齢者は健康だと思いますか？

1. 大変思う 2. 少し思う 3. ふつう 4. あまり思わない 5. 全く思わない

(2) 高齢者自身の健康に対する意識は高いと思いますか？

1. 大変思う 2. 少し思う 3. ふつう 4. あまり思わない 5. 全く思わない

(3) 日常生活(買い物等外出)はしやすいと思いますか？

1. 大変思う 2. 少し思う 3. ふつう 4. あまり思わない 5. 全く思わない

(4) 屋外のバリアフリー(手すり・スロープ等)は進んでいると思いますか？

1. 大変思う 2. 少し思う 3. ふつう 4. あまり思わない 5. 全く思わない

(5) 健康づくりの講習会等に参加すべきだと思いますか？

1. 大変思う 2. 少し思う 3. ふつう 4. あまり思わない 5. 全く思わない

(6) 通院および通所時の利便性は良いと思いますか？

1. 大変思う 2. 少し思う 3. ふつう 4. あまり思わない 5. 全く思わない

(7) 高齢者の自家用車乗り入れは便利だと思いますか？

1. 大変思う 2. 少し思う 3. ふつう 4. あまり思わない 5. 全く思わない

(8) 高齢者住宅としての改築および改修はされていると思いますか？

1. 大変思う 2. 少し思う 3. ふつう 4. あまり思わない 5. 全く思わない

(9) 民生委員等の組織によりお互いが助け合っていると思いますか？

1. 大変思う 2. 少し思う 3. ふつう 4. あまり思わない 5. 全く思わない

問 4 坂道の多い地域で生活している高齢者に対して、平地で生活する高齢者と比べて、医療および福祉機関や行政はどうすべきかお聞きします。

(1) 医療および福祉機関は、高齢者の通院支援を行うべきだと思いますか？

1. 大変思う 2. 少し思う 3. ふつう 4. あまり思わない 5. 全く思わない

(2) 医療および福祉機関は、高齢者の居住情報収集を行うべきだと思いますか？

1. 大変思う 2. 少し思う 3. ふつう 4. あまり思わない 5. 全く思わない

(3) 医療および福祉機関は、高齢者の医療および介護予防支援を行うべきだと思いますか？

1. 大変思う 2. 少し思う 3. ふつう 4. あまり思わない 5. 全く思わない

(4) 医療および福祉機関は、高齢者の相談援助を行うべきだと思いますか？

1. 大変思う 2. 少し思う 3. ふつう 4. あまり思わない 5. 全く思わない

(5) 行政は、健康づくり支援を行うべきだと思いますか？

1. 大変思う 2. 少し思う 3. ふつう 4. あまり思わない 5. 全く思わない

(6) 救急車および介護車両の乗り入れは便利だと思いますか？

1. 大変思う 2. 少し思う 3. ふつう 4. あまり思わない 5. 全く思わない

(7) 民生委員等の組織によりお互いが助け合う必要性はあると思いますか？

1. 大変思う 2. 少し思う 3. ふつう 4. あまり思わない 5. 全く思わない

＜自由記述＞ 坂道の多い地域で生活している高齢者についてご意見およびご感想がございましたら、何でも書きください。一言でも書いて頂けると幸いです。

みなさま、お忙しい中ご協力ありがとうございました。感謝いたします。

執筆者紹介

執筆者

石塚 優（北九州市立大学 教授） 第1章（I 調査地の概要を除く）
渡辺 良司（北九州市社会福祉協議会福祉部長） 第1章 I 調査地の概要
山下 厚生（北九州社会教育・生涯学習研究会事務局長） 第2章
難波 利光（下関市立大学准教授） 第3章

以上 執筆順

（所属は平成21年3月1日現在）

関 門 地 域 研 究 第18号

平成21年3月31日 発行

発行所 関門地域共同研究会

〔平成20年度事務局〕

北九州市立大学都市政策研究所

〒802-8577 北九州市小倉南区北方4丁目2-1

☎ 093(964)4302 FAX 093(964)4300

印刷所 よしみ工業株式会社